



TOHOKU
UNIVERSITY

ISSN 2189-9517

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2018



東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2018

目 次

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	9
5. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	10
(2) 運営部門	10

II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	11
(2) 教育内容開発部門	11
(3) 学生支援開発部門	12
(4) 教養教育院	12
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	14
(2) 大学教育支援センター	15
(3) 入試センター	18
(4) 言語・文化教育センター	20
(5) グローバルラーニングセンター	23
(6) 学際融合教育推進センター	25
(7) 学習支援センター	26
(8) キャリア支援センター	28
(9) 学生相談・特別支援センター	30
(10) 保健管理センター	32
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	34

III 平成30年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	37
2. 刊行物一覧	42
3. 教員の活動	43

IV 資料編

1. 統計データ	129
2. 外部資金獲得状況	139
3. 共同研究員受入状況	139
4. 研究業績による受賞	140
5. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	141
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	143
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	144
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	145
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	146
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	146
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	147

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2018」をお届けします。

本学は、2014年4月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための中核と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の4部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3部門9室、1院）と11の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2018年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個々人の活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

昨年度には機構発足後のこれまでの活動についての自己評価報告を作成し、かつ、学内外からの識者をお招きした外部評価を実施しました。これまでの機構の活動について、一定の評価をいただくとともに、今後の活動への期待を頂戴しました。全学教育改革や高大接続入試改革、さらには学生支援への期待の高まる中であって、本機構の果たすべき使命を再確認する機会となりました。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

令和元年8月

高度教養教育・学生支援機構長 滝澤博胤

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【部局のミッション（基本理念・使命）】

- 高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としています。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

- 私たちは、基本理念を更に発展させるため、機構教職員の協力・連携を強め、高大接続からキャリア支援に至る学生の修学・自己開発・進路選択のプロセスを一貫して支援するというコンセプトの下に、研究開発と実践を進めます。
- 私たちは、知識基盤社会に対応して世界をリードする教養教育のビジョンを打ち出し、基礎教養教育から専門教育・高度教養教育へと至る教育の体系化を進め、学部・研究科・研究所および教育研究支援組織と協力して、その実現に貢献します。
- 私たちは、留学生の戦略的受入れと海外研鑽プログラムの充実等に努め東北大学のグローバルな修学環境の整備・充実に中心的な役割を果たします。
- 私たちは、教育から学習へという大きな大学教育観の転換を踏まえ、高大連携、初年次教育、学習支援など多様な教育・学習のツール開発と、総合的にこれらを推進する教員個人、科目レベル、機関レベルの教育・学習マネジメントの研究開発を進め、東北大学における教育マネジメントの強化に寄与し、教職員個人の能力を高めることに貢献し、世界的な研究総合大学の教育拠点の形成に寄与します。

【重点戦略・展開施策】

1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

環境・安全保障・エネルギー・民族紛争など現代社会が抱えるグローバルな諸問題を解決する人材を育成するためには、高い専門性と分野を超えた全球的鳥瞰力を備え、生涯にわたって主体的に学び続ける人材像を明確にし、その能力を培う教育内容・方法およびシステムの全面的な改革と転換が必要です。正課教育のみならず、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化が求められます。外部資金の獲得・活用も含め、世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を推進します。

2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

本機構（旧高等教育開発推進センター）が開発し、既に具体的な成果を上げつつある英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、リーディング力やリスニング力養成とともに、発音指導やスピーキング指導をも視野に入れたCALL教育の教材と指導法を開発します。4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進します。

3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

幅広い教養や専門教育のための基礎教育としての全学教育に加え、ディシプリンにとらわれることのない意識を育み、多次元的な視野を育成するための科学教育を推進し、「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育、社会全体を支え、発展させてきたアスリート、芸術家、職人などによる多様な「実践知」を加え、これらの多様な「知」を大学教育の場面に導入し、学生の世界観と認識を深化させる新たな高度教養教育を開発・推進します。

4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付けることとともに、人類社会を支える普遍的な価値観を育て、共有する学生を育てます。多様な国際共修の取組を基に、日本を近現代アジアの中に位置付けた歴史像の構築と教材化など内容開発を進め、英語による授業を提供するなど、各大学での共通の指針となるような取組を進めます。異文化理解、外国語能力の更なる涵養を目指して、本機構の外国語教員の専門性を活かした「外国語による教養科目の授業」の開講を全学教育開講科目類・群を対象として進めます。

5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

国境を越えた学生交流を進めるため、本学のエデュケーション国際交流戦略を策定し、留学生の受入れの促進のため多様な魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させます。また、グローバル化した時代における教育カリキュラムと連動した質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させます。

6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的学生の支援を推進します。そのために、①心身発達と自己像の形成支援（キャリア教育、メンタルヘルスケア、生活習慣の指導、課外・ボランティア活動）、②基本的健康管理（定期健康診断、特殊健康診断）、③グローバルな視点からの感染管理（結核、鳥インフルエンザ等）、④学生が対峙する危機への介入と支援（学生相談）、⑤特別支援を要する学生への援助（発達障害・身体障害、留学生等への支援）、⑥自分の将来像の構築への支援（キャリア支援）の諸支援を総合し、全学連携的な支援体制の構築と推進を行います。

7. 東北大学型 A0 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

大学入試システムでは、①社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、②実施負担の抑制・軽減、③高等学校教育、入学後の専門分野、卒後の職業キャリアへと連なる合理的接続を保証するため、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進めます。また、青年前期の人間性、素質・能力、将来の可能性など「柔らかい」特徴把握を、理論と実践両面からの研究・試行によって進め、諸外国の多様な方法論の調査・検討、先端的な心理学的測定法の応用、人格の深いレベルでの評価を含む縦断的調査研究を実施し、高等学校や他大学との共同研究を行い、東北大学のコア・アイデンティティを担っている人々との協働の取組を、機構および各部局（学部・大学院）との協力によって推進します。

8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、大学院生・新任教員・中堅教員・シニア教員など各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進します。

また、東北大学をはじめとする日本の大学における教育・学習マネジメントの強化を通じて、グローバル化に対応した日本の高等教育の構築に寄与します。特に、世界水準の大学教育を推進するために、アカデミック・リーダーの専門性を高めるプログラムを開発・試行します。

3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
(前文) 部局の基本的な目標 高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としており、その使命を遂行するために、以下の具体的目標を掲げている。 1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進 世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を外部資金の獲得・活用も含めて推進する。 2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進 英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進する。 3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進 「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展とともに、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育などの新たな高度教養教育を開発・推進する。 4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進 人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付ける国際共修の取組を進める。 5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実 留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させる。また、質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させる。 6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進 社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的学生の支援を推進する。 7. 東北大学型AO入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ 社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、実施負担の抑制・軽減、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進める。 8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援 研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進する。	

◆ 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 【I】は、対応する全学の中期計画	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1 教育に関する目標 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 1. 【1】学部・研究科及び教育・学習支援組織と連携し、学士課程・大学院教育を通じて高度教養教育を研究開発・実施し、学生を現代社会に対応したリテラシーとキィ・コンピテンシーを身に着け、教養ある専門性を備えた市民に成長させる。 2. 【4】高度教養教育と専門教育との密接な連携の下で、学部・大学院の一貫した教育プログラムを実践し、多様なキャリアパス教育を進め、学生が主体的に自己決定し、社会に巣立つ基盤を作る。 3. 【6】高度教養教育・学生支援機構各部門、センターの活動をエクステンションとして発信する。 (2) 教育の実施体制等に関する目標 1. 【8】部局及び教育・学習支援組織が一体となって、効果的な教育・学習を実施し、多様な学生の能力を引き出すために、教学 IR 機能を強化・確立する。 2. 【9】教育・研究・実務の各種業務を遂行でき、高度教養教育・学生支援機構の使命を達成できる、国籍、年齢、ジェンダーなど多様でポテンシャルの高い教員集団を形成する。 3. 【12】高度教養教育・学生支援機構の特質を活かし、教育関係共同利用拠点などを通じて、日本の大学全体の教育機能強化に貢献する。 (3) 学生への支援に関する目標 1. 【14】すべての学生が、心身ともに健康な学生生活を送れるように、多様な学生のニーズに応じた個別支援及び全学的支援連携体制を強化する。	1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 1-1. 世界的な高等教育改革の研究を進め、部局、教育・学習支援組織と連携して、グローバル化社会にふさわしい高度教養教育の理念、カリキュラム、教育内容、アクティブ・ラーニングなど教育・学習方法の体系的な開発・提供を行う。 2-1. 高度教養教育・学生支援機構が現在提供しているキャリア関係科目の評価点検を行い、内容の精査と高度化を図り、初年次から大学院博士課程まで視野に入れたキャリア教育関係科目の提供を行う。 3-1. 拠点活動の成果を社会に還元するために、「アカデミック・リーダー育成プログラム」を継続して実施し、平成33年度までに全国の大学等からの修了者を拡大し、ワークショップ・成果報告会・出版などを行う。 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 1-1. 学務審議会、IR 室、評価分析室等との協働の下、学生の人格的発達を含む学習成果を測定し、教育・学習支援の効果と課題が明確になる全学的な教育・学習マネジメント体制を構築し、教育改革の推進を支援する。 1-2. 高度教養教育・学生支援機構の部門・センターがそれぞれの特色を生かして授業科目の開発と提供を行い、体系的な高度教養教育を組織的に推進するために、機構内に高度教養教育推進の責任体制を確立する。 2-1. 高度教養教育・学生支援機構の使命と目標に沿い、多様でモラルと能力の高い教員集団を形成するために、能力と業績を踏まえた昇任を進めるなど、採用・昇進・研修の人事政策と教育研究支援を体系的かつ戦略的に推進する。 3-1. キャリアステージに対応して教員に必要な能力の育成を図る PD プログラムを持続的に開発・提供するとともに、国内外の大学・学術団体等と連携し、語学教育及び数理学教育の指導力を育成するプログラムを開発し、提供する。 3-2. 日本の大学教育の水準向上に寄与するために、学内機関とも連携した教育関係共同利用拠点の新たな認定や、全国の拠点等、大学教職員の能力開発組織と連携して、全国的な大学教育開発のネットワークを形成し、プログラム等の共同開発・相互提供を進める。 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置 1-1. 多様な学生のニーズに応じた支援活動をより発展させるために、学生相談や特別支援等に関するピアサポートを含めた個別支援、及び各部局との連絡会議の強化を含めた全学的連

2. 【15】総合的体系的なキャリア支援を進めることで、学生が広い視野と展望をもって東北大学で培った能力を活かし発展させ、社会で活躍し、意義のある進路を選択し、実現できることを目指す。	携体制を整備・充実させる。さらにバリアフリー化を含めた学生支援の質の向上、及びメンタルヘルスやハラスメント防止等に関する予防活動を推進する。 2-1. キャリア開発室が、臨床教育開発室、臨床医学開発室、国際化教育開発室、部局及び教育・学習支援組織と連携し、日本人・留学生・社会人・女子学生・特別な支援を要する学生など多様な学生のニーズと生涯を通じたキャリア形成に効果的な支援を体系的に進める。 2-2. イノベーション創発塾の規模を拡大し、知的財産、アントレプレナーシップなど大学院博士レベルの専門性を活かす科目を開発・提供する。
(4) 入学者選抜に関する目標 1. 【17】【18】アドミッションポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。	(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置 1-1. 学部と連携し、A0 入試や特別入試などの多様な入試を拡大して全入学者に占める A0 入試等の募集人員・入学者の割合を30%程度に引き上げる。このために入試センターの体制を整備して機能を強化し、A0 入試等の実施主体である学部に対し全学的支援を強化するとともに、入試説明会、進学説明会をはじめとした入試広報活動を一層広範活発に実施し、オープンキャンパスや高校訪問など学部の広報活動を支援する。 1-2. 学部と連携し、国内外から受験するグローバル人材育成のための入試を導入・拡大するとともに、優秀な受験者を獲得するための様々な広報活動、英語ウェブページの改善、海外拠点を利用したリクルート活動、海外の教育課程を踏まえた柔軟な入学者選抜方法の改善のための調査研究などを展開する。 1-3. 平成 32 年度から実施予定とされる大学入試センター試験に代わる新テストに連動した「多面的・総合的な」個別選抜のあり方について、追跡調査をはじめとした入試データの分析、国内外調査、高校との連絡協議などによる調査研究を行い、その成果をもとに新たな選抜方式を企画・実施する。
2 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 1. 【19】【20】高度教養教育及び学習・学生支援に関する先導的研究を推進し、実践を支える理論を国際的な水準で発展させる。 (2) 研究実施体制等に関する目標 1. 【31】国際的なネットワークと連携し、国内の研究拠点を形成する。	2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 1-1. 高等教育研究、高等教育国際化論、専門分野の教育論、語学教育論、学生発達論、臨床医学、臨床心理など高度教養教育及び学習・学生支援を支える先端的研究を推進し、理論と実践双方を深化させ、国内外に発信する。 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置 1-1. 高等教育のグローバル化に対応した研究を国内外の高等教育研究者・機関と連携して推進し、日本における高度教養教育及び学習・学生支援を支える先端的研究拠点を形成する。 1-2. 客員教授・研究員制度を活用し、高度教養教育・学生支援機構を支える先端的研究の国際的ネットワークの強化を図るとともに、サバティカル制度などによる若手教員の能力開発を支援する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 1. 【35】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かした社会連携と社会貢献活動を推進する。 4 災害からの復興・新生に関する目標 1. 【37】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かし、東日本大震災からの復興・再生を支援する。 5 その他の目標 (1) グローバル化に関する目標 1. 【42】【43】【44】【45】学生の流動性を促進する双方向の海外留学プログラムを拡充するとともに、グローバルな修学環境の整備や教育プログラムの充実を行い、東北大学グローバルイニシアティブ構想を積極的に推進し、グローバル社会における指導的人材の育成を進める。	3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置 1-1. 地方自治体、高校、高等教育機関、民間企業、NPO 法人などと連携し、高等教育フォーラム、理数科教育、英語教育など従来取り組んでいる高大連携事業やPDプログラムの開放を推進し、社会貢献活動を充実させる。 4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置 1-1. 課外・ボランティア活動支援センターを通じて、東日本大震災からの復興・再生の支援を行うほか、心理学、言語学、歴史学、社会倫理学、自然科学等の各分野からの視座を通じて災害復興を目指す授業科目を開発・提供する。 5 その他の目標を達成するための措置 (1) グローバル化に関する目標を達成するための措置 1-1. 国際連携推進機構との協力の下、教育国際交流に資する海外拠点形成や海外有力大学との積極的な協定締結を行い、学生交流を活性化。数週間から1年にわたる多様な双方向の海外留学プログラムの開発・実施を主導し、学生の国際交流を促進する。また、多様な日本語能力を持つ外国人留学生の増加に対応するため、日本語教育体制を強化する。 1-2. Future Global Leadership プログラムをさらに発展させ、外国人留学生に魅力的な学位取得プログラムの開発・実施・支援を行う。また、ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の推進を支援するとともに、国際共同大学院プログラムの推進に協力する。 1-3. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムを継続的に実施し、さらに発展させる。国際共修授業等の異文化理解や実践的なコミュニケーション能力の養成に資する教育プログラムの開発・実施を主導し、学務審議会と連携しグローバルマインドを醸成する授業科目群を設置し、体系化したカリキュラムの構築を図る。また国際社会で活躍するために必要な英語を含む外国語の教育体制を強化する。 1-4. 東北大学グローバルイニシアティブ構想を発展させ、グローバル化の更なる推進のため、業務センター間の連携を格段に進め、取り組みの組織的な強化を図る。
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (1) 組織運営の改善に関する目標 1. 高度教養教育・学生支援機構の組織運営の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい運営を目指す。	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 1-1. 運営の効率と効果を高めるため、機構長補佐会議、教授会議、人事委員会、総務委員会などの各種運営組織や支援業務の点検・評価を行い、改善を行う。 1-2. 教育研究支援組織を確立し、教職員が協力し高度教養教育・学生支援活動に邁進できるよう組織の活性化を目指す。

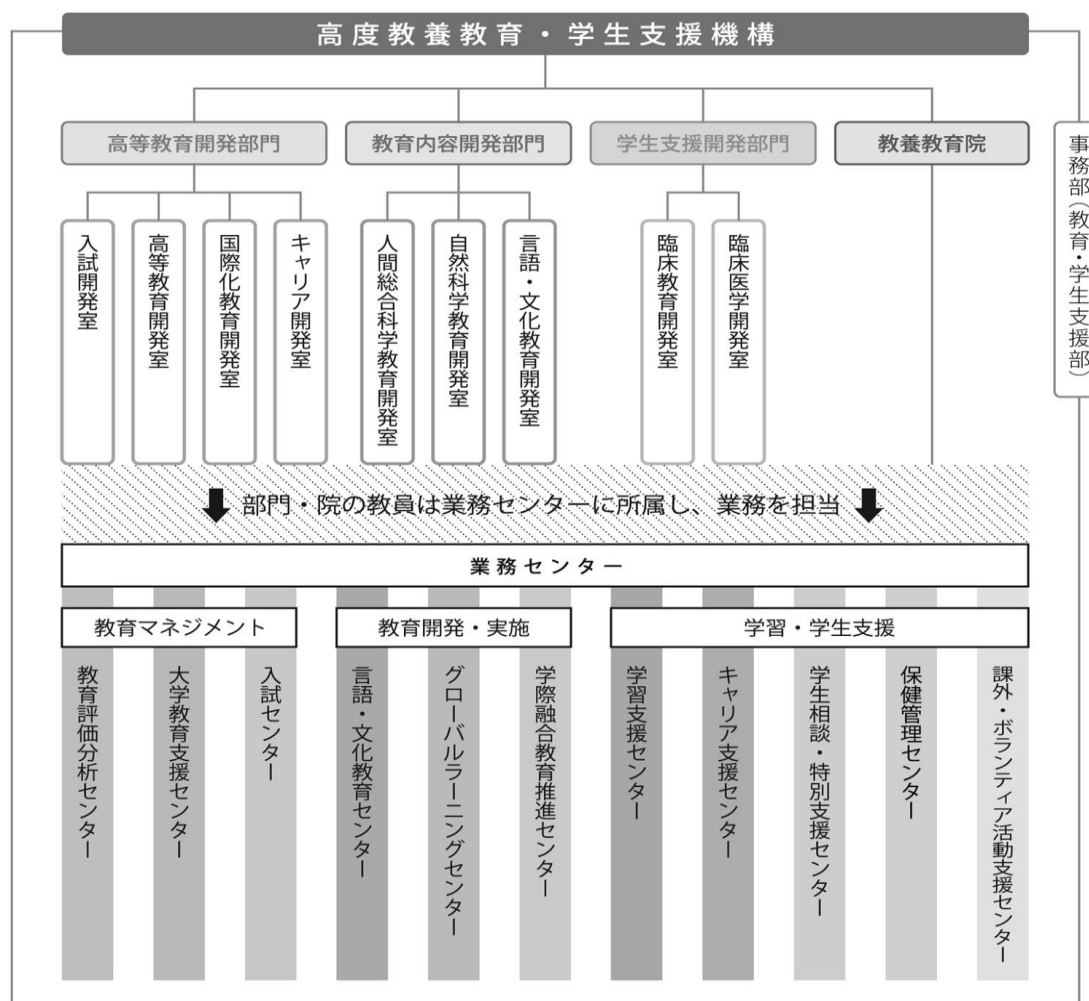
	(2) 教育研究組織の見直しに関する目標 1. 教育研究組織の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい組織の確立を目指す。	(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 1-1. 全学教育および高度教養教育の充実のための活動を継続的に進め、業務センター等の点検・評価を行い、機構の使命を達成するために、必要な内部組織の改革を行う。
Ⅲ	財務内容の改善に関する目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
	1. 科学的合理的な予算を確立し、教育研究の質を向上させるために効果的効率的な運営を目指す。	1-1. 業務センター等多様な組織に対応し、多元的な財源を統合した合理的予算を確立し、効果的効率的な運営を目指す。 1-2. 競争的資金の拡充を図り、機構内での申請支援や情報収集・分析・提供を行うなど外部資金獲得の支援体制を強化する。
Ⅳ	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置
	1. 点検・評価を通じた組織改善の組織文化を醸成する。	1-1. 組織と運営の改善を行い、教員個人及び機構を活性化させるために、個人評価、活動状況の公表、自己点検・評価、外部評価を定期的実施する。
Ⅴ	その他業務運営に関する重要目標	Ⅴ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置
	1 施設設備の整備・活用等に関する目標 1. 高度教養教育と学習・学生支援を深化・発展させるための施設環境を整備する。 2 安全管理に関する目標 1. 教職員・学生が安全で健康的な環境下で教育研究に取り組めるよう安全管理体制の充実を進める。 3 法令遵守に関する目標 1. 法令及び社会規範を守り、高い倫理規範を確立する。 4 その他業務運営に関する重要目標	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 1-1. 東北大学における教育の質の向上やグローバル人材育成を進めるため、機構内のセンター連携を促進させ、高度教養教育を効率的かつ効果的に進めるためのキャンパス施設整備の施策を策定し、課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発を推進し、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化を進める。 2 安全管理に関する目標を達成するための措置 1-1. 学生の国際交流のための危機管理体制の強化、及び感染症や結核に対する感染管理対策を実施するとともに、全学的な環境保全・安全管理に関する計画に協力し、教育研究環境の安全向上に努める。 3 法令遵守に関する目標を達成するための措置 1-1. 本学のコンプライアンス活動を積極的に推進するとともに、多分野にわたる機構構成員が公正な研究活動・研究費の適切な使用を遂行するため、その環境整備を着実に実施する。 4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

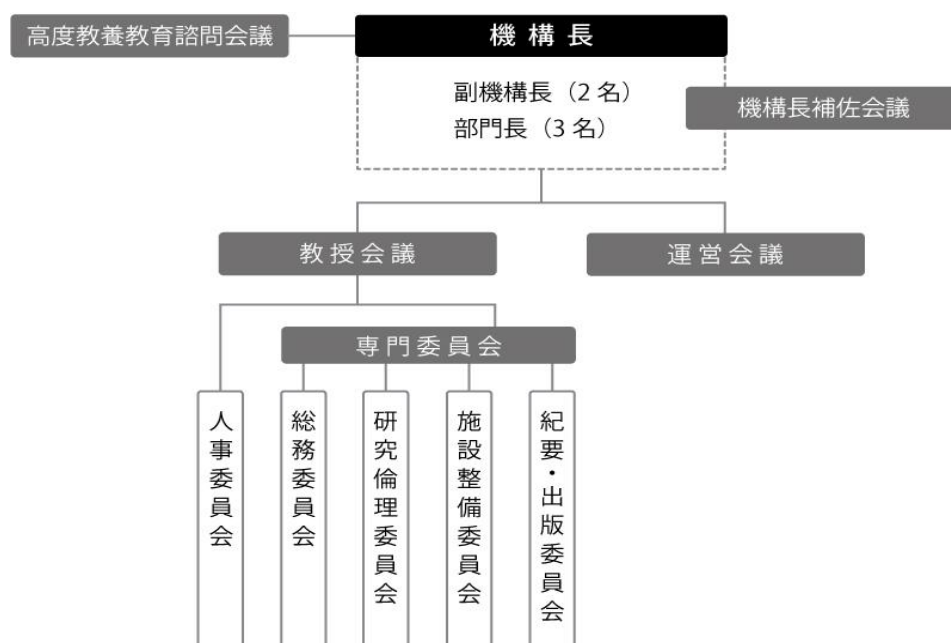
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	高度教養教育・学生支援機構設置。 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。 花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点—大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 32 年度）。
平成 30 年 4 月	滝澤博胤理事・副学長（教育・学生支援担当）が機構長に就任。

5. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1) 組織構成図



(2) 運営部門



Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、AO 入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際共修科目の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育や部局と連携したキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

(2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。主に、人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践とその経験に基づく教育活動およびカリキュラム開発をおこなっている。また、運動生理学の観点からの研究にもとづき、運動生理学の研究成果の授業を担当している。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目「自然科学総合実験」を担当するユニットと自然科学

系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。理系初年次学生約 1,700 名を対象とした必修の理科実験科目である「自然科学総合実験」と学士課程英語コース（FGL）の初年時学生を対象とした「Introductory Science Experiments」を企画・運営している。また、文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」も担当している。

3つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）向けの自然科学系基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献している。

言語・文化教育開発室

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL 語学演習施設を活用した語学学習支援、e-learning を利用した語学学習教材とシステムの開発等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部局に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

(3)学生支援開発部門

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生活のなかで経験する身体的、精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや、ハラスメント等の問題解決に向けての支援、身体障害・発達障害を持つ学生の支援の実践とともに、その環境整備を進め、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談及び特別支援の活動の充実に努め、大学生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや障害のある学生への支援活動の充実・開発、学生支援体制の整備に資する研究を行っている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

(4)教養教育院

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成20年4月に設置され、平成26年4月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成されている。教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育改革の先導的な役割を果たしている。また、教養教育特別セミナーの共催、総長特命教授合同講義の実施を通じて、通常の授業とは違った機会を学生に提供している。主な活動・取組は以下のとおりである。

①基礎ゼミクラスの担当

高校までの「受験勉強中心の学び」から「自ら探究する大学での学び」への転換を目的に、初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）が毎年約 160 コマ開講されており、総長特命教授はそれぞれ 2 クラス（各クラス 20～25 名）を担当している。「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、学生とのコミュニケーションを密にし、グループによる課題研究・調査、図書館・インターネットによる情報収集、現場の見学、レポート作成、発表、討論を通じて学生たちが自ら答えが出せるように支援している。

②全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2 年次学生を対象にして行われる全学教育は、基幹科目（人間論、社会論、自然論）、展開科目（理科実験、カレントトピックス科目、総合科目等）、共通科目（基礎ゼミ、外国語科目、情報科目、保健体育科目）で構成されている。教養教育院の特命教授と特任教員は得意分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな試みを行っている。

③教養教育への理解を深める

毎年、教養教育をテーマにしたセミナーや合同講義を企画しており、「教養教育とは何か」について教員と学生が語り合うことにより、学生たちにとっては教養教育の中で自分自身の知性を高めることがいかに重要かを知る、また教員たちにとっては教養教育を考え深化させるよい機会となっている。

④小冊子『読書の年輪』の発行

初年次学生が「大学での学び」を始める上で一つのガイドブックとなる『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行しており、教養教育院特命教授が、自らの教育・研究活動の経験を基に、大学での学びや生活に役立つ本を各自が 6 冊選び、内容を紹介している。

⑤教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年 4 回開催）や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育改革に寄与している。

2. 業務センター

(1) 教育評価分析センター

使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA 実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

平成 29 年度までに基礎的データ収集システムを整備しており、現在は各種調査結果や授業評価アンケート結果等のデータを様々な分析に用いられるよう、データベースサーバーに整理・保存している。同データベースサーバーの各種データを用いて、平成 28 年度から刊行している季刊誌 CIR Insights を、平成 30 年度も 5 月、7 月、11 月、1 月にそれぞれ発行（各号 500 部印刷）し、学内関連部局への配付・設置を行った。さらに、CIR Insights の拡大印刷物を作成し、講義棟掲示板に掲示し、学内における情報共有を図った。

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

①平成 30 年 1・3 月に学務審議会、キャリア支援センター、総務企画部広報課校友係と連携して実施した、「第 3 回 東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」と「東北大学の教育に関する雇用者調査」のデータ整理・分析を行い、本学の重要なステークホルダーである卒業・修了者や企業・団体が本学の教育や学修成果をどのように評価しているのか、さらに、時間の経過とともにその評価がどう変化しているのかを検証した。その上で、結果に対する各部局からの所見をまとめた報告書を作成・発行し（平成 30 年 11 月）、広く学内配布を行った。同時に、同報告書は CIR サイトにも掲載し、部局等の必要性に応じてダウンロード可能な体制を整備している。

②学務審議会の下に設置された「第 4 回学修成果調査ワーキング・グループ」と協働して調査設計を行い、平成 31 年 2・3 月に「第 4 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」を実施した（回収率：66.3%）。調査設計に際しては、大阪大学及び名古屋大学と連携してベンチマーキングが行える体制を整備し、学修成果項目を中心に調査項目のすり合わせを行う研究会を平成 30 年 10 月 18 日に開催した。さらに、今回からは留学生用の英語版調査票も作成し、希望部局に配布した。

- (3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する。

①本学における意思決定や教育マネジメントの支援に向けて、平成 30 年 7 月 2 日学務審議会後、「第 3 回 東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」と「東北大学の教育に関する雇用者調査」に関する第 4 回東北大学教育調査研究会を開催した。卒業・修了者調査については、卒業生（卒後 5 年）が自らの知識・能力をどのように自己評価しているか、東北大学での経験がどれほど貢献しているかに関して分析するとともに、雇用者調査については、雇用者が採用者に期待する能力、東北大学卒業・修了者に対する評価等に関して分析を行い、報告・議論を行った。また、平成 31 年 2 月には滝澤理事を通じて、運営企画会議および部局長連絡会議、教育研究評議会において調査結果概要の報告を行った。

②CIR セミナー/ワークショップとして、平成 31 年 2 月 8 日に CIR ワークショップ「東北大学における「内部質保証」の現状と今後の課題」と題する学内セミナーを開催し、内部質保証が求められる状況について共有するとともに、工学研究科（工学教育院）及び環境科学研究科の取組紹介を踏まえて、議論を行った。

(2)大学教育支援センター

使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発し、教育関係共同利用拠点として成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。
- (2) 学際融合教育センターと協働した探求型学習や学際融合プログラムの開発、言語・文化教育センター、グローバルラーニングセンターはじめ、各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 大学教職員のキャリアステージに対応した専門性開発プログラム（PDP）の開発・提供

当拠点が特徴とする、日本の高等教育の多様性に対応する分野別プログラムとして、機構内各業務センターと連携し、4 領域 14 カテゴリーにわたる専門性開発のための PD セミナー（ワークショップを含む）を実施した。具体的には、56 セミナーを実施し、43 都道府県、406 機関より、計 2,469 名が参加した。受講満足度では、総合評価 3.6（4 件法）と高い成果が得られ、継続して高い水準を維持している。高等教育の多様な領域をカバーするとともに、当該領域の第一人者によるセミナーを提供することで、セミナー参加者の能力開発に貢献した。また、これらのセミナーを動画化し、インターネット上で配信する機能も整備しており、全国の大学教育関係者に能力開発の機会を提供している。

- (2) 大学教員準備プログラム（PFFP）及び新任教員プログラム（NFP）の開発・実施

大学教員準備プログラム（PFFP）と新任教員プログラム（NFP）を合同で実施し、学内外の大学院生・ポスドク・大学教員計 21 名の参加を得た。本プログラムは、現代の大学教員に求められる素養の習得及び先進的な教育方法の獲得を意図している。具体的には、各種セミナー・ワークショップのほか、授業参観、マイクロティーチング、先達コンサルテーション、国内他大学訪問調査（オプション）、リフレクティブジャーナルの執筆等、計 30 時間を超える研修を実施した。プログラムの効果検証として、プログラム修了時に目標の到達度等に関するアンケート調査を実施し、また、プログラム修了者を対象とした質的調査の分析結果に基づき、プログラムの有効性の効果を量的に検証するための指標を開発した。これまでの修了者は 120 名を超え、就職・昇任だけでなく、FD 委員への就任、教育力に関する表彰等、プログラムでの経験が寄与したと思われる事例が蓄積されつつある。また、OB・OG のネットワークも形成され、プログラム修了後も継続して大学教員としての能力開発に取り組むための環境が整備されてきた。

- (3) アカデミック・リーダー育成プログラム（LAD）の開発・実施

履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム（LAD：第二期）」（平成 29～30 年度）の 2 年目を実施し、6 大学 7 名が修了し、履修証明書が授与された。このプログラムでは、高等教育に関する専門知識や技能を修得できる体系的なセミナー・ワークショップ、先進事例（国内・海外大学）の現地調査等を踏まえつつ、所属機関における改革に実際に取り組むことを通じ、大学のリーダーに必要な能力・資質を実践的に習得できる機会を提供した。これにより、国公立大学における教職員のリーダーシップ育成のニーズに応えた。平成 30 年度に 2 回開催した集中セミナーでは、受講者のプレゼンテーションやディスカッション、アドバイザーの個別コンサルテーション等に対して高い評価が得られたのに加え（4 件法で 3.5～4.0）、カナダのクィーンズ大学での海外研修についても、参加者全員が有意義であった（4 件法で 4.0）と回答した。LAD は 2 年間にわたり、受講者が各所属組織の課題に基づき「改革案」を作成・実行するプログラムとして、大学の課題解決や改革を主導できる人材育成に貢献してきた。また、東京で開催した成果報告会（平成 31 年 3 月 30 日）では、最終的な改革案及びその実施状況を広く社会に公表するとともに、プログラムの受講によって修了者が大学マネジメント力を獲得・向上し、組織変革につながっている状況など、本プログラムの効果を確認することができた。

(4) 専門教育指導力育成プログラム (DTP) の開発・提供

STEM (科学・技術・工学・数学) 分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた教育研究 (DBER: Discipline-Based Education Research) の発展及びその実践的・実証的知見に基づく組織的な教育改革を主導してきたカール・ワイマン氏 (スタンフォード大学教授。2001 年ノーベル物理学賞受賞者)、並びに、DBER のエビデンスに基づく教授法を大学全体・全学科で導入しようという非常に野心的な教育戦略を推進しているインペリアル・カレッジ・ロンドンのマーティン・キングスベリー氏 (高等教育研究センター長、教授) を招聘し、学際融合教育推進センターと共に、国際シンポジウム (平成 31 年 3 月 2 日) 及び Q&A セッション (平成 31 年 3 月 3 日) を開催し、計 171 名が参加した。また、外国語教育については、グローバルラーニングセンター及び言語・文化教育センターと共に英語による教授法に関するワークショップ (平成 31 年 1 月 9 日) を、言語・文化教育センターと共に中国語教員育成に関する国際シンポジウム (平成 31 年 3 月 23 日) を開催し、計 64 名が参加した。専門教育指導力育成プログラムにおける受講満足度は 3.7 (4 件法) と高い評価を得た。STEM 分野の国際シンポジウム及び Q&A セッションにより、DBER のエビデンスに基づき、学生の能動的学修による学修成果を重視した授業設計を習得させるプログラムの開発に向けた本格的準備を進めることができた。また、外国語教育のシンポジウム及びワークショップにより、これまでの能力開発の取組の成果の普及を図った。

(5) 大学マネジメント力開発プログラム (SDP) の開発・提供

職員に加えて教員や執行部も対象とする SD の趣旨に照らし、教育研究と大学運営の高度化の担い手を育成するため、「大学マネジメント力開発プログラム」(SDP) シリーズとして第 1 回「大学経営の危機と経営人材の育成」(平成 30 年 9 月 6 日) 及び第 2 回「AI 時代の大学の働き方改革と経営革新の切り札? ~業務自動化ロボットと市場化テストの可能性~」(平成 30 年 11 月 9 日) 並びに第 3 回「第 3 期認証評価にどう対応するか-内部質保証の重点項目化の意味-」(平成 30 年 12 月 12 日) を開催した。また、従来からの若手職員向けのワークショップも 2 回 (平成 30 年 10 月 20 日及び平成 31 年 2 月 23 日) 実施し、計 5 回のセミナー・ワークショップに 248 名が参加した。受講満足度は 3.5 (4 件法) を上回った。高等教育に関する最新情報や幅広い専門知識等を提供する機会として開発・実施した SDP の各種セミナーに、18 都道府県・77 機関の大学教職員等が参加し、汎用的で有用な知見を提供することができた。

(6) 「PDPonline」における PD セミナーの動画配信

当拠点で実施したセミナー (ワークショップを含む) を収録・編集した動画をオンラインで提供することで、各セミナーに参加できない人に対しても遠隔での能力開発の機会を提供した。また、自力で FD/SD を実施することが難しい大学等のための「機関利用」を推進し、他大学による組織的な能力開発に貢献した。平成 30 年度末時点で約 80 の動画を配信しており、質・量ともに国内で類を見ない規模のコンテンツとなっている。平成 30 年度末のアクセス数は 88,528 件、閲覧数は 20,850 件であった。機関利用登録は、8 大学・研究機関であった。本サイトは、誰でもいつでもどこでも自由に利用できる e-learning 教材としての特色を生かし、全国的に個人・組織による FD・SD 等の能力開発に活用されている。機関利用の推進により他大学における組織的な FD・SD 研修への支援を行うとともに、オンライン上に自由に視聴できる環境を設けたことで全国の大学教職員に自己啓発の機会を提供した。また、今年度はこれまで配信してきた動画と PD ブックレット (ハンドブック) をテーマごとに 10 のモジュールとしてパンフレットを作成した。

(7) 国際連携を通じた教育関係共同利用拠点事業の高度化

(4) で記載したように、STEM (科学・技術・工学・数学) 分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた教育研究 (DBER) を推進してきたノーベル物理学賞受賞者でスタンフォード大学のカール・ワイマン氏、並びに、DBER のエビデンスに基づく教授法の導入を全学で推進しているインペリアル・カレッジ・ロンドンのマーティン・キングスベリー氏を招聘し、国際シンポジウム及び Q&A セッションを開催した。また、履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」の海外調査として、カナダのクィーンズ大学へ受講生 7 名を派遣した。

(8) 高度教養教育・学生支援機構の教育関係共同利用に関する業務

教職員の組織的な研修等の共同利用拠点として、分野別に提供する PD セミナー及び PDPonline, キャリア別に構成された PFFP・NFP・LAD・SDP, 専門教育指導力育成プログラム(DTP)を体系的に企画・実施している。全てのプログラムは、学内だけでなく全国に開かれており、日本の大学教職員の専門性開発に寄与している。拠点事業の実施に当たっては、学内外の関係者・専門家から成る共同利用運営委員会を組織し、拠点事業のモニタリングと改善を図っている。

また、教職員の能力開発や組織開発など大学教育開発に関するグッドプラクティスの普及や提言を行うべく、平成 28 年度に設立された「大学教育イノベーション日本 (HEIJ)」の代表に大森センター長が就任し、当センターが事務局を務めている。HEIJ には平成 30 年度末時点で、教育関係共同利用拠点 16 組織、FD 関連ネットワーク 1 組織及び大学の教育開発を担う 1 組織の計 18 組織が加盟している。HEIJ 主催にて第 3 回大学教育イノベーションフォーラム「AI 時代の大学教育」(平成 30 年 11 月 3 日)を開催し、61 名の参加を得た。

(3)入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・入試企画・広報委員会にワーキング・グループを置き、広報関連（『大学案内』編集・オープンキャンパス企画等）、AO入試拡大および全学支援体制構築（AO入試Ⅱ期・Ⅲ期新規参入学部、新タイプの入試導入学部への実施支援）、高校調査等に基づき令和3年度（2021年度）入試への対応（7月に「AOⅢ期継続（予告）」、12月に「基本方針（予告）」公表等）を行った。
- ・入学者へのアンケートを例年どおり行い、入学者の動向を分析。回収率は99%
- ・全国大学入学者選抜研究連絡協議会（入研協）、国立大学アドミッションセンター連絡会議等の外部組織開催の会議に参加し、他大学との連携・情報交換を行った。
- ・県内高等学校との連絡協議会を開催し、入試に関する情報交換を行った。
- ・工学部入試検討委員会の委員・オブザーバーとなり、AO入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部（医学科、保健学科）、歯学部、薬学部、農学部など各学部のAO入試等に関し相談対応・助言、また、国際学士コースの入試に関して国際学士コース入試小委員会などを通じて助言を行った。
- ・国の高大接続改革における多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み、AO入試を定員の30%に拡大する方針（令和2年度[2020年度]KPI [= 令和3年度[2021年度]入試達成目標]）に基づき、同拡大戦略に関し入試企画・広報委員会やAO入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化、広報活動の強化等を進めた。
- ・上記入試改革に関する調査研究を実施。シンポジウム（東北大学高等教育フォーラム）を開催し、その成果を本機構「高等教育ライブラリ」として刊行した。文科省委託事業「大学入学者選抜改革推進」および科研費基盤A「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」を継続して実施。これらと連動して、国立大学入試問題の分析、記述式問題の高校モニター調査、レタ4（2022）年度入試に関する高校アンケート調査、外国調査（中国）等の調査研究を行った。

- (2) 入学者選抜の実施（入試実施本部、入試企画・広報委員会、入試実施委員会構成員）

- ・入試実施本部（センター試験、一般入試前期・後期日程）、センター試験監督、作題班支援
- ・入学試験審議会、入試実施委員会、入試企画・広報委員会各委員
- ・AO入試Ⅱ期実施（志願者855名、合格者235名） 前年比志願者1名減
- ・AO入試Ⅲ期実施（志願者1,075名、合格者337名） 前年比志願者171名増
- ・科学オリンピック入試実施（志願者1名、合格者0名）
- ・国際バカロレア入試実施（志願者2名、合格者0名）
- ・グローバル入試Ⅰ期実施（志願者1名、合格者0名）
- ・帰国生徒入試実施（志願者19名、合格者6名）
- ・私費外国人留学生入試実施（志願者161名、合格者30名） 前年比志願者69名増
- ・一般入試（前期日程）実施（志願者4,813名、合格者1,833名） 前年比志願者429名減
- ・一般入試（後期日程）実施（志願者1,439名、合格者114名） 前年比志願者41名増

- (3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催、高校等主催の説明会・相談会への参加、高校訪問・高校教員との懇談会、冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供、学内への情報提供）

- ・入試説明会（高校教員対象）を全国21会場にて実施 参加者486名（前年比66名減）
- ・進学説明会（受験生・父兄対象）を5会場（札幌、静岡、東京、大阪、福岡[工学部主催]）にて実施 参

加者 2,027 名（前年比 294 名増）

- ・ 高校の大学見学の対応 47 件
- ・ 民間業者等開催の説明会（高校教員との懇談会含む） 23 件
- ・ 高校訪問 61 校（入試センター教員分）
- ・ 東北大学案内の作成 80,000 部発行
- ・ AO 入試パンフレットの作成 12,000 部発行
- ・ 入試センターウェブサイトによる情報の発信

（４）高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・ 第 28 回高等教育フォーラム（5 月 21 日）『『主体性』とは何だろうか——大学入試における評価とその限界への挑戦——』参加者 403 名（前年比 24 名減）
- ・ オープンキャンパス（7 月 31 日，8 月 1 日）参加者 68,228 名（前年比 2,270 名増）
* H30 年度入学者参加率 52%
- ・ 高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 130 件

(4)言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語 4 技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

- (1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

- 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。
- 英語に関しては、11 月に学務審議会内に「英語教育改革推進 WG」が設置され、全学英語教育体制の見直しに取り組んでいるところである。
- 英語教育では、多読法、e-learning、PDR (Preparation-Discussion-Reaction)、Communicative Language Teaching、CALL、CLIL (内容言語統合型学習)、EAP (English for Academic Purposes)、PBLL (プロジェクト型外国語学習) などの多種多様な教授法による授業が提供されている。
- 英語教育では、学生の英語運用能力が多様化してきている現状、特に留学生、帰国子女、英語圏への留学経験者などが増加していることに鑑み、将来的な能力別クラス編成をも見据え、英語教科部会と連携して「上級者用クラス」を設置した。
- 高年次用英語教育カリキュラムの橋渡しとして、Practical English Skills (PES) においてプレゼンテーションスキルやライティング力を高めるための教材、教授法の開発、また実用的な環境で英語力を向上させるために IPLA の留学生との統合的英語クラスの運営を進めている。
- 全学部の 1 年次学生を対象に実施されている TOEFL ITP テスト[®]について、英語教科部会と協力し、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。
- 平成 30 年度入学生に英語学習ハンドブック「*Pathways to Academic English*」を配布した。また、平成 31 年度入学生用に、同書の一部改訂作業を行った。
- スペイン語能力試験 (DELE) : 11 月 10 日～11 日 (受講者約 25 名) を実施した。
- スペイン語テキストブック『文化と学ぶスペイン語』を作成した。
- フランス語動画プロジェクト『わたしはだれだ?』、第一話「突然、もう一つの人生がはじまる」公開記念トークショー、10 月 12 日 (キャンパス・フランス主催、「フランス留学フェア」とのコラボレーション、於東北大学)を開催した。
- 日本語教育では、高度教養教育開発推進事業にて開発した教材『東北大学レポート指南書』を活用し、授業を行っている。また、国際文化研究科で外国語教授法を学ぶ大学院生や、学習支援センターのスタッフを招いてゲストセッションを行うなど、学習意欲の向上につながる活動を実践している。

- (2) 全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

- 外国人留学生等特別課程を企画・運営し、のべ約 850 名が受講している。
- 外国人留学生日本語研修コースおよび日韓共同理工学部留学生プログラム (定員: 各学期合わせて 30 名) を企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 短期留学受入プログラム JYPE (理系)、COLABS (理系大学院)、IPLA (文系) の日本語コースを企画・運営している。
- 平成 28 年度に開始した日本語教育と専門教育のハイブリッド型プログラム「DEEP-Bridge」を企画・運営している。平成 30 年度の受入数は 51 名となり、初年度 (40 名) より着実に増加している。

○ 国際共修科目「せかいをめぐるーことばとぶんかのたび」新規開講（受講者 30 名）。

（3）e-learning 環境を改善し、コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

- 平成 26 年度に CALL システムの大幅な機種変更が行われ、機能強化が図られたところである。英語だけでなく、初修語における e-learning 環境整備についても検討を開始している。
- 英語 CALL 教育においては、学習者の興味や関心、専門性を図るために、内容重視の英語教育を目的とする、Web 上のオープンソースコンテンツを活用した Authentic メディア教材の開発を進めている。

（4）外国語教育研究の成果に基づいて、多読、多聴、速読、CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し、実践する。

- 「多読」については、平成 27 年度から補助金を得て、附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図っているところである。平成 29 年度は多様な学問領域における入門書にあたる図書を精選して整備することで、専門科目の内容を英語で学ぶ環境を作った。
- オンライン学習支援システムを用いて、反転授業を展開し、十分な課外学習時間を確保するよう努めている。
- 海外、特に日本と同じ非（または準）英語圏における英語教育の先進的事例についての調査を平成 27 年度から開始したが、平成 27 年度には韓国ソウル大学及び高麗大学への訪問調査を、平成 28 年度には香港理工大学、香港中文大学、香港城市大学及び香港科技大学への訪問調査を、平成 29 年度には国内における先進的事例について神田外語大学への訪問調査を、それぞれ行った。また、平成 29 年度には、香港理工大学、香港科技大及び神田外語大学から講師を招き、英語教育サポートシステムに関するシンポジウムを開催した（平成 30 年 3 月 3 日、「東アジアの大学における特色ある英語教育サポートシステムー香港と日本の例から」、於東北大学川内北キャンパス）。さらに、平成 30 年度には、再び香港を訪れ、香港バプテスト大学、香港教育大学及び香港嶺南大学への訪問調査を行った。成果の発信には、「東アジアの準英語圏・非英語圏における英語学習サポートシステムの実態調査ーその経過と香港地域の大学の調査結果報告を中心」に（江藤裕之・北原良夫・長野明子、2018 年、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 4 号）などがある。
- 中国語ブレンディッドラーニング用教科書・指導法、及びスマートフォン利用の復習教材の開発に取り組んだ。具体的には、ブレンディッドラーニング用教科書及び指導法と評価法の具体的な設計手法を明らかにするとともに、東北大学の初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書、指導用映像 DVD 教材、評価用各課小テスト及びクォーター制への対応が可能な試験問題を開発した。さらに、これら教材はいずれも、別途課題として新たに開発したスマートフォン利用復習用 e ラーニングシステムと連携するようにした。
- 「初級ドイツ語学習者向けの語彙学習用の教材開発」プロジェクトを推進した。具体的には、ドイツ語授業における効果的な語彙学習を推進するために、初級者にとって有用な語彙の選定、およびそれらを得るための具体的な方法を検討し、また初級者向けのドイツ語基本単語集と通常授業で実践できる語彙に関する練習問題を作成し、多角的な観点から、効果的な語彙学習の環境構築を目指すものである。

（5）教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し、言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

- 平成 30 年度は、各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。
- 大学教育支援センターと連携したセミナーとして、1 月には「Tips for Implementing the Student-Centered Approach Conducted in English」を、また、10 月には「The First Step Towards Academic Composition: An Introduction to Writing Abstract in English」を、それぞれ開催した。
- 平成 29 年 10 月に開催したセミナー「CLIL の理論と実践：ヨーロッパから日本へ発展する新しい学び」に続いて、6 月に第 1 回 J-CLIL 東北支部学会を開催した。
- セミナー「Teaching Writing in Context」を 1 月に開催した。
- セミナー「Professional Development for English Language Teachers 2019」を 3 月に開催した。
- 韓国文化をより深く理解させるために「日韓相互理解の時代：知っているようで知らない韓国」（12 月 7 日）を企画して講演会を実施した。
- スペイン語のワークショップを開催した：10 月 13 日「スペイン語教師とは：授業活動で求められるス

- キルと課題」及び12月15日「構造の文法から意味の文法へ：スペイン語クラスでの理論と実践」。
- 「第50回全日本学生フランス語弁論大会」にて優勝、準優勝の学生を輩出した。
 - フランス語動画プロジェクトに関する参加学生のフランス語による発表を行った。
 - 東北大学中国語セミナー「周辺から見た中国語」を開催した（平成31年2月28日）。
 - 国際シンポジウム「中国語教員育成の現状と課題（中国・台湾・日本を中心に）－中国語教育が目指すもの－」を企画し、中国・台湾から著名な教授を招き平成31年3月23日に開催した。

(6) グローバルラーニングセンターと連携し、海外派遣留学プログラム、外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

- グローバルラーニングセンターと協力し、平成26年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム(SAP)を実施するなどNative教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また、SAPプログラムの支援活動として、グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で、「留学準備実践」を開講実施した。
- グローバルラーニングセンターと協力し、教員引率留学プログラム(FL)を実施するなどNative教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。
- 全学教育と、Practical English Skills, グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動への協力と推進を図っている。
- グローバルラーニングセンター及びマンスフィールド財団と連携し、米国モンタナ大学の訪問・調査を行い、大学間協定の締結、共同研究の推進、学生・教職員の交流、単位取得を伴うグローバル・イニシアティブプログラムの開発及び実施を進めている。
- グローバルラーニングセンターと連携して外国人留学生等特別課程(日本語)の授業と合同の形で国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。平成30年度は、34クラスの国際共修ゼミを開講し、受講者のコミュニケーション能力、情報発信力、異文化理解能力等の向上を図った。

(5)グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施、教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて、国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また、学内外の連携を強化し、グローバルキャンパス構築に寄与するとともに、広報活動や社会連携を推し進め、本学のプレゼンスの向上を図る。

事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際戦略の策定・実行のために、国内外における高等教育関連の情報収集、本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め、国際戦略に基づいた国際交流活動を実施し、本学のプレゼンスの向上を図る。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して、グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

学生の留学希望が多い欧米の大学を中心に協定締結のための大学訪問等を積極的に実施した。

海外拠点の整備について、バンコクの海外代表事務所、ベトナム貿易大学の共同事務所及びカリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センターにおいて、短期海外派遣プログラムの実施や留学生のリクルート、同窓会設立補助等、多様な取組みを実施した。研究、教育、管理のそれぞれの分野で、ワシントン大学と東北大学間の国際連携および産学官連携の構築・発展の拠点となる、ワシントン大学東北大学代表事務所（University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS)）を双方に設置したことにより、年間で100名を超える規模でワシントン大学・東北大学の教員・学生・事務員がAOSを通して行き来した。研究テーマも材料、土木、航空、機械、流体、災害、看護と幅広く育ち、国際共著論文も着実に出版され、本学のプレゼンスの向上の一端を果たした。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため、多様で魅力的な国際プログラムを開発し、支援を行う。また、留学生支援（学業・生活支援、就職支援、危機管理、相談等）を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。特に、8名の国費留学生配置枠を得、3コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を継続実施した。また、ウェブや現地高校訪問等を通じた国際学士コースの広報の結果、優秀な志願者・入学者を確保することができた。英語コースに関する教員に対するアンケートを基に、英語での教育力の向上を支援するPDプログラム、教育プラットフォームを開発し、教育指導に関する改善を図った。

また、JYPEやIPLAプログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて、留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。人文社会科学系の受入プログラムにおいて、高度な専門教育に加え日本語・日本文化を集中的に教授するプログラム（DEEP-Bridge）を開発・実施した。大学院生を対象にしてCOLABSプログラムを実施し、世界各地から優秀な大学院生を本学の先端的な研究環境に交換留学生として受け入れている。グローバルラーニングセンターはこのプログラムのとりまとめを行うと同時にこれらの留学生に対しフィールドトリップや各種イベントを実施し、日本および大学への適応を支援している。また、理系・文系それぞれにおいて協定校からの学生を受け入れるサマープログラムを実施している。

これらのプログラムにおいて、グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務を行っている。また、本学学生による支援団体を統括し、学生による留学生支援の拡大を図っている。留学生支援は学生相談所やキャリア支援センターなど機構内の組織との連携も図っている。特に、学生相談・特別支援センターとの密な連携により、特別支援や精神的な支援等を必要とする学生の支援にあたった。経済支援については、グローバルラーニングセンターが中心となってJASSOへの奨学金の申請を行い、それを留学生の経済支援に充てている。平成30年度通年での外国人留学生数は3,405人に達し、令和2年（2020年）度の達成目標である3,000人を突破した。

- (3) 国際戦略に基づき、質の高い海外研鑽プログラムを開発し、派遣留学支援、派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

3～5 週間の短期海外派遣プログラムである「Study Abroad Program (SAP)」を開発し実施した。今年度は夏休み・春休み合わせ、273 名の学部学生が SAP に参加している。SAP においては、語学研修だけでなく様々なテーマを設定してのアクティブラーニングや現地の大学生や地域住民などとの交流の場を設けており、質の高い国際経験ができるプログラムとしている。昨年度に引き続き海外体験プログラムを単位化し事前・事後研究の充実を図るとともに、教員引率型の海外研修プログラム(FL)を開発・実施し、110 名の学生を派遣した。さらに、ワシントン大学において理工系の大学院生向けの短期海外派遣プログラムを実施した。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して、留学準備教育を行っている。

SAP,FL や交換留学に対する JASSO の奨学金を獲得する努力を行い、派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また、交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて、全学的な導入にも寄与した。

国際共同教育、ダブルディグリープログラムなどの学位取得を目指す学生に対する留学オリエンテーションを行うとともに JASSO の奨学金の獲得による経済的な支援を実施した。さらに、国際共同大学院との連携を図り、国際共同研究・教育の充実に努め、派遣大学院生数を前年比 6 倍と大きく伸ばすことができた。

昨年度に引き続き 5 月及び 10 月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し、同時に留学に関する情報提供を行った。

本学は平成 26 年 3 月には AOII 期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施したが、今年度は平成 31 年 3 月にカリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ）での派遣プログラムを実施するとともに、工学部と協力してワイオミング大学（アメリカ）でも同様のプログラムを実施し、33 名を派遣した。

- (4) 国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあたっている。このプログラムは、本学学部生を対象として、語学・コミュニケーション力、国際教養力、行動力を養成する 3 つのサブプログラムと、海外研鑽サブプログラムからなり、グローバルラーニングセンターは、これらプログラムの方針の決定、指定科目の選別、ポイントの認定、学習アドバイジング、プログラム修了やリーダー認定の判断等多くの事を行っている。平成 30 年度の登録学生数は 3,007 名に増加した。また、本プログラムに提供する正課・課外活動一部を実施している。特に、外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型授業「国際共修ゼミ」や、グローバルに活躍する個人や企業人等を招いての「グローバルキャリアセミナー」、グローバルリーダー認定コースの必修科目である「グローバルゼミ」等を実施し、グローバル人材の育成に貢献している。

課外での英語学習の強化のため、平成 27 年に開設した東北大学イングリッシュアカデミー（TEA）において、課外英語学習講座、英語アドバイジング、TOEFL-iBT®, TOEFL-ITP®の試験実施などを引き続き行った。特に課外英語学習講座である「TEA's English」には平成 30 年度延べ 380 名の学生が参加した。

- (5) 学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会（TUFSA）等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員が一堂に会す国際学会や協議会（NAFSA, EAIE, APAIE）等に教職員を派遣し、本学の取り組みや調査結果を積極的に情報発信するとともに国際ネットワークの拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページを抜本的に改修し、国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々への広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学，人文科学，社会科学，スポーツ），分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会に参加し、第3分科会「カリキュラム改革とFD/SDの実践」に参加し、大規模実験科目におけるFDの役割について報告した。
2. スタンフォード大学カール・ワイマン教授（2001年ノーベル物理学賞受賞者）、イギリス・インペリアルカレッジロンドンのマーティン・キングスベリー教授を、大学教育支援センター・グローバルラーニングセンターと共同で招聘し、理数科目におけるアクティブラーニングとその科学的根拠に基づいた評価に関する国際シンポジウムを開催した。
3. 全学教育改革推進ワーキング・グループに参画し、本学全学教育における課題を整理し、将来のカリキュラム改革に向けた報告書を提出した。

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

1. 部局横断型の自然科学総合実験，文科系のための自然科学総合実験，英語による自然科学総合実験（国際学士コース）を実施している。受講者はそれぞれ1,596名，20名，29名を受け入れた。
2. 学際連続セミナー「インフォグラフィックス」と「ことばのデザイナー意識して言葉を紡ぐ」を合計3回開講し、のべ76名の参加者を受け入れた※コーディネーター：中村教博（代表，高教機構）・山内保典（同機構）・中川学（同機構）
3. 平成30年度の開講科目として、「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学（基幹科目）」、「遊学：ためして、つないで、ふりかえる（カレントトピックス科目）」、「スポーツとコーチングの融合（カレントトピックス科目）」を開講し、受講者はそれぞれ81名，7名，60名を受け入れた。さらに、学部3・4年生対象の高度教養教育科目としては「みせる，学び：大学で何を学んだの？」を開講し、受講者5名を受け入れた。
4. 全学教育の基礎ゼミにて「フィクションで正義を考える」，「フィールドワークの日本史」を開講した。
5. 全学教育の基幹科目にて科学技術社会論を扱う「社会の中の科学技術」，研究倫理を扱う学際融合教育科目「あなたの選択：事例で考える研究倫理」，展開ゼミ「汎用的技能ワークショップ：認知的能力」を開講した。
6. 「学びのストーリー」のリーフレットとそのウェブサイトを開発し、全学教育のシラバス検索機能も付記したシステムを学生に提供した。
7. 機構内教員の相互理解を深めるために、正午PD会を開催し、のべ296名の参加者を受け入れた。

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

平成30年度学務審議会に設置された「全学教育改革推進ワーキング・グループ」において、1名の所属教員がグループメンバーとして改革に従事し、報告書を学務審議会に提出した。

(7)学習支援センター

使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の間に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

本センターの提供する学習支援の主要事業が、SLA (Student Learning Adviser) による学習支援である。SLA とは本学学生による学生のための学習支援スタッフを指し、主に学部生の授業時間外の学習に対する支援を行っている。2018年度のSLA数は、前期32名、後期は39名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは19名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②英会話・日本語会話学習支援、③ライティング支援、④学習イベント企画という4つに大きく分けられる。2018年度の利用者数は延べ1,880名、1活動日あたりの利用者数は13.3名であった。

①理系科目

質問受付カウンターでSLAが学生への学習支援にあたる個別対応型を中心としている。平日2限から5限の一部の時間帯に、ドロップイン（予約不要）の形態で、個別もしくはグループでの質問を受けるという窓口対応を行っている。また、OJTやOff-JT、学生対応の標準化と研修機会の拡充を通して学習支援の質向上を推進した。2018年度の利用者数は延べ729名、実数では224名で、利用者アンケートの総合満足度は平均93.6点（回答389名）であった。

②英会話（主に日本人学生対象）および日本語会話（留学生対象）

「英会話カフェ」（ワークショップ）および「1 on 1」（個別対応）を通して、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。2018年度の英会話支援の利用者数は延べ489名、実数で73名、利用者アンケートにおける総合満足度は平均98.8点（回答392名）であった。

留学生の日本語学習支援として、「日本語会話」ワークショップ（前期週2回・後期週1回、1時間/回）を開催（前期21回、後期9回）した。参加者は延べ55名（前期21名、後期34名）であり、参加者アンケートにおける評価は平均99.5点（回答40名）だった。

③ライティング支援

ライティング支援の2018年度の窓口利用者は延べ52名、実数で37名であった。留学生に向けた日本語ライティング支援としても積極的な広報を行うことで利用を促し、留学生利用者数は延べ22名、実数で13名だった。

また、『東北大学レポート指南書』に準じたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」を定期開催した。2018年度は、この「レポート指南書入門ゼミ」の内容を見直し、『東北大学レポート指南書』の章立てに対応するよう、全5回の内容から全6回の内容に更新した。実施回数は合計で30回、参加者は延べ262名、参加者アンケートの総合満足度は平均89.8点（回答者246名）だった。

2018年度は情報発信に重点的に取組み、相談窓口を利用しなくても様々な学修情報に学生がアクセスできる環境づくりを目指し、学修情報ポータルサイト「学びのヒント by SLA」を新規開設した。物理・化学に関しては、ポスター掲示やブログ・SNSを活用した情報配信を定期的に行った。

④学習イベント企画

学習イベント等の企画実施については、新入生を対象とした企画「SLA雑談会」、哲学カフェ「かんがえるソファ」を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を実施した。また新規企画として、宮城県美術館の協力を得て実現した「美術館の楽しみ方、教えます！」を実施した。具体的な活動状況と正課については、下記（4）において詳述する。

(2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2018年度は、「シニア SLA」制度の運用をはじめ、部会活動やメンター制度、その他の OJT の仕組みも合わせて、SLA 同士の自律的な研修・育成システムを継続的に運用した。特に学習支援者としての SLA を育成するための研修プログラムを体系化すると共に、日常的な学生対応について SLA が相互に検討し学び合う環境を醸成できた。

当該年度も例年通り、全ての SLA を対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に活動報告会を実施した。これらの活動により期間を通した SLA サポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。セメスター中には SLA の担当分野別に「部会」（担当別研修会）を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。SLA 共通研修として、学内の講師に依頼したレクチャーを 1 回、外部から講師を招聘したセミナーを 2 回開催した。セメスター末には全 SLA に対してアンケートやヒアリングを実施し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討すると同時に、個々の課題を総合的に把握・整理することにより全体課題の精査を行った。3 月には本学にて、北海道大学・福島大学と、学習支援に従事する学生スタッフの合同研修を実施した。

(3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。

その他、理系の初年次基礎科目を中心として、学習支援センターに集まる学生の学修情報を科目委員会にフィードバックした。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、希望のある教員の担当授業に対して、センター教員がアカデミック・ライティング教育に関する「出前授業」を行った。

(4) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLA による学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。学習企画イベント実施については、新入生を対象とした企画「SLA 雑談会」（4 月計 5 回開催、参加者延べ 18 名）、哲学カフェ「かんがえるソファ」（前期 12 回、後期 10 回開催、参加者延べ 95 名）を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を実施した。また新規企画として、宮城県美術館の協力を得て実現した「美術館の楽しみ方、教えます！」（後期 3 回開催、参加者延べ 30 名）を実施した。この企画は、美術館を訪れた経験をあまり持たない学生を主たる対象にしたワークショップであり、学芸員による施設のガイドと対話による作品鑑賞を通して、芸術に親しむきっかけを提供した。

他に SLA の協力を得て実施したセンター教職員による企画として、批判的思考と統計リテラシーの向上を目指した統計ゼミを計 10 回開催した。これは文系学部学生を主対象としていたが、多様な学年や学部より延べ 61 名の参加者があった。また、学外講師を招聘して「学びの転換セミナー」を開催した。これは SLA 研修を兼ねた一般公開型のセミナーで、年間に計 2 回開催し、参加者は延べ 82 名だった。新入生を対象とした企画「SLA 雑談会」、哲学カフェ「かんがえるソファ」のほか、留学生を対象とした日本語会話ワークショップの開発・拡充を進めた。

学生の自主的な学習活動に対する環境整備支援として、前年度同様、教務課と連携して正課外で自主的に学習活動を行う「自主ゼミ」に対して活動場所を提供した。

(5) 学内外における学習支援ネットワークの構築

学内では、機構教員の協力を得て SLA 共通研修を実施したほか、附属図書館から各種イベントの実施や広報に定常的な協力・支援を得た。また、留学生や特別な支援を要する学生等への学生支援に関する情報交換等のため、グローバルラーニングセンターおよび学生相談センターとのミーティングを実施した。

学外との学習支援ネットワークとしては、前年度に引き続き 2018 年度も、3 月に本学にて福島大学・北海道大学との 3 大学合同で学生学習支援スタッフ研修を開催した。

(8)キャリア支援センター

使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるよう支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実を図る。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

全学教育におけるキャリア教育科目を、キャリア支援センターが実施する「キャリア支援プログラム」の一部に位置づけるとともに、科目間の体系的なアクティブに学ぶ機会を重視しながら体系的整備を進めている。

平成 30 年度は、大学生活、自己分析、社会・仕事を知ることテーマとした「ライフ・キャリアデザイン A」,「同 B」,「同 C」, 授業時間外の活動を組み込んだ「同 D」, フィールドワークを取り入れた PBL 科目「フィールドワーク実践：地域とビジネス」, 新聞社からの寄付講義としての展開ゼミ 2 科目, の 7 科目を開講し、146 名が受講した。

- (2) 正課外としてのキャリア支援の改善・充実を図る。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、各種のセミナー、ワークショップ、キャリア就職フェアなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実を図る。

学部 1・2 年次学生から大学院学生までを対象とした「キャリア支援プログラム」を実施している。大人数のセミナーから少人数のワークショップ、個別相談まで、幅広いテーマのプログラムを多様な実施形態で提供している。

平成 30 年度は、セミナー 23 回（参加学生数延べ 2,082 名）、ワークショップ 19 回（同 288 名）、キャリア就職フェア 6 日間（同 4,899 名、参加企業数 290 社）などを実施した。個別相談（川内）は、2,640 件に対応した（進路選択に関する相談 175 件、就職に関する相談 1,813 件、インターンシップに関する相談 421 件、公務員志望者向け相談 166 件、理系学生向け相談 65 件）。また、首都圏での就職活動やインターンシップへの応募・参加を支援するため、新宿ラウンジ（民間企業が運営）を学生の利用に供するとともに、同ラウンジにて個別相談を実施した。ラウンジ利用者数は延べ 2,565 名、個別相談（新宿）対応件数は、4 月から 6 月および 3 月の 13 回で 57 件であった。

- (3) 部局や機構業務センターとの連携・協力を強化する。キャリア支援に関する専門性開発を重視するとともに、学部から大学院や、博士前期課程から後期課程などへの選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

大学院進学は進路形成における主要な選択肢の一つであり、セミナー等においても大学院生や大学院進学希望者を対象とした内容を盛り込んでいる。また、各学部・研究科におけるセミナー・ガイダンス等への講師派遣や、キャリア教育科目の実施協力などを通じて大学院進学希望者や大学院からの就職希望者への支援充実に取り組んでいる。

平成 30 年度は、『キャリアガイド 2019』を制作し、全部局に配付するとともに、文学部・研究科、教育学部・研究科、農学部・研究科、国際文化研究科、生命科学研究科、多元物質科学研究所からの依頼に基づき、学生を対象としたキャリア教育・支援セミナー等に講師を派遣した。また、教職員を対象とした取り組みとしては、2 回のキャリア支援連絡会議を通じて、各部局の就職・キャリア支援担当者との意見・情報交換を行うとともに、学生生活支援審議会 FD、教育学研究科の FD に講師を派遣した。その他、高校教員や

保護者，進学希望者等を対象として，入試センターからの依頼に基づき，入試説明会や進学説明会・相談会における講師・相談担当者を3会場に派遣するとともに，オープンキャンパスでの説明会（参加者81名）や，保護者向け就活セミナー（参加者21名）を実施した。

- （4）大学院後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し，社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

「イノベーション創発塾」を開講し，様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。コミュニケーション力，プロジェクトマネジメント力，キャリアデザイン力などの効果的向上を図るためのプログラムを展開した。平成30年度は19名が卒塾した。

また，高度イノベーション博士人材育成ユニット所属教員による個別相談，博士・ポスドクのためのJob Fair，インターンシップ交流会等を通じて，博士人財の産業界への輩出を推進するとともに，安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。平成30年度は，個別相談（青葉山）対応件数304件，中長期インターンシップへの参加学生数10名であった。また，Job Fairへの参加学生数は104名（うち他大学3名）で，参加企業数は40社であった。インターンシップ交流会への参加学生数は26名，企業数12社であった。

さらに，文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築事業」において北海道大学や名古屋大学と連携して「イノベーション創出人材連携育成プログラム」にも継続して取り組んでおり，博士後期課程学生やポスドクを対象としたキャリア支援の充実を進めている。

- （5）進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる，ワンストップの支援体制（支援環境）を整備充実する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し，進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスによらず均等かつ速やかに提供するため，電子メールやSNS，ホームページを活用した情報提供の充実を進めている。キャリア支援センターホームページは，ワンストップの支援体制を支える重要な柱のひとつとして位置づけ，川内と青葉山のスタッフが連携して運用しており，平成30年度にリニューアルした。キャリア支援プログラムの開催案内や学内アルバイト情報を配信しているメーリングリストへの平成30年度の受信登録アドレス数は933，Twitterフォロワー数は2,871名であった。また，キャリア支援センターのPC利用学生数は186名，書籍貸出件数は801件であった。

- （6）学内外の組織・機関と連携し，日本での就業を希望する外国人留学生に対する進路・就職支援を進める。日本語や就業に必要とされるスキル・能力の形成支援を強化する。

平成29年度に採択された文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」において「東北イノベーション人材育成プログラム（DATEntre）」の企画開発，および実施にあたった。キャリア支援センターでは，本プログラムのために構築された東北イノベーション人材育成コンソーシアムの事務局を務めるとともに，学内外の組織・機関と連携しながらプログラムを推進している。

平成30年度には，第2期生および第3期生として4大学（東北大学・東北学院大学・東北工業大学・宮城学院女子大学）の44名の留学生が受講を開始するとともに，6名の修了者と9名の特別修了者を輩出した。また，キャリア支援センターの個別相談では，272件の外国人留学生からの相談に対応した。

(9)学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 相談援助活動

学生相談所及び特別支援室への来談学生(留学生を含む)への個別支援,教職員および家族へのコンサルテーション,来談者間の交流支援等

<学生相談所>

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており、必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また、学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。平成30年度の学生相談に対する個別支援：来談者数822名,対応回数5,521回(星陵キャンパスでの出張相談も含む)。
- 受付兼インテーカーの職員が、待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり、また相談業務の大きな支えになっている(平成30年度：利用者数延べ156名)。
- 平成26年12月から星陵地区での相談対応を開始しており、他キャンパスとの相談業務の連携を図っている。星陵キャンパスでの出張相談：来談者数15名,相談回数85回。
- 工学部・工学研究科における学生相談の支援として、平成31年1月から3月の間、相談員2名がそれぞれ週半日、工学部・工学研究科カウンセリングルームに出向き、相談援助活動を行った(来談者16名,相談回数42回)。
- 平成28年度より留学生に対する英語でのカウンセリングを開始しており、平成30年度は79名の留学生からの相談があった。

<特別支援室>

- 入試時に配慮申請のあった学生や、修学上のつまずき等を契機に来談した学生については個別支援を行うと同時に、修学上の合理的配慮が必要な場合、各部局の教職員や授業担当教員と連携しつつ支援を行っている。また、学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。平成30年度：来談者133名,対応回数1974回。
- 障害のある学生への修学支援、オープンキャンパス来談者等への情報保障や移動支援等のために、学生ピアサポーターの募集・養成を行っている。新規・継続を含む平成30年度のサポーター登録者数：31名。
- 修学上の合理的配慮を申し出た学生のべ37名に対し、部局の教職員や授業担当者と協働しながら合理的配慮の提供を行った。
- 受付兼インテーカーの職員が、待合室や休養室を居場所として利用している学生に対してきめ細かく対応している。人混みが苦手な学生や授業に出にくさを感じている学生にとっては、修学・学生生活上の支えとなっている(平成30年度：利用者数のべ174名)。
- 障害のある学生の自己理解促進及び就労支援を目的に「障害のある学生へのキャリアガイダンス」を開催し、学生及び教職員17名が参加した。

(2) 予防・教育・広報活動

授業の担当,全学FD・部局FDの担当,部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で、全学教育科目「学生生活概論－学生が会う学生生活の危機と予防」(第1クォーター)を開講した。
- 特別支援室のスタッフを中心に、障害学生支援に関する啓発及び学生ピアサポーターの養成を目的に、全学教育科目の授業(「障害と社会・大学」(第2,第4クォーター))を開講し、計26名が受講した。
- 全学FDとして、学生生活支援審議会FDを年4回実施している。平成30年度は、ハラスメントに関す

るテーマ1回（ハラスメント全学防止対策委員会との共催）、学生支援の今日的課題（留学生支援、キャリア支援、大人の発達障害支援）に関するテーマ1回、大学生の自殺予防に関するテーマ1回、障害学生支援に関するテーマ1回（学務審議会との共催）を実施した。加えて、SD（教務系職員実務研修）、部局FDにおいて、学生支援やハラスメント、障害学生支援に関するテーマでの講演を実施した（平成30年度：合計11回）。

- 全新生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に、新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている（平成30年度：合計23回）。また、メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで、部局と連携した学生対象の講演会を実施している（平成30年度：7回）。
- 学生がストレスコントロールや危機状況における対応を学ぶことができるように、啓発活動としてエンパワーメントシリーズのリーフレットを平成30年度初めて作成し、配布を開始した。
- 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議への出席、理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室との随時の連絡・情報共有により、部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

（3）調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

- 学生の心身の健康状態や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し、結果に応じて個別支援につなげた。平成30年度：調査の回答者数10,745名（回収率59.7%）、そのうち、大学生活への不適応ハイリスク群が学部新生で152名、学部2年生以上で383名おり、PTSDハイリスク群は250名であった。
- 学生相談及び特別支援の実践に基づき、以下のようなテーマでの研究を行った。
 - ・ 学生相談と障害学生支援の連携に関する研究
 - ・ 学生相談カウンセラーの成長支援に関する研究
 - ・ 休学者・復学者への支援に関する研究

（4）大学としての学生支援施策および危機管理への貢献

学内委員会等を通じた提案、特別支援を含む学生支援に関する貢献、ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

- センター教員は、学務審議会、学生生活支援審議会、男女共同参画委員会、キャリア支援連絡会議、差別解消推進委員会、ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
- ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、来談者への個別支援等を行っている。平成30年度：相談件数28件、対応回数131回。
- 聴覚障害や視覚障害、肢体不自由の学生等の支援に関して、支援機器の整備・活用、設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。特に平成30年度は川内北キャンパスに新たに点字ブロックや外灯が設置され、障害があっても安心して通行できるような環境整備が図られた。

（5）他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演、学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

- 他大学等の依頼を受け、FD等においてハラスメントや障害学生支援に関する講演を実施した（平成30年度：12回）。また、第56回全国学生相談研修会の講師を務めた。
- 他大学からの訪問を受け入れた（2件）。
- 障害学生支援相互協力協議会を実施した。
- 第74回みやぎ学生相談連絡協議会を当番校として実施した。
- 仙台学生相談事例研究会、全国高等教育障害学生支援協議会第3回大会、第10回発達障害学生修学支援体制構築に関する合同研究協議会に参加した。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

(1) 保健業務の実行についての企画，立案

- 1) 定期健康診断を企画・実施した。
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，秋胸部X線検診）の企画・実施。
- 3) 健康科学セミナーを企画・実施した。（年 5 回開催）
- 4) 健康科学講演会を企画・実施した。（年 1 回開催）
- 5) 禁煙外来を企画・実施した。

(2) 保健管理についての専門的調査，研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣について調査を実施した。
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発を継続して行った。
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連について調査・解析を行った。
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究について継続して行った。

(3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を 5 回実施。（第 1 回：危険な風邪とは一風邪診療の pitfall—（木内），第 2 回：自閉症スペクトラム障害（伊藤），第 3 回：糖尿病における食事療法と運動療法の実践（小川），第 4 回：薬物乱用事件と大学（北），第 5 回：心血管病と性差について（佐藤）。
- 2) 全学教育「体と健康 I X」を担当した。
- 3) 健康科学講演会にて「薬物乱用事件と大学」（伊藤）を講演した。

(4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を 4～5 月に実施（受診率 73.1%），事後処置を必要とした学生は 1,802 名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。（1 次受診者数 13,488 人）
- 2) 6・12 月に放射線取扱学生特殊健康診断，7・11 月に有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断，10 月に VDT 作業従事学生特殊健康診断，11 月に秋季胸部 X 線検診を実施した。（特殊健康診断受診者数総計 6,777 人）
- 3) 健康診断証明書の発行（1,914 通）

(5) 5 保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した。また，片平地区では金の午後，星陵地区では木の午後，青葉山地区では火の午後，新青葉山地区では月・水の午後に医師による健康相談，救急措置を実施した。（総健康相談回数は 4,176 回）

(6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 鳥インフルエンザ，インフルエンザ，感染性胃腸炎に関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮におけるインフルエンザ対策，ウイルス性胃腸炎対策を行った。
- 3) 輸入感染症の対応を 1 件行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- 1) 東北大学の結核対策について検討し，研究生を対象とした期間外検診システムを構築し，試験的に実施した。
- 2) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応を行った。(各種入学試験，入学式，新入生オリエンテーション，北雄杯駅伝大会，オープンキャンパス，キャリア就職フェア，学位授与式，大学祭，深夜マラソンなど)
- 3) 学生定期健康診断の IT 化を継続的に検討し，定期健康診断システムに改良を加えた。

(11)課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

平成 30 年度に本学学生の自主的なボランティア活動や課外活動の支援として、以下を実施した。

1. 東北大学生に対するボランティア活動への参加や震災学習の機会の提供

(1) ボランティア・フェアの開催

学生ボランティア団体や NPO 等がブース形式で出展し、東北大学生にボランティア活動の紹介を行うボランティア・フェアを開催した。本年度は、4 月・7 月・11 月の 3 シーズン開催とし、参加者総数は過去最高であった。

4 月：7 日間（294 名参加）、7 月：2 日間（24 名参加）、11 月：3 日間（24 名参加）

計 12 日間：のべ 342 名参加

※これまでの実績

①平成 24 年度：11 日間（222 名）、②平成 25 年度：11 日間（175 名）、③平成 26 年度：13 日間（297 名）、④平成 27 年度：11 日間（297 名）、⑤平成 28 年度：16 日間（290 名）⑥平成 29 年度：13 日間（282 名）

(2) 広報誌 Volunteer Seminar Journal の発行

東北大学生を対象として、ボランティア活動に関心を持ってもらうため Volunteer Seminar Journal Vol.13（3500 部）を 4 月 1 日に発刊した。

(3) ボランティアツアー・スタディツアー等の開催

学内で被災地やボランティア活動に関心を持つ学生を募集して行うボランティアツアー等を、センター主催・共催の形式で 58 回開催し、のべ 558 名の学生が参加した。これは、学生ボランティア団体が定期的に行う被災地での活動以外に、「初めて被災地に行ってみたい」、「ボランティア活動に挑戦してみたい」という学生のニーズに応えるものである。

ここに以下で紹介する学生ボランティア団体独自の活動や、その他緊急災害支援等を含め、ボランティア活動実施届・ボランティア活動報告書が提出された活動をすべて合算すると、計 142 回、のべ 1240 名の東北大学生がボランティア活動に参加している。これまでの最高総数は前年度の計 108 回のべ 1062 名であり、年々ボランティア活動に参加する学生数は増加傾向にある。

※平成 29 年 12 月に「東北大学学生ボランティア支援に関する内規」（高度教養教育・学生支援機構長裁定）が定められたことにより、平成 30 年度から学生ボランティア支援は、東日本大震災関係のボランティアに関わらない活動についても支援の対象となった。

(4) 震災以外のボランティア体験プログラムの開発・実施

8 月～9 月にかけて「子どもの貧困問題解決に向けた取組に学ぶボランティア体験プログラム」（TGL ポイント対象、15 名参加）を実施し、日常の多様なボランティア活動への参加機会の提供を行った。

(5) 熊本地震被災地およびその他緊急災害支援

前年度に引続き、ボランティア支援学生スタッフ SCRUM の学生及びセンター教員を中心に、計 2 回（9 月 10 日～14 日、2 月 23 日～27 日）の熊本現地派遣を行い、熊本大学や熊本県立大学の学生と連携しながら仮設住宅等での被災者支援活動を行った（のべ 15 名参加）。

また、6 月 18 日に発災した大阪北部地震に際しての 2 回の現地派遣（のべ 4 名参加）、7 月上旬の西日本豪雨災害に伴う計 6 回の広島派遣（のべ 24 名参加）、9 月 6 日の北海道胆振東部地震に際しての 1 回の現地派遣（2 名参加）を行った。

(6) 留学生と国内学生が被災地で共に学ぶボランティアツアーの実施

留学生と国内学生が被災地で共に学ぶボランティアツアー等を開催した。留学生団体とも連携しながら、それぞれのメインプロジェクトの事前研修として、6 月に 2 回、8 月に 1 回、1 月に 1 回、宮城県内のツアーを開催した。それらの研修をもとに 7 月に米国のペイラー大学の学生との共同プロジェクトを開催し、南三

陸でのインタビュー活動を行った（バイラー大学生 10 名，国内学生 7 名）。11 月には福島での合同ツアーを行い（留学生 12 名，国内学生 10 名），2 月には南三陸でのツアーを開催した（留学生 9 名，国内学生 6 名）。

（7）ボランティア支援学生スタッフの育成，研修の実施

東北大学における学生の自発的なボランティア活動の活性化を推進するために，ボランティア支援学生スタッフ（愛称 SCRUM）を育成した。4 月に 3 回のスタッフ説明会を開催し，継続も含めて約 70 名がスタッフ登録し，センターの業務に参画した。

学生スタッフのボランティア・コーディネーターとしての力量形成のため，研修合宿及び集中会議を 5 月・10 月・3 月の計 3 回開催し，被災地ボランティアの課題やボランティア・リーダーとして必要な知識を学ぶ機会を提供した。また，センターの実施事業や学生のボランティア活動に関する連絡・相談を行うミーティングを計 30 回開催した。さらに，震災伝承に関わるツアーを 3 回，学習会を 6 回行った（震災伝承部）。うち 1 回は後述する「多大学合同東北被災地ツアー」であり，SCRUM 学生が全国各地の大学生に伝承を行う機会となった。また，人権課題に関わる学習会を計 8 回開催し，震災及び人権に関わる知識の提供を行った（人権共生部）。

（8）学生スタッフ及びボランティア団体の学生が成果報告を行う機会を提供する。

12 月には，東北学院大学シンポジウム「災害の時代と大学，そしてボランティア」にて，本学ボランティア支援学生スタッフ SCRUM の学生が登壇し，活動報告とパネルディスカッションを行った。

2. 学生ボランティア団体の支援

（1）ボランティア登録団体への支援

ボランティア団体登録制度を設け，本年度は 11 の学生ボランティア団体が登録を行った（昨年度は 9 団体）。学生ボランティア団体の活動は東日本大震災以外の活動にも及んでおり，学内で多様なボランティア活動が広まっている。これらの団体に対しては，より良い活動を行えるよう，倉庫の提供，会議室の貸し出し，備品の貸し出し等を行った。また，学生ボランティア団体が利用できる助成金や学内外の関連イベント等の情報を随時提供した。

なお，本年度は学生ボランティア団体が自立性を高め，自主的な活動が増加した。本センター主催・共催以外に学生ボランティア団体が独自に行なった活動（学生支援課に届け出のあったもののみ）は計 86 回であり，のべ 634 名の学生が様々なボランティア活動に参加した。

（2）学生ボランティア団体連絡会議（井戸端会議）の開催

学生ボランティア団体の連絡会議（通称・井戸端会議）を計 9 回開催し，情報交換や課題の共有，コラボ企画の発案，助成金情報の提供等を行った。本年度は，3 月 26 日に拡大版井戸端会議として，ボランティア団体間の交流会を開催した。

（3）課外・ボランティア活動研修会の開催

学生ボランティア団体および学生スタッフが安心・安全により良い活動を行うことを支援するために，課外・ボランティア活動研修会を計 5 回開催した。テーマとしては，「震災の経験を伝えるということーいのちを守るための震災伝承の意義」（5/15，講師：佐藤誠悦氏），「課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止のために」（7/3，講師：八幡悦子氏），「災害ボランティアセンター・運営サポーター養成講座」（10/23，共催：仙台市社会福祉協議会），「学生団体の組織運営」（12/4，講師：鈴木平氏），「自分と仲間の“こころ”を大切にする方法」（12/14，講師：高橋由佳氏）を取り上げた。

3. 学生ボランティア活動の成果の社会への発信

（1）オープンキャンパス・東北大学祭等での活動紹介

7 月のオープンキャンパスおよび 11 月の東北大学祭に学生スタッフの助力を得ながらパネル展示を行い，活動成果を広く高校生や本学学生の保護者，地域住民等に公開した。

（2）『課外・ボランティア活動支援センター紀要』の発刊

2017 年度末に刊行した『課外・ボランティア活動支援センター紀要』を HP 上で公開した。また，2018 年度版を 2019 年 3 月に発刊し，関係各所に配布した。

（3）助成金の取得と社会的評価

本年度は，赤い羽根共同募金，ユニバーサル財団，世界宗教者平和会議，キリン福祉財団，日本財団，大和証券福祉財団，日本財団学生ボランティアセンターの活動助成に本学の学生ボランティア団体が選定された。

また、Yahoo!基金事務局が行う「被災地復興支援活動学生ボランティアプログラム」の支援対象に本学が選定された。これは、本学学生のボランティア活動が社会的にも高い評価を得ていることの証である。

4. 課外活動の支援

(1) 課外活動団体リーダー層対象の合同研修会実施

課外活動団体リーダー層（大学祭実行委員会、新歓祭実行委員会、学友会報道部、生協学生委員会、SCRUM、@home など）対象の合同研修会を3回（6月、9月、11月）実施した。そこで挙げられた課外活動をする上での悩みに関して、学生団体が淹沢理事と意見交換をする会合を3回（7月、10月、11月）セッティングした。

(2) 学友会等と連携した課外活動支援

学友会体育部、文化部、課外活動支援係等の教職員が参加する定例会議を毎月1回開催し、適宜情報交換を行った。

(2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施

平成30年度には、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）として、東日本大震災及びボランティア関係の授業を計6コマ開講し、73名が受講した。

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	社会の構造 「東日本大震災からみる現代日本社会」	江口 怜, 西出 優子, 菊池 遼	【2Q】火1・木1 【2S】月4
基礎ゼミ	被災者の生活再建・ コミュニティ形成の課外とボランティア活動	小田中直樹, 江口 怜, 菊池 遼	【1S】月3・4
	共生社会に向けたボランティア活動一人権・ 多様性・エンパワメント	江口 怜	【1S】木5
	NPO と行政の協働—仙台市の地域課題を解決するアイデアを考えよう	西出 優子	【1Q】月3・4
国際 教育科目	被災者の生活再建・ コミュニティ形成の課題とボランティア活動	江口 怜, 菊池 遼	【2S】木4
	福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きる人々に寄り添う	江口 怜	【2S】金3

(3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

平成30年度に、国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として、以下を実施した。

(1) グローバルラーニングセンターと連携した国外学生の受け入れ

グローバルラーニングセンターと連携し、7月にバイラー大学の学生10名を特別訪問研修生として受け入れ、本学学生（7名）と共同で被災地視察等を行った。

(2) 国内の大学生・高校生との交流

本学のボランティア団体の学生が、中央大学や、熊本大学、熊本県立大学、流通科学大学、東京大学、宮崎大学、広島大学、国際基督教大学等の様々な大学生と被災地の活動現場および学内で交流を行った。また、7月中旬には神戸から4校の高校生が訪問し、学生スタッフと被災地の現状やボランティア経験等に関して意見交換を行った。兵庫県の尼崎西高校からは8月上旬にはボランティア活動での受け入れ、10月上旬には授業見学の受け入れを行った。

2月には、「多大学合同東北被災地ツアー」として、熊本大学、熊本県立大学、広島大学、神戸大学、東北学院大学、尚絅学院大学等の学生が本学を訪問した。被災地視察を本学学生と共同で行ったほか、本学学生が被災地の状況を説明する役目を担った。ツアーと合同で「東北大学ボランティアセミナー」も開催され、神戸大学より講師を招いた。セミナー内でも、活動報告・グループワークを通じて情報共有を行った。

Ⅲ 平成 30 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2018 5.21	第28回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える【15】） 「主体性」とは何だろうかー大学入試における評価とその限界への挑戦ー 基調講演：「主体性評価」にどのように向き合うか ～地方国立大学の立場から～ 西郡 大（佐賀大学 教授） 現状報告1：目に見える「積極性」は主体性なのか？ ～地方に生きる高校生の現実～ 千葉 栄美（青森県立田名部高等学校 教諭） 現状報告2：四国の進学校で生徒の「主体的」な活動を考える 石井 裕基（香川県立観音寺第一高等学校 教諭） 現状報告3：開成における生徒の主体性 有山 智雄（開成中学・高等学校 教諭） 現状報告4：東北大学 AO 入試における主体性評価の現状と課題 宮本 友弘（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	403
2	2018 8.3	アカデミックリーダーのためのインストラクショナルデザイン 講師：鈴木 克明（熊本大学 教授）	48
3	2018 8.28	授業デザインとシラバス作成 講師：串本 剛（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	36
4	2018 9.14	授業づくり：準備と運営 講師：呂本 俊亮（東北大学 災害科学国際研究所 教授）	32
5	2018 12.14	現代中国の大学教育とガバナンスの動向 講師：邬 大光（厦門大学 教授）	17
6	2019 1.24	学びのユニバーサルデザイン（UDL）で幅広い教育ニーズに対応できる講義を 講師：川俣 智路（北海道教育大学 准教授）	19
7	2019 3.15	シンポジウム「日本の未来を切り拓く産学循環型人材育成システム～就活で終わらない、学び続けチャレンジし続ける教育・雇用慣行への道筋～」 講演1：産学共同人材育成システムのめざすもの 寺坂 公佑（文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官） 講演2：教育効果の高い『経済同友会インターンシップ』による学生の成長と人材育成 藤巻 正志（公益社団法人 経済同友会 参与） 講演3：社会が求める大学教育とは？ 宇野 健司（株式会社 大和総研 調査本部 副部長（社会連携担当）） パネリスト：山田 礼子（同志社大学 社会学研究科・学部長・教授、大学教育学会会長）	43
8	2019 3.23	中国語教員育成の現状と課題(中国・台湾・日本を中心に) ～中国語教育が目指すもの～ 講演1：国際型中国語教員の養成 ― 台湾の現状及び経験 信 世昌（台湾国立清華大学 副学長・教授） 講演2：国際中国語教員育成の現状の分析 丁 安琪（華東師範大学 教授） 報告1：教員海外研修の実施と評価 趙 秀敏（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師） 報告2：ICT 活用中国語教育の実践と成果―教科書開発と PC からスマホへの転換― 張 立張（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）	40
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
9	2018 12.4	コーチング技能を活用した学生指導 講師：出江 紳一（東北大学 医工学研究科 教授）、倉重 知也（株式会社イグニタス 代表取締役）	45

No.	開催日	事業名	参加者数
10	2019 1.9	TiE ワークショップ「Tips for implementing the student-centered approach in classes conducted in English」 講師：Todd Enslen（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）、Barry Kavanagh（同機構 講師）	24
11	2019 3.2	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革～カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組～」 基調講演：エビデンスに基づく理工系学部教育の変革 Carl Wieman（スタンフォード大学 教授） 特別講演：ワールドクラス研究大学におけるアクティブラーニングの全学的導入～インペリアル・カレッジ・ロンドンの事例に学ぶ～ Martyn Kingsbury（インペリアル・カレッジ・ロンドン 教授） パネリスト：笹尾 真実子（日本学術会議 物理学委員会 物理教育研究分科会委員長、東北大学 名誉教授）、中村 教博（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授）	133
12	2019 3.3	サイエンス・エデュケーション・スペシャリストとその役割 話題提供1：サイエンス・エデュケーション・スペシャリストの役割と研修 Carl Wieman（スタンフォード大学 教授） 話題提供2：インペリアル・カレッジ・ロンドンにおける普及の取組 Martyn Kingsbury（インペリアル・カレッジ・ロンドン 教授）	38
学生支援力形成関連			
13	2018 11.29	発達障害学生の学びとキャリア：「入口」「真ん中」「出口」の支援 講師：田澤 実（法政大学 准教授）	40
マネジメント力			
14	2018 4.28	大学における教育と学習の評価 講師：木村 拓也（九州大学 准教授）	55
15	2018 4.28	ラーニング・アナリティクスの可能性 講師：緒方 広明（京都大学 教授）	53
16	2018 8.4	大学の戦略策定と経営 講師：篠田 道夫（桜美林大学 専任教授）	56
17	2018 8.4	大学におけるカリキュラム・マネジメント 講師：杉谷 祐美子（青山学院大学 教授）	58
18	2018 9.6	SDP シリーズ 第1回大学経営の危機と経営人材の育成 講演1：大学改革と私立大学経営 河田 梯一（日本私立学校振興・共済事業団 前理事長） 講演2：国立大学における経営者層形成の諸問題 山本 健慈（国立大学協会 専務理事） 講演3：経営人材育成の現状と課題 両角 亜希子（東京大学 大学院教育学研究科 准教授）	48
19	2018 10.20	若手職員のための大学職員論（10）大学職員のエスノグラフィー：「現場」を読み解き「未来」を見通す力を身につける ファシリテーター：川面 きよ（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任講師）	8
20	2018 10.27	特色ある大学を創るために「理念駆動型」の組織マネジメントを 講師：柳澤 康信（岡山理科大学 学長）	29
21	2018 11.9	SDP シリーズ 第2回 AI時代の大学の働き方改革と経営革新の切り札？～業務自動化ロボットと市場化テストの可能性～ 講師：村山 典久（スカイライトコンサルティング株式会社 事業開発特別顧問）、仁木 俊二（総務省 官民競争入札等監理委員会事務局 参事官補佐）	77

No.	開催日	事業名	参加者数
22	2018 11.19	IDE 大学協会東北支部 平成 30 年度 IDE 大学セミナー 大学と社会との対話～産官学出身 3 学長が語るビジョン～ 講師：宮内 孝久（神田外語大学 学長）、合田 隆史（尚絅学院大学 学長）、大野 英男（東北大学 総長）	84
23	2018 12.12	SDP シリーズ 第 3 回「第 3 期認証評価にどう対応するか～内部質保証の重点項目化の意味～」 講演 1：内部質保証はこれだけで十分～大学改革支援・学位授与機構 3 巡目基準の観点から～ 土屋 俊（大学改革支援・学位授与機構 特任教授） 講演 2：第 3 期認証評価の特質～大学基準協会が求める内部質保証システムの有効性～ 工藤 潤（大学基準協会 事務局長） 講演 3：日本高等教育評価機構の新システムにおける内部質保証の位置づけについて 伊藤 敏弘（日本高等教育評価機構 事務局長/評価研究部長）	87
24	2019 2.8	東北大学における「内部質保証」の現状と今後の課題 報告 1：6 年一貫の学修到達度評価（学修レベル認定制度）による内部質保証 安藤 晃（東北大学 工学研究科 副研究科長）、須藤 祐子（東北大学工学研究科 准教授） 報告 2：環境人材を育成する文理一体教育とその内部質保証 壹岐 伸彦（東北大学環境科学研究科 教授） コメンテーター：野田 文香（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	24
25	2019 2.23	若手職員のための大学職員論（11）～自己研鑽型 SD「龍谷未来塾」の試みに学ぶ～ 話題提供：岡田 雄介（龍谷大学学長室（企画推進）次長） ファシリテーター：龍谷未来塾修了生、川面 きよ（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任講師）	28
26	2019 3.30	アカデミック・リーダー育成プログラム成果報告会 成果報告 1：共通教育カリキュラムの再編と共通教育機構の実質化 高良 要多（桃山学院大学 教務部教務課 専任職員） 成果報告 2：Institutional Research の機能強化による TGGV150 の実質化に向けて 齋藤 渉（東北学院大学 学長室インスティテュショナル・リサーチ（IR）課） 成果報告 3：退学者・学習遅滞者を減らすために通信教育部ができること 古藤 隆浩（東北福祉大学 通信教育事務部 課長） 成果報告 4：東北大学国際化を包括的に推進するための学内組織との連携強化 米澤 由香子（東北大学 国際連携推進機構 准教授） 成果報告 5：我が国の健康・福祉分野の課題解決に向けて大学が貢献できる 3 つの取り組み 都竹 茂樹（熊本大学 教授システム学研究センター 教授） 成果報告 6：北海道大学高等教育研修センターと共に目指す大学教育改善の道 山本 堅一（北海道大学 高等教育推進機構 特任准教授） 成果報告 7：キャンパス統合による学部・学科改組構想の策定と内部質保証との接続 長山 琢磨（学校法人東北学院 法人事務局庶務部庶務課）	44
27	2019 3.30	今、求められる大学変革リーダーの育成 講師：坂東 真理子（昭和女子大学理事長・総長）	40
正午 PD 会			
28	2018 4.24	第 53 回正午 PD 会「変革の中のフランスの高等教育」 講師：野田 文香（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	22
29	2018 5.8	第 54 回正午 PD 会「英語外部検定試験における長文読解用英文の難易度比較」 講師：秦野 進一（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任教授）	25
30	2018 5.23	第 55 回正午 PD 会「ブータン王国の研究について 一言語学的研究を中心に」 講師：西田 文信（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	20
31	2018 6.13	第 56 回正午 PD 会「東北大学の留学の現状と促進に向けて：東北大生の留学動向と留学の機会・学習成果」 講師：渡部 由紀（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	23

No.	開催日	事業名	参加者数
32	2018 6.26	第 57 回正午 PD 会「東北大学における全学教育のクォータ制」 講師：串本 剛（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）、松河秀哉（同 講師）	18
33	2018 7.13	第 58 回正午 PD 会「教養教育におけるアートを通じた創造性の促進」 講師：縣 拓充（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 助教）	15
34	2018 7.25	第 59 回正午 PD 会「東北大学の教養教育を考える：中期目標・中期計画を題材に」 講師：山内 保典（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	27
35	2018 8.1	第 60 回正午 PD 会「海外で学生の学びをファシリテート！：教員引率型海外研修プログラムの開発と実践」 講師：末松 和子（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授）、高橋美能（同 准教授）、スプリング・ライアン（同 講師）	26
36	2018 10.10	第 61 回正午 PD 会「外国人留学生の日本における就職活動の課題 ―東北イノベーション人材育成プログラム（DATEntre）を通じて―」 講師：門間 由記子（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター 特任准教授）	14
37	2018 10.25	第 62 回正午 PD 会「東北大学「特別支援室」の現在 Current situation of the Disability Services Office in Tohoku University」 講師：榊原 佐和子（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学生相談・特別支援センター 特任講師）	15
38	2018 11.9	第 63 回正午 PD 会「たかが風邪、されど風邪」 講師：木内 喜孝（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 保健管理センター 教授）	8
39	2018 11.27	第 64 回正午 PD 会「東北大学における課外・ボランティア活動支援の現状と可能性」 講師：江口 怜（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター 特任助教）	10
40	2018 12.13	第 65 回正午 PD 会「東北大学における外国人留学生の受入れ―現状と課題―」 講師：渡部 留美（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 准教授）	29
41	2019 1.17	第 66 回正午 PD 会「初級日本語クラスにおける文字指導の工夫」 講師：菅谷 奈津恵（東北大学高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター 准教授）	21
42	2019 1.29	第 67 回正午 PD 会「学際高等研究教育院の紹介 Interdisciplinary Advanced Research and Education」 講師：山谷 知行（東北大学 教養教育院 総長特命教授）	8
43	2019 2.7	第 68 回正午 PD 会「短編映画制作を通じたプロジェクト型外国語学習」 講師：深井 陽介（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター 准教授）	15
健康科学セミナー			
44	2018 10.23	健康科学セミナー第 1 回 「危険な風邪とは ―風邪診療の pitfall―」 講師：木内 喜孝（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	16
45	2018 11.20	健康科学セミナー第 2 回 「自閉症スペクトラム障害」 講師：伊藤 千裕（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	18
46	2018 12.18	健康科学セミナー第 3 回 「糖尿病における食事療法と運動療法の実践」 講師：小川 晋（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	14
47	2019 1.15	健康科学セミナー第 4 回 「薬物乱用事件と大学」 講師：北 浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	14

No.	開催日	事業名	参加者数
48	2019 2.19	健康科学セミナー第5回 「心血管病と性差について」 講師：佐藤 公雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	15
その他			
49	2018 7.26	東北大学における教養教育の高度化を考える 講師：羽田 貴史（東北大学 名誉教授）、中村 教博（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）、竹林 修一（同機構 准教授）、山谷 知行（同機構／教養教育院 教授）、山内 保典（同機構 准教授）、大森 不二雄（同機構 教授）	43
50	2018 10.19	学際連続セミナー第1回「ことばのデザイン ー意識してことばを紡ぐー」 講師：中島 裕介（歌人）	19
51	2018 10.26	学際連続セミナー 第2回「ことばのデザインー意識してことばを紡ぐー」 講師：木村 博之（チューブグラフィックス代表取締役）	16
52	2018 11.13	学際連続セミナー2018“これからどうする？” 実践編『イラスト1枚で伝える技法「インフォグラフィックス」を学ぶ』 講師：木村 博之（チューブグラフィックス代表取締役）	41
53	2018 12.7	日韓相互理解の時代「知っているようで知らない韓国」 講師：ジョン・ウソン（韓国「特許法人 LIM&JEONG」代表）	60
54	2019 2.13	平成30年度 英語教育改革推進FD 東北大学英語教育改革に向けてー到達目標と高大接続ー 講師：Srikant Gopal (Educational Testing Service (ETS) Executive Director)、根本 斉 (CIEE (国際教育交換協議会) 事業統括本部長)、秦野 進一（東北大学高度教養教育・学生支援機構 入試センター 特任教授）	45
55	2019 3.24	Tohoku University Professional Development Seminar for Language Teachers 2019 講師：アンディ・ランクシアー（郡山ザベリオ学園小学校教諭）、平塚 貴晶（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）、宮原 万寿子（国際基督教大学 准教授）	34

2. 刊行物一覧

発行年月	発行	刊行物名
2018.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第4号 2018
2018.9	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 76 第28回東北大学高等教育フォーラム／新時代の大学教育を考える [15]報告書 「主体性」とは何だろうかー大学入試における評価とその限界への挑戦ー
2018.9	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 77 「第12回東北大学全学教育FD」報告書
2019.3	IDE 大学協会東北支部 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 78 平成30年度IDE東北支部 IDE大学セミナー／第29回東北大学高等教育フォーラム 報告書 「大学と社会との対話ー産官学出身3 学長が語るビジョンー」
2019.2	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 79 第12回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップー報告書ー
2019.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ 15 「大学入試における「主体性」の評価 その理念と現実」
2019.3	高度教養教育・学生支援機構	PD ブックレット Vol.12 「海外留学プログラム開発のためのハンドブック」
2019.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第5号 2019

3. 教員の活動（平成30年4月～平成31年3月の主な活動）

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
機構長	東北大学理事・副学長	滝 澤 博 胤	-
副機構長	教 授	関 根 勉	46
副機構長	東北大学副学長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
副機構長の補佐	特任教授	関 内 隆	47
教育評価分析 センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	杉 本 和 弘	47
	副センター長/准教授	串 本 剛	48
	講 師	松 河 秀 哉	49
	特任講師	川 面 き よ	50
大学教育支援 センター (Center for Professional Development)	センター長/教授	大 森 不二雄	50
	副センター長/准教授	岡 田 有 司	51
	教 授	杉 本 和 弘 (兼)	(47)
	准教授	野 田 文 香	51
	助 教	渡 邊 文 枝	53
	助 教	水 松 巳 奈	53
入試センター (Admission Center)	センター長/理学研究科教授	長 濱 裕 幸	-
	副センター長/教授	石 井 光 夫	54
	教 授	倉 元 直 樹	54
	特任教授	石 上 正 敏	56
	特任教授	庄 司 強	57
	特任教授	檜 田 豪 利	58
	特任教授	秦 野 進 一	59
	准教授	宮 本 友 弘	60
	助 教	泉 毅	62
言語・文化教育 センター (Center for Culture and Language Education)	センター長/副機構長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	橘 由 加	63
	副センター長/教授	上 原 聡	64
	教 授	北 原 良 夫	65
	教 授	吉 本 啓	67
	教 授	佐 藤 勢 紀子	68
	准教授	竹 林 修 一	69
	准教授	平 塚 貴 晶	70
	准教授	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	70
	准教授	カン・ミンギョン (Minkyong KANG)	71
	准教授	深 井 陽 介	71
	准教授	田 林 洋 一	72
	准教授	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	72
	准教授	西 田 文 信	73
	准教授	菅 谷 奈 津 恵	74
	准教授	副 島 健 作	76
	准教授	中 村 渉	77
	准教授	金 鉉 哲 (キム・ヒョンチョル)	77
	講 師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	78
	講 師	トッド・エンスレン (Todd ENSLEN)	78
	講 師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	79
	講 師	ジョセフ・スタヴォイ (Joseph STAVOY)	79
	講 師	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	79
	講 師	リチャード・メレス (Richard MERES)	80
	講 師	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	81

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
	講 師	三 上 傑	83
	講 師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	83
	講 師	遠 藤 スサンネ (Susanne ENDO)	83
	講 師	高 橋 美 穂	84
	講 師	ベルトラン・ソゼド (Bertrand SAUZEDDE)	84
	講 師	張 立 波 (チョウ・リツハ)	85
	講 師	趙 秀 敏 (チョウ・シュウビン)	85
	講 師	王 其 莉 (オウ・キリ)	87
	講 師	林 雅 子	87
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	粕 壁 善 隆	88
	副センター長/教授	末 松 和 子	89
	教 授	渡 邊 由美子	90
	特任教授	フランク・ハンセン (Frank HANSEN)	-
	准教授	高 橋 美 能	91
	准教授	富 田 真 紀	91
	准教授	渡部(わたなべ) 留美	92
	准教授	渡部(わたなべ) 由紀	92
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	-
	准教授	イゴール・トルシン (Igor TRUSHIN)	-
	准教授	マルタン・ロバール (Martin ROBERT)	93
	准教授	小 池 武 志	93
	特任准教授	坂 本 友 香	93
	講 師	島 崎 薫	94
	特任助教	林 聖 太	94
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/教授	中 村 教 博	95
	副センター長/准教授	中 川 学	96
	副センター長/准教授	山 内 保 典	96
	総長特命教授	野 家 啓 一	97
	総長特命教授	座小田 豊	97
	総長特命教授	山 口 隆 美	97
	総長特命教授	宮 岡 礼 子	98
	総長特命教授	米 倉 等	99
	総長特命教授	鈴 木 岩 弓	100
	総長特命教授/学際高等研究教育院	山 谷 知 行	-
	総長特命教授	高 木 泉	-
	総長特命教授	水 野 健 作	100
	副機構長/教授	関 根 勉	(46)
	教 授	芳 賀 満	101
	准教授	葛 生 政 則	102
	准教授	田 嶋 玄 一	103
	准教授	藤 本 敏 彦	103
	助 教	高 橋 禎 雄	104
	助 教	太 田 宏	104
	助 教	岡 壽 崇	105
	助 教	小 俣 乾 二	107
	助 教	永 尾 翔	107
	助 教	石 田 章 純	107
	助 教	壁 谷 典 幸	108
	助 教	中 野 元 善	-

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	芳 賀 満	(101)
	副センター長/准教授	佐 藤 智 子	109
	助 教	縣 拓 充	109
	助 教	頼 羿 廷	110
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/経済学研究科教授	秋 田 次 郎	-
	副センター長/理学研究科教授	松 澤 暢	-
	副センター長/准教授	猪 股 歳 之	110
	准教授	高 橋 修	111
	特任准教授	富 田 京 子	-
	特任准教授	門 間 由記子	112
学生相談・特別支援 センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/歯学研究科教授	菅 原 俊 二	-
	副センター長/教授	池 田 忠 義	112
	特任教授	吉 武 清 實	113
	准教授	中 島 正 雄	114
	講 師	小 島 奈々恵	114
	講 師	中 岡 千 幸	116
	助 手	佐 藤 静 香	116
	助 教	松 川 春 樹	117
	講 師	長 友 周 悟	118
	特任講師	榑 原 佐和子	118
	助 手	高 橋 真 理	119
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木 内 喜 孝	119
	副センター長/教授	伊 藤 千 裕	121
	准教授	小 川 晋	121
	准教授	佐 藤 公 雄	122
	助 教	二 宮 匡 史	125
	助 教	高 館 達 之	126
	助 教	北 浩 樹	126
	助 教	中 西 涉	127
	助 教	沼 倉 忠 久	127
	助 教	山 本 沙 織	127
課外・ボランティア 活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/経済学研究科教授	小田中 直 樹	-
	副センター長/医工学研究科教授	永 富 良 一	-
	特任助教	江 口 怜	128

関根 勉(教授)

〔専門分野〕

放射化学

原子力学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 自然科学総合実験(代表) 1, 2セメ

全学教育 化学B 1, 2セメ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 化学B 3セメスタ

大学院教育 放射化学特論IA 未設定

大学院教育 先端理化学特論IB 未設定

他大学 放送大学 通年

〔学位論文指導・審査〕

博士3名(主査1名、副査2名)、修士1名(副査1名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 口頭発表件数:7件 論文発表件数:6件 学会発表件数:7件 国際会議発表件数:1件

〔論文〕

(共著) 「1. 環境からウシの歯への Sr-90、Cs-137 の移行機構」 『放射化学』 37巻 9-11 2018年5月

(共著) 「福島第一原発事故被災ウシの歯・骨中の放射性・安定セシウムの測定」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 219-224 2018年6月

(共著) 「福島原発事故後の土壌中での Sr-90、Cs-137 の挙動とウシの歯への移行機構」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 225-230 2018年6月

(共著) 「福島第一原子力事故被災サル硬組織中の放射能濃度」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 231-236 2018年6月

(共著) 「南相馬市・浪江町野生ニホンザル・アライグマの放射性セシウムの臓器内放射能濃度」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 237-242 2018年6月

(共著) 「A luminescent dicyanonitridotechnetium(V) core with tridentate ligand coordination sites」 『Dalton Trans』 2018年9月

(共著) 「Substituent effect on the yield of unpaired electrons in DNA bases studied by electron paramagnetic resonance」 『"Appl. Phys. Lett."』 113巻 243701- 2018年12月

(共著) 「Intestinal Bacteria as Powerful Trapping Lifeforms for the Elimination of Radioactive Cesium」 『frontiers in Veterinary Science』 6巻 1-6 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「東北大学における初年次学生向けの融合型理科実験」 口頭(招待・特別): 化学系学協会東北大会 2018年9月

〔学内活動〕

全学委員会 実験科目委員会 実施委員会委員長 2006年4月～2019年3月

全学委員会 実験科目委員会計画委員会委員 2006年4月～

全学委員会 東北大学学務審議会委員 2007年11月～2019年3月

全学委員会 教務委員会委員 2012年4月～2019年3月

全学委員会 学務審議会副委員長 2016年4月～2019年3月

部局内委員会 総務委員会委員長 2016年4月～2019年3月

部局内委員会 自己評価委員会副委員長 2018年4月～2019年3月

部局内委員会 自己評価作業部会長 2018年4月～2019年3月

その他の主要活動 東北大学サイクロトロラジオアイソトープセンター課題採択部会委員 2001年4月～

その他の主要活動 評議員 2016年4月～2019年3月

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験のための教員・TA ガイダンス(FD/SDの企画・運営)

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院理学研究科化学専攻 教授 2006年1月～

学外 放送大学 非常勤講師 2017年4月～

学外 仙台育英学園高等学校 指導講師 2012年4月～

学外 宮城県 女川原子力発電所環境測定技術会委員 1991年4月～

〔学外の社会活動〕

サイエンスコラボ

寒河江高校体験授業

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

宮城県 環境放射能監視検討委員会 委員 1991 年 4 月～

宮城県 女川原子力発電所環境調査測定技術会 委員 1991 年 4 月～

宮城県 女川原子力発電所 2 号機の安全性に関する検討会 構成員 2014 年 11 月～

関内 隆 (特任教授)

〔専門分野〕

西洋史

経済史

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ：東日本大震災から復興へー感じ、考え、議論するー 1 セメスタ

全学教育 基幹科目「人間と文化」：【展開ゼミ】自らの眼で確かめ、議論し、発表しようー復興を学際的に考えようー 2 セメスタ

他大学 外国史 3, 4 セメ

〔学内活動〕

その他の主要活動 評価分析室員 2004 年 8 月～2019 年 3 月

その他の主要活動 評価分析室副室長 2009 年 4 月～2019 年 3 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

岩手史学会 評議員 1981 年 4 月～

東北史学会 評議員 1996 年 4 月～

社会経済史学会 評議員 2003 年 1 月～2019 年 3 月

東北大学出版会 理事 2004 年 7 月～

岩手県地方独立行政法人評価委員会 専門委員 2011 年 4 月～

東北学院大学 外部評価委員会委員 2013 年 4 月～2019 年 3 月

公益財団法人大学基準協会基準委員会 委員 2013 年 6 月～

杉本 和弘 (教授)

〔専門分野〕

教育社会学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 社会学「現代大学論」 2 セメスタ

全学教育 基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」 1 セメスタ

その他 フィールドワークで学ぶ日本の社会と教育 2 セメスタ

〔会議の発表・講演〕

「教養教育のグローバル展開ーオーストラリアと中国の事例ー」 口頭 (一般)：日本高等教育学会第 21 回大会 2018 年 6 月

「東北大学履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD)」の開発・運営と課題」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)：大学教育学会第 40 回大会ラウンドテーブル「日本における大学教職員職能開発 プログラムの新展開ー新たなステージへの挑戦ー」 2018 年 6 月

「豪州における大学職員と職能開発の動向」 口頭 (一般)：大学教育学会第 40 回大会 2018 年 6 月

「内部質保証システムの確立と効果的運用に向けて」 その他：宮城大学 SD 2018 年 8 月

「教学マネジメントの確立に向けてー教職協働と職員の能力育成ー」 その他：東北文化学園大学 SD 研修会 2018 年 8 月

「豪州の大学におけるアカデミック・ガバナンスー「同僚制原理」の変容と危機ー」 口頭 (一般)：日本教育学会第 77 回大会 2018 年 8 月

「Establishment of internal quality assurance system at research universities in Japan: Challenges for Tohoku University」 その他：UCL-Tohoku Higher Education Workshop 2018 年 10 月

〔総説・解説記事〕

(共著)「法政大学：HOSEI2030 の策定と実施を通して具現化する「自由を生き抜く実践知」」 『カレッジマネジメント』 211 号 42-45 2018 年 7 月

(共著)「東北学院大学：東日本大震災を経て戦略的に推進する地域貢献型の大学づくり」 『カレッジマネジメント』 212 号 48-51 2018 年 9 月

(共著)「大阪府立教育センター附属高等学校：深い学びを可能にする教科横断型の「探究ナビ」を開発・実践」 『カレッジマネジメント』 213 号 30-33 2018 年 11 月

〔学内活動〕

全学委員会 教育情報・評価改善委員 2011 年 4 月～

全学委員会 学務審議会委員 2012 年 4 月～

全学委員会 教務委員会 2017 年 4 月～

その他の主要活動 評価分析室員 2013 年 4 月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014 年 4 月～

その他の主要活動 グローバル人材育成推進事業実施委員会委員 2014 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

オセアニア教育学会紀要編集委員会 委員長 2012 年 1 月～

日本高等教育学会紀要編集委員会 委員 2013 年 6 月～

日本比較教育学会紀要編集委員会 委員 2014 年 6 月～

串本 剛(准教授)

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ「社会調査入門」 前期

全学教育 カレント「大学生のレポート作成入門」 前期

全学教育 カレント「みせる, 学び」 後期

全学教育 言語表現の世界「読んで書く作法の理解と実践」 前期前半

全学教育 国際教育科目「異文化理解」 後期

全学教育 言語表現の世界「読んで書く作法の理解と実践」 後期後半

〔論文〕

(単著)「学士課程教育改革の効果を問う: 学位プログラムの構造化と学修成果に係る 3 つの指標」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』
4 巻 247-258 2018 年 5 月

(単著)「卒業研究への投下時間: 専門分野別の規定要因と効果」『学生の成長を支える教育学習環境に関する調査研究』 195-206 2018 年 5 月

(単著)「改革状況調査が見せるもの, 隠すもの」『IDE 現代の高等教育』 605 号 31-36 2018 年 11 月

〔会議の発表・講演〕

「卒業研究の研究 その 3: 学修成果との関係を中心に」 口頭 (一般): 大学教育学会第 40 回大会 2018 年 6 月

「東北大学における学修成果調査: 学生調査の主体に関する考察」 その他: 平成 30 年度 高等教育公開セミナー 2018 年 8 月

「Graduation research in Japanese higher education: case of social sciences」 ポスター (一般): 17th Annual Hawaii International Conference
on Education 2019 年 1 月

〔総説・解説記事〕

(共著)「雇用者調査とその結果の概要」『東北大学の教育に関する卒業・修了者/雇用者調査報告書』 32-35 2018 年 11 月

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

(挑戦的)萌芽研究 文系学部における卒業研究の成績評価方法: 学士課程教育の総括的評価の可能性を探る 2017 年 4 月～2019 年 3 月 代表者

(挑戦的)萌芽研究 自由記述の自動分類に基づいた授業評価の分析と大学における教育改善への包括的活用 2017 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(B) 学士課程カリキュラムの共通性に関する実証分析 2018 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 基礎ゼミ委員会 指名委員 2010 年 4 月～2019 年 3 月

全学委員会 基幹科目委員会 指名委員 2010 年 4 月～

全学委員会 教育情報・評価改善委員会 指名委員 2011 年 4 月～

全学委員会 学務審議会 指名委員 2015 年 4 月～

全学委員会 教務委員会 指名委員 2016 年 4 月～

全学委員会 附属図書館学習支援委員会 委員 2016 年 4 月～

全学委員会 グローバルリーダー育成プログラム運営委員会 委員 2018 年 4 月～2019 年 3 月

全学委員会 カレントトピックス科目委員会 委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 全学教育改革推進 WG 委員 2019 年 1 月～2019 年 3 月

全学委員会 教育の質保証検討部会 委員 2019 年 1 月～2019 年 3 月

部局内委員会 紀要編集委員会 副委員長 2018 年 4 月～

その他の主要活動 IDE 大学セミナー実行委員会 委員 2014 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

「卒業生調査と雇用者調査の結果及び分析: 雇用者調査」『東北大学教育調査研究会(第 4 回)』(講師)

「授業デザインとシラバス作成」教育関係共同利用拠点提供プログラム『PD/PFFP/NFP』(講師)

東北大学における「内部質保証」の現状と今後の課題(FD/S Dの企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

大学教育学会 代議員 2015 年 4 月～2019 年 3 月

大学教育学会 編集委員会 編集幹事 2015 年 7 月～

〔学外の社会活動〕

会津高校東北大学研修

アセスメント・ポリシーを考える：コモン・ルーブリックの原理と可能性

アセスメント・ポリシーを考える：授業デザインとシラバス作成

主体的学修とシラバスは両立するのか：授業設計による媒介を踏まえた検討

シラバス作成を通して成績評価方法を考える

松河 秀哉（講師）

〔専門分野〕

教育工学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 前期

全学教育 基礎ゼミ(大学で学ぶ意味を考える) 前期

全学教育 テクノロジ化社会における学びを考える(展開ゼミ) 後期

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 後期

他大学 教育工学 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

第1回いわて高等教育コンソーシアムFD・SD研修会において、「アンケートの自由記述を分析する：テキストマイニング入門～トピックモデルを用いた授業評価アンケートの自由記述の分析～」と題して講演を行った

〔論文〕

〔共著〕「トピックモデルによるテキスト分析を支援するソフトウェアの開発」『日本教育工学会論文誌』42巻0号 37-40 2018年12月

〔共著〕「Analysis of the free descriptions obtained through course evaluation questionnaires using topic modeling」『Educational technology research』2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「タブレットを活用した保育における保育者の援助活動の変容」口頭（一般）：第71回日本保育学会 2018年5月

「SIG-01 高等教育／FD 野取り組みとSIG セッションの概要」口頭（一般）：日本教育工学会第33回全国大会講演論文集 2018年9月

「トピックモデルを用いた統一基準による子育て不安の分類」ポスター（一般）：日本教育工学会第33回全国大会講演論文集 2018年9月

「子どもの学びと保育者の援助を支援する「ASCA」の開発」口頭（一般）：第15回子ども学会議 2018年11月

「自動選定した教学IRデータに基づくアカデミック・サクセスの予測」口頭（一般）：第27回教育学習支援情報システム（CLE）研究発表会 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 教育目標の達成に重要な教学データを自動選択するASモデル生成システム 2017年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 幼児の学びと保育者の保育を支援するタブレット用アプリとその活用に関する実証的研究 2017年4月～2020年3月 分担者

(挑戦的)萌芽研究 自由記述の自動分類に基づいた授業評価の分析と大学における教育改善への包括的活用 2017年4月～2020年3月 代表者

基盤研究(C) 学びのポートフォリオ共有による園と保護者の連携に関する研究 2017年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 園務情報システム利用の有用性と実質化についての開発的研究 2018年4月～2022年3月 分担者

挑戦的研究(萌芽) 市民の科学への参加・支援を加速化するオープンサイエンス・リテラシー教育モデル開発 2018年6月～2021年3月 分担者

〔学術関係受賞〕

日本教育工学会論文賞 授与機関：日本教育工学会 2018年9月

〔学内活動〕

部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～

〔学内教職員支援〕

教育調査研究会（平成30年7月2日開催）において、「卒業生調査と雇用者調査の結果及び分析」と題して報告し、議論を行った（FD／SDの企画・運営）

教育評価分析センターの企画によるFDとして、「東北大学における「内部質保証」の現状と今後の課題（平成31年2月8日開催）の企画・運営を行った（FD／SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本乳幼児教育学会 広報・企画委員 2010年2月～

日本教育工学会 SIG-01 高等教育・FD代表 2015年9月～

日本教育工学会大会実行委員 事務局長 2017年4月～2018年9月

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）日本教育工学会第34回全国大会 2018年9月28日～2018年9月30日

（国内会議主催）JSET-SIG01 高等教育・FD 第6回 セミナー「新たな学習環境をデザインするーラーニングコモンズ・アクティブラーニング教室の設計、実践、評価」 2018年12月16日

〔兼務、兼業など〕

学外 日本乳幼児教育学会 広報・企画委員会 委員 2010 年 4 月～
学外 日本教育工学会 大会実行委員会 2017 年 9 月～2018 年 9 月
学外 日本教育工学会 SIG01 高等教育・FD 代表 2015 年 6 月～

川面 きよ (特任講師)

〔専門分野〕

高等教育における組織開発・職能開発

〔その他研究活動〕

関西ラーニングコモンズ担当者ネットワーク

〔学内活動〕

その他の主要活動 教育評価分析センター 2015 年 11 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本教育工学会 大会企画委員会 委員 2017 年 1 月～

〔学外の社会活動〕

関西ラーニングコモンズ担当者ネットワーク

大森 不二雄 (教授)

〔論文〕

(共著) 「高等教育研究と経営学理論の対話から見えてくる新視点：革新的な大学組織の在り方を探索する学際的研究の試み」 『"東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 = Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University"』 4 号 227-237 2018 年
(共著) 「米国 STEM 教育における DBER (discipline-based education research) の勃興：日本の大学教育への示唆を求めて」 『"東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 = Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University"』 4 号 239-246 2018 年

〔著書〕

項目「大学管理機関（設置者）」『大学事典』平凡社 2018 年 6 月
第 11 章 大学のガバナンス『大学経営・政策入門』東信堂 2018 年 8 月

〔会議の発表・講演〕

「グローバルな視野の中で大学教員の役割とキャリアを考える～学問の自由と教育・運営の責務～」 その他: 平成 30 年度東北大学新任教員研修 2018 年 4 月
「「無償化」論議を機に大学改革の大転換を」 その他: 大学政策フォーラム 2018 年 6 月
「教養教育の課題を社会・学生・大学の三方向から考える」 その他: 高度教養教育セミナー (IEHE セミナー) 2018 年 7 月
「Changes in governance and organisation of the leading research universities in Japan」 口頭 (一般): UCL-Tohoku Higher Education Research Workshop 2018 年 10 月
「社会の中の大学教員～大学を取り巻く環境を直視し、教育と運営を考える～」 その他: 東北大学文学研究科 F D 2019 年 2 月
「国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革」趣旨説明」 口頭 (一般): 国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革～カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組～」 2019 年 3 月

〔総説・解説記事〕

(共著) 「大学に政府統制からの自由を」 『教育学術新聞』 2729 号巻 2-2 2018 年 6 月
(共著) 「高等教育の無償化に対する疑問 (下)」 『教育学術新聞』 2734 号巻 2-2 2018 年 7 月
(共著) 「高等教育の無償化に対する疑問 (上)」 『教育学術新聞』 2733 号巻 2-2 2018 年 7 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

(挑戦的)萌芽研究 博士課程出身の大学非正規職員に関する探索的研究: 高学歴ワーキングプアか新専門職か 2016 年 4 月～2019 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2016 年 4 月～
全学委員会 学務審議会教育情報・評価改善委員会委員 2016 年 4 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2016 年 4 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 教養教育推進ワーキンググループ 2016 年 6 月～
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター副センター長 2016 年 4 月～
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター共同利用運営委員会委員 2016 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

国際教育学会 副会長 2012 年 9 月～
大学教育学会 代議員 2015 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

公益財団法人 国連大学協力会 助成諮問委員会 助成諮問委員 2011 年 6 月～

岡田 有司 (准教授)

〔専門分野〕

教育心理学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ 1 セメスタ

全学教育 基幹科目「人間と文化(現代青年と心理)」 前期後半

全学教育 基幹科目「人間と文化(現代青年と心理)」 後期

全学教育 基幹科目「人間と文化(展開ゼミ)」 後期

大学院教育 学校カウンセリング特論(鳥取大学大学院) 前期集中

〔論文〕

(共著)「教学 IR において用いられる教育情報のマネジメントに関するプロセスモデル」『日本教育工学会論文誌』42 巻 4 号 313-322 2019 年 3 月

(共著)「共通教育マネジメントにおける実施運営体制・組織文化の役割—全国調査に基づく実証的研究」『東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要』5 巻 15-25 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「小中一貫校の総合的研究」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本教育学会第 77 回大会 2018 年 8 月

「オタクのパーソナリティ・キャラクターとの関わり方に注目して」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本パーソナリティ心理学会第 27 回大会 2018 年 8 月

「オタクの心理学(1)—アニメ・マンガ関連行動尺度作成の試み」 ポスター (一般) : 日本パーソナリティ心理学会第 27 回大会 2018 年 8 月

「オタクの心理学(2)—アニメ・マンガのキャラクターに対する態度尺度作成の試み」 ポスター (一般) : 日本パーソナリティ心理学会第 27 回大会 2018 年 8 月

「教養教育科目における授業選択理由とその関連要因」 口頭 (一般) : 日本教育工学会第 34 回全国大会 2018 年 9 月

「サブカルチャーの心理学(1)—オタクのダイバーシティとスペクトラム」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本心理学会第 82 回大会 2018 年 9 月

「障害理解教育を通じた大学生の発達障害に対する潜在的態度の変容—潜在連合テストを用いた検討」 ポスター (一般) : 日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「学校適応はどのようにとらえられるのか(10)—中学校への適応と友人関係の役割」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「学校適応に着目したキャリアガイダンスの新たな展望—思春期から青年期の移行に向けたよりよい援助サービスとは」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「障害理解教育を通じた大学生の発達障害に対する認識の変容—顕在的な指標に注目して」 ポスター (一般) : 日本発達心理学会第 30 回大会 2019 年 3 月

「公立小中一貫教育における子どもの発達と適応—A 市における施設一体型と連携型との比較を通して」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本発達心理学会第 30 回大会 2019 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 大学生に対する発達障害理解教育プログラムの開発と展開 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

基盤研究(B) 小中一貫校の総合的研究—実践と制度に着目して 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

部局内委員会 施設整備委員会副委員長 2018 年 4 月～

部局内委員会 機構改革推進本部構成員 2019 年 1 月～2019 年 3 月

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センターにおける大学教員準備プログラム(PFFP)、新任教員プログラム(NFP)の運営・実施 (FD/SD の企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

大学教育学会 学会誌編集委員 2016 年 9 月～

日本パーソナリティ心理学会 学会誌常任編集委員 2016 年 10 月～

日本発達心理学会 学会誌編集委員 2017 年 1 月～2018 年 12 月

日本発達心理学会 国内研究交流委員副委員長 2018 年 1 月～2018 年 12 月

8th International Conference on Data Science and Institutional Research PC member 2018 年 4 月～2018 年 7 月

〔学外の社会活動〕

尚絅学院高等学校 PBLⅡ ゲストティーチャー

野田 文香 (准教授)

〔専門分野〕

高等教育、比較教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 社会の構造：教育と社会 前期

全学教育 展開ゼミ：グローバリゼーションと教育 後期

〔論文〕

〔共著〕「Restructuring quality assurance frameworks: A comparative study between NIAD-QE in Japan and HEEACT in Taiwan」 『Higher Education Evaluation and Development』 12 巻 1 号 2-18 2018 年

〔会議の発表・講演〕

「学習支援を学修成果に結びつけるための設計と運営」 口頭（一般）：大学教育学会第 40 回大会 2018 年 6 月

「"Qualifications"とインテグリティ-国家資格枠組みに期待される役割-」 口頭（一般）：専門職高等教育質保証機構「学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究」 合同分科会 2018 年 8 月

「フランスにおける大学間連携と質保証システム改革：フランスの高等教育における質保証改革」 口頭（一般）：国立大学協会 2018 年 10 月

「認証評価からみた学修成果-大学卒業時に求められる力とは-」 口頭（一般）：信州大学高等教育研究センター シンポジウム 2018 年 10 月

「University Accreditation and Student Learning Outcomes」 口頭（一般）："The Asian Conference on Education, Toshi Center, Tokyo" 2019 年 3 月

〔総説・解説記事〕

〔共著〕「"Assessment of Learning Outcomes and Internal Quality Assurance Building in Higher Education in Japan and Taiwan: The Role of External Quality Assurance Agencies and Universities."」 『"INQAHE Funding Scheme Research and Innovation 2018 Final Report."』 2018 年 12 月

〔共同研究活動〕

大学の学習成果評価と内部質保証：日台比較研究 研究相手先：台湾 国外 2018 年 12 月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究(B) 国家資格枠組み (NQF) の意義と現実—フランスを事例に— 2017 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

〔受託研究費 INQAHE Funding Scheme Research and Innovation〕 Assessment of Learning Outcomes and Internal Quality Assurance Building in Higher Education in Japan and Taiwan: The Role of External Quality Assurance Agencies and Universities 2018 年 2 月～2019 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 評価分析室委員 2018 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立大学協会 「高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ」 委員 2017 年 3 月～

専門職高等教育質保証機構 文部科学省生涯学習政策局委託事業研究委員 2018 年 8 月～

〔会議の主催・運営〕

〔国内会議運営〕PD セミナー「ラーニング・アナリティクスの可能性」 2018 年 4 月

〔国内会議運営〕PD セミナー「大学における教育と学習の評価」 2018 年 4 月

〔国内会議運営〕第 28 回東北大学高等教育フォーラム「主体性」とは何だろうか—大学入試における評価とその限界への挑戦— 2018 年 5 月

〔国内会議運営〕PD セミナー「大学におけるカリキュラム・マネジメント」 2018 年 8 月

〔国内会議運営〕PD セミナー「大学の戦略策定と経営」 2018 年 8 月

〔国内会議運営〕PD セミナー「アカデミックリーダーのためのインストラクショナルデザイン」 2018 年 8 月

〔国内会議運営〕SDP シリーズ 第 1 回 大学経営の危機と経営人材の育成 2018 年 9 月

〔国内会議運営〕PD セミナー「大学の組織マネジメント～全学的に一体感ある改革を求めて～」 2018 年 10 月

〔国内会議運営〕SDP シリーズ第 2 回「AI 時代の大学の働き方改革と経営革新の切り札？ ～業務自動化ロボットと市場化テストの可能性～」 2018 年 10 月

〔国内会議運営〕【HELJ】第 3 回大学教育イノベーションフォーラム「AI 時代の大学教育」 2018 年 11 月

〔国内会議主催〕SDP シリーズ 第 3 回 認証評価と内部質保証 2018 年 12 月

〔国内会議主催〕TLP 特別セミナー「今、求められる大学変革リーダーの育成」 2019 年 3 月

〔国内会議主催〕履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」成果報告会 2019 年 3 月

〔国際会議運営〕国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革—カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組—」 2019 年 3 月

〔兼務、兼業など〕

学外 専門職高等教育質保証機構 文部科学省生涯学習政策局委託事業研究委員 2018 年 8 月～

学外 国立大学協会 2017 年 3 月～

学外 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 客員准教授 2018 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

国立大学協会 「高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ」 委員 2017 年 3 月～

渡邊 文枝(助教)

[著書]

「早稲田大学における遠隔教育の普及と推進」, 姉川恭子・石井雄隆・山田晃久(編著)『大学総合研究センターの今一教育改革に挑む早稲田一』(早稲田大学出版部, 2019年3月, 第5章, 130-159頁)

[学内活動]

部局内委員会 大学教育支援センターにおける大学教員準備プログラム(PFFP), 新任教員プログラム(NFP)の運営・実施のサポートを行った。

[学会活動および外部機関における活動]

日本教育工学会研究会委員, 大会企画委員, 大会実行委員,

日本教育メディア学会学会誌編集委員

[社会教育活動]

雑誌取材1件(「学習意欲や講座満足度を高めるために, 相互評価の有効活用をすすめたい」, 日本オープンオンライン教育推進協議会『2017年度事業報告レポート』(JMOOC事務局, 2018年6月, 20-21頁) " "

水松 巳奈(助教)

[専門分野]

教育社会学

比較・国際教育

[論文]

(単著)「Weaving Innovation into Tradition: Factors Influencing Campus Internationalization at a Japanese University」『University of Minnesota』2018年12月

(単著)「入学前教育としての海外研修における学習成果の検証ー参加者の体験レポートと追跡アンケート調査の比較からー」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 第5号』213-223 2019年3月

[著書]

東北大学 学内と海外で育成するグローバルリーダー(第2部 大学・高校におけるグローバル教育の実施状況)『グローバル人材育成教育ハンドブック(第2部 大学・高校におけるグローバル教育の実施状況)』2018年10月

[会議の発表・講演]

「A Case Study of Internationalization-at-Home at a Japanese University」口頭(一般): Asia-Pacific Association for International Education 2019 2019年3月

「Enhancing Global Citizenship through Intercultural Learning on Campus and Abroad」口頭(一般): Asia-Pacific Association for International Education 2019 2019年3月

[共同研究活動]

Beyond Dashboard 研究相手先:アメリカ合衆国 Pennsylvania State University 国外 2018年10月～

[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

その他 若手研究 日本の大学における「内なる国際化」発展に向けての基礎研究 2018年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018年4月～2022年3月 分担者

[学内活動]

その他の主要活動 大学教員準備プログラム(PFFP)の運営・実施・調査 2018年10月～2019年3月

その他の主要活動 新任教員プログラム(NFP)の運営・実施・調査 2018年10月～2019年3月

その他の主要活動 PDP オンラインの運営・管理 2018年10月～

その他の主要活動 PD モジュールの整理・作成 2018年10月～

その他の主要活動 センター試験監督業務 2019年1月～2019年1月

その他の主要活動 大学変革リーダー育成プログラム(TLP)の企画・運営・実施 2019年1月～

[学内教職員支援]

PFFP/NFP プログラムの一環として国内大学見学を実施・引率(FD/SDの企画・運営)

[国際交流実績]

アメリカ合衆国 カリフォルニア大学リバーサイド校(大学間) 2013年9月～

[会議の主催・運営]

(国内会議主催) 第3回大学教育イノベーションフォーラム「AI時代の大学教育」 2018年11月3日

(国内会議運営) 国際教育夏季研究大会 2019年2月10日～2019年8月28日

(国内会議主催) 国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革ーカール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組ー」 2019年3月2日～2019年3月3日

石井 光夫 (教授)

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育学研究科 教育政策科学特論 前期 教育政策科学演習 後期

〔論文〕

(単著)「台湾の2022年入試改革—学習ポートフォリオを活用する「個人申請入学」を主流に」『大学入試における「主体性」の評価—その理念と現実—』東北大学高等教育ライブラリ 15巻 171-190 2019年3月

〔総説・解説記事〕

(共著)「新しい時代の教育システムを考える—大学入試改革の理念と実態—」『東北教育学会研究紀要』22号 2-28 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 入学試験審議会等入試関係委員会委員 2004年4月～

全学委員会 Future Global Leadership 実施委員会委員 2012年4月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会委員 2014年10月～

その他の主要活動 入試センター兼務 2005年4月～

その他の主要活動 広報戦略室室員 2010年4月～2018年8月

その他の主要活動 中国代表事務所所長補佐 2012年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立大学アドミッションセンター連絡会議 幹事 2004年4月～

IDE 大学協会 IDE 大学セミナー実行委員会委員 2005年6月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) IDE 大学セミナー 2005年11月～

(国内会議主催) 東北大学高等教育フォーラム 2005年12月～

(国内会議主催) 東北大学高等教育フォーラム 2013年5月～

〔学外の社会活動〕

東北大学入試説明会

高校訪問

民間業者主催の大学相談会等への参加

東北大学進学説明会

倉元 直樹 (教授)

〔専門分野〕

教育心理学

社会心理学

教育学

科学教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

学部教育 実験心理学各論 1セメスタ

大学院教育 心理学特論 I 未設定

大学院教育 IT 教育基礎論特論 A 1セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論特論 I 未設定

大学院教育 教育情報学応用論研究演習 I 2セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論概論 2セメスタ

大学院教育 医療教育論 2セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

博士1名 (主査1名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生 (博士課程後期3年の課程) 論文発表件数:2件

〔教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)〕

総長賞: 東北大学 2019年3月27日

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 倉元研究室ゼミ

〔論文〕

- (単著) 「入試のデザインを考える——大学入試の諸原則と高大接続改革の深層——」 『大阪私立大学『大学教育』』 15巻2号 3-32 2018年4月
- (共著) 「"Current issues in large-scale educational assessment in Japan: focus on national assessment of academic ability and university entrance examinations."」 『"Assessment in Education: Principles, Policy & Practice"』 16巻2号 415-433 2018年8月
- (共著) 「国立大学個別学力検査「数学」に求められるもの——高校教育への波及効果を中心に——」 『教育情報学研究』 17巻 29-43 2018年12月
- (共著) 「小学4年生におけるコンピュータによる日本語文字入力スキルに関する調査——主として入力デバイスとキー配列の影響について——」 『教育情報学研究』 17巻 19-27 2018年12月
- (共著) 「国公立大学における大学入試センター試験の選抜機能——合否決定における大学入試センター試験の重みについて——」 『大学入試研究ジャーナル』 29巻 91-98 2019年3月

〔著書〕

大学入学者選抜における評価尺度の多元化と選抜資料としての調査書『大学入試における『主体性』の評価——その理念と現実——』東北大学出版会 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

- 「国公立大学における大学入試センター試験の選抜機能」 口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡協議会第13回大会 2018年5月
- 「高大接続改革への対応に関する高校側の意見——自己採点利用方式による第1次選考、認定試験及び新共通テスト記述式問題の活用——」 口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡協議会第13回大会 2018年5月
- 「東北大学のAO入試における「自己採点利用方式」に対する高校側の意見」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第60回総会 2018年9月
- 「大学入学共通テスト記述式問題の利用に対する高校側の意見」 ポスター（一般）：日本心理学会第82回大会 2018年9月

〔共同研究活動〕

異文化間交流研究会（旧 国際学校研究会）研究相手先：国内 1990年10月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（一般受託研究）個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究——記述式問題を中心に—— 2016年10月～

〔学内活動〕

- 全学委員会 入試企画・広報委員会広報ワーキンググループ座長 2016年4月～2019年3月
- 全学委員会 入試企画・広報委員会情報開示ワーキンググループ座長 2016年4月～2019年3月

〔学内教職員支援〕

- FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第1回）（講師）
- FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第5回）（講師）
- FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第7回）（講師）
- FD: 一般入試個別試験作題班会議研修・理科学目長研修（講師）
- 独立行政法人 大学入試センター見学（FD/SDの企画・運営）
- FD: 平成30年度AO入試懇談会（FD/SDの企画・運営）
- 平成31年度東北大学文学部入学試験（AO入試Ⅱ期）事前FDの講演（講師）
- 平成31年度東北大学文学部入学試験（AO入試Ⅲ期）事前FDの講演（講師）
- 岩手県立大学看護学部入試研修会講師（講師）

〔プロジェクト活動〕

- 東北大学アドミッションポリシー策定に関わる基礎調査
- 東北大学高等教育フォーラムの開催

〔学会活動および外部機関における活動〕

- 日本テスト学会 日本テスト学会誌編集委員 2004年8月～
- 日本テスト学会 理事 2005年8月～
- 国際教育学会（ISE） 理事 2006年6月～
- 国際教育学会（ISE） 学会誌「クオリティ・エデュケーション」編集委員 2007年4月～
- 国際教育学会（ISE） 学会賞「館糾賞」選考委員 2007年4月～
- 全国大学入学者選抜研究連絡協議会 企画委員会委員 2010年4月～
- 日本テスト学会 日本テスト学会誌編集出版委員会委員長 2011年9月～
- 国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～
- 日本テスト学会 学会誌編集方針に関するワーキンググループ座長 2018年4月～

〔会議の主催・運営〕

- （国内会議主催）第28回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える [16] 「主体性」とは何だろうか——大学入試における評価とその限界への挑戦—— 2018年5月21日

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院文学研究科 協力教員 1999 年 11 月～

学外 国立教育政策研究所 フェロー 2017 年 4 月～

学内 東北大学大学院教育学研究科 教授 2018 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

高校教員対象入試説明会（仙台二高）

東北大学・筑波大学・新潟大学合同進学説明会・相談会（札幌）

東北大学・筑波大学・新潟大学合同進学説明会・相談会（静岡）

大学訪問時の進路講演会（東桜学館中）

高校教員対象入試説明会（仙台）

東北大学・筑波大学合同進学説明会・相談会（大阪）

東日本難関大学合同説明会・相談会（福岡）

東北大学進学説明会・相談会（東京）

東北大学進学説明会・相談会（福岡）

宮城県高等学校進路指導研究会主催 東北大学・宮城教育大学・宮城大学 平成 30 年度入試説明会

夢ナビ LIVE2018（福岡）

宮城県私学経営者協議会主催研修会講師

秋田県 12 高校進学指導協議会主催研修会講師

東北大学キャンパスにおける進路講演会（東桜学館高）

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

国立大学法人 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 大学教育再生加速プログラム「お茶大発 新型 AO 入試（新フンボルト入試）」外部評価委員 委員 2015 年 3 月～

一般社団法人 国立大学協会 入試委員会 平成 32 年度以降の国立大学の入学者選抜の在り方に関するワーキンググループ委員 2017 年 7 月～
2019 年 6 月

〔報道〕

新聞（出演・執筆）「視標 大学入学テスト 根拠薄い英語民間委託 日程ありきに現場は懸念」 2018 年 4 月 4 日

新聞（出演・執筆）「視標 大学入学共通テスト 性急な改革に疑問」 佐賀新聞 2018 年 4 月 5 日

新聞（出演・執筆）「識者評論 英語の民間試験導入 急な改革非常に疑問」 神奈川新聞 2018 年 4 月 7 日

新聞（出演・執筆）「時標 大学入試英語改革 性急すぎる」 山梨日日新聞 2018 年 4 月 8 日

新聞（出演・執筆）「視標 英語の民間試験導入 期限ありきの改革疑問」 静岡新聞 2018 年 4 月 11 日

新聞（出演・執筆）「大学入学共通テスト 改革は受験生に負担 英語の民間導入根拠薄弱」 河北新報 2018 年 4 月 13 日

新聞（出演・執筆）「視標 疑問多い入試改革 受験生に負担、混乱必至」 琉球新報 2018 年 4 月 13 日

新聞（出演・執筆）「識者評論 大学入学共通テスト 当事者を顧みぬ改革案だ」 中国新聞 2018 年 4 月 14 日

新聞（出演・執筆）「評論 英語の民間試験導入 性急な改革、成果期待できず」 岐阜新聞 2018 年 4 月 15 日

新聞（出演・執筆）「視標 大学入学共通テスト 英語民間試験導入は疑問」 高知新聞 2018 年 4 月 15 日

新聞（出演・執筆）「格差出る 民間試験に疑問 大学入学 英語共通テスト新設」 沖縄タイムス 2018 年 4 月 18 日

新聞（出演・執筆）「英語民間試験 懸念多く 大学入学共通テスト」 西日本新聞 2018 年 4 月 22 日

雑誌（資料提供）「主体性の入試評価に疑問や不安——東北大学大学入試フォーラム——」 内外教育 2018 年 6 月 1 日

新聞（資料提供）「2020 変わる大学入試 英語民間試験どう活用？ 高校の意見探る大学」 朝日新聞 2018 年 8 月 18 日

新聞（資料提供）「2020 変わる大学入試 英語民間試験どう活用？ 高校の意見探る大学」 朝日新聞 2018 年 8 月 18 日

新聞（資料提供）「大学共通テスト 対策早くも過熱 先手必勝 仙台圏の予備校、20 年度に標準」 河北新報 2018 年 10 月 4 日

新聞（出演・執筆）「高校・大学マナビバ Lesson4 識者に聞く 主体性評価とは——高大接続の現場から—— 内発性奪う恐れも」 中日新聞 2019 年 1 月 27 日

その他（出演・執筆）「高校も大学も頭を抱える「センター試験改革」あまりに多すぎる問題点」 日経ビジネス 2019 年 1 月 29 日

石上 正敏（特任教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報学応用概論 後期

〔論文〕

（共著）「国公立大学における大学入試センター試験の選抜機能 —合否決定における大学入試センター試験の重みについて—」 『大学入試研究ジャーナル』 29 巻 91-98 2019 年 3 月

（共著）「国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究（1）」 『高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価（中間報告書）』 15-16 2019 年 3 月

(共著)「国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究(2)」『高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価(中間報告書)』17-18 2019年3月
(共著)「センター試験(化学領域)に求められる「学力」について」『高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価(中間報告書)』73-80 2019年3月

【会議の発表・講演】

「国公立大学における大学入試センター試験の選抜機能」口頭(一般):平成30年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会研究会 2018年5月

【学内活動】

全学委員会 入試企画・広報委員会 オブザーバー 2018年4月～2019年3月
全学委員会 入試企画・広報委員会 入試改革WG委員 2018年4月～2019年3月
全学委員会 入試企画・広報委員会 入試広報WG委員 2018年4月～2019年3月
部局内委員会 工学部入試検討委員会 オブザーバー 2018年4月～2019年3月

【学内教職員支援】

東北大学入試センター教員対象FD講師「東北大学の入試広報戦略」(FD/SDの企画・運営)
東北大学入試センター教員対象FD講師「一般入試の作題支援」(FD/SDの企画・運営)

【会議の主催・運営】

(国内会議主催)東北大学高等教育フォーラム 新時代の大学教育を考える(15)「主体性」とはなんだろうか 2018年5月21日
(国内会議運営)文部科学省委託事業による入試改革セミナー 個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究 ～記述式問題を中心に～ 2019年3月28日

【学外の社会活動】

仙台6校会入試説明会
釧路湖陵高校生徒対象東北大学説明会 東北大学・釧路湖陵高校
釧路湖陵高校教員との東北大学入試に関する意見交換
高校教員対象の東北大学入試説明会(札幌)
青森高校生徒対象東北大学説明会 東北大学・青森高校
青森高校教員との東北大学入試に関する意見交換
高校教員対象の東北大学入試説明会(弘前)
東北大学・筑波大学・新潟大学合同進学説明会・相談会(札幌)
会津高校生徒対象東北大学説明会 東北大学・会津高校
会津高校教員との東北大学入試に関する意見交換
高校教員対象の東北大学入試説明会(郡山)
東北大学・筑波大学・新潟大学合同進学説明会・相談会(静岡)
東北大学進学説明会・相談会(東京)
東北大学・筑波大学合同進学説明会・相談会(大阪)
東北大学進学説明会・相談会(大阪)
夢ナビライブ2018 仙台会場大学説明・入試説明講演
青森東高校東北大学進学説明会 青森東高校
仙台6校会との意見交換会

庄司 強(特任教授)

【担当授業科目(他大学も含む)】

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

【論文】

(共著)「国立大学個別学力検査「数学」に求められるもの—高校教育への波及効果を中心に—」『教育情報学研究』17号 29-43 2019年3月
(共著)「新共通テスト(イメージ例)が測定する資質・能力の分析(2)—センター試験及び個別学力試験の遂行状況との比較から—」『大学入試研究ジャーナル』29号 99-104 2019年3月

【会議の発表・講演】

「大学入試問題(国語)の出題形式と成績の関係—高校生を対象にした調査から—」口頭(一般):全国大学入学者選抜研究連絡協議会第13回大会 2018年5月

【学内教職員支援】

FD:東北大学入試センター教員対象FD(講師)
FD:東北大学入試センター教員対象FD(講師)
FD:東北大学入試センター教員対象FD(講師)

【学外の社会活動】

第28回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える[15]『主体性』とは何だろうか—大学入試における評価とその限界への挑戦—」

教員との意見交換・東北大学入試相談会（藤枝東高校）
 教員との意見交換（静岡高校）
 高校教員対象入試説明会（静岡）
 教員との意見交換（富士高校）
 教員との意見交換（沼津東高校）
 教員との意見交換（聖霊女子短期大学附属高校）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田高校）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会（角館高校）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田南高校）
 高校教員対象入試説明会（秋田）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田中央高校）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田北高校）
 進学説明会・相談会（札幌）
 教員との意見交換（岡山学芸館高校）
 高校教員対象入試説明会（岡山）
 教員との意見交換（倉敷天城高校）
 教員との意見交換（一宮高校）
 高校教員対象入試説明会（名古屋）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（諏訪清陵高校）
 教員との意見交換（長野高校）
 高校教員対象入試説明会（長野）
 高校教員対象入試説明会（仙台）
 教員との意見交換（福岡大学附属大濠中学校・高校）
 教員との意見交換（福岡高校）
 高校教員対象入試説明会（福岡）
 全国国公立・有名私大相談会 2018（大阪）
 難関大学合同説明会（広島）
 進学説明会・相談会（大阪）
 難関大学合同説明会（金沢）
 教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（金沢二水高校）
 東北大学ガイダンス（大曲高校）
 東北大学ガイダンス（秋田南高校）

樫田 豪利（特任教授）

〔専門分野〕

高等学校理科教育（化学）
 機器活用

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報応用論概論 未設定

〔会議の発表・講演〕

「高校生による科学研究発表会の状況」 口頭（一般）：平成 30 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会 2018 年 5 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「高校生による科学研究発表会の状況」 『平成 30 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会研究発表予稿集』 199-204 2018 年 5 月

〔学内教職員支援〕

FD:東北大学入試センター教員対象 FD（第 4 回） 東北大学の入試広報戦略（2）（講師）
 FD：東北大学入試センター教員対象 FD（第 7 回） 作題支援（講師）

〔兼務、兼業など〕

学内 （株）駿台文庫 著者 2009 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

東北大学広報（仙台六校会）
 第 28 回東北大学高等教育フォーラム
 東北大学入試説明会（静岡会場）
 静岡県立掛川西高等学校訪問
 静岡県立磐田南高等学校訪問

東北大学進学説明相談会（札幌）
 東北大学入試説明会（高崎）
 群馬県立前橋高等学校訪問
 群馬県立前橋女子高等学校生徒への進学説明
 茨城県立並木中等教育学校訪問
 東北大学入試説明会（茨城）
 茨城県立緑岡高等学校訪問
 茨城県立水戸第一高等学校訪問
 東北大学進学説明相談会（静岡）
 東北大学入試説明会（仙台）
 奈良県 西大和学園中学高等学校訪問
 東北大学入試説明会（大阪）
 石川県立金沢錦丘中学校・高等学校訪問，生徒へのガイダンス
 東北大学入試説明会（金沢）
 石川県立 金沢桜丘高等学校訪問
 全国国公立有名私大相談会（東京）
 全国国公立有名私大相談会（大阪）
 全国国公立有名私大相談会（名古屋）
 帝塚山学園泉丘高校訪問，生徒へのガイダンス
 東北大学進学説明相談会（大阪）
 夢ナビライブ（名古屋）
 駿台お茶の水校（国立大学合同説明会，個別相談会）
 夢ナビ（福岡）
 駿台大宮校（国立大学合同説明会，個別相談会）

秦野 進一（特任教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

〔会議の発表・講演〕

「資格・検定試験における長文読解用英文の難易度比較」 口頭（一般）：入試科研究学会 2018年5月

「資格・検定試験における長文読解用英文の難易度比較」 口頭（一般）：平成30年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会 2018年5月

〔総説・解説記事〕

（単著）「大学入試改革の行方 ―資格・検定試験が高校・大学に与える影響」 『GCD 英語通信』 61号 5-7 2018年4月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会 英語教育改革推進ワーキンググループ 2018年11月～2019年3月

〔学内教職員支援〕

第54回高度教養教育・学生支援機構正午FD 「英語外部検定試験における長文読解用英文の難易度比較」（講師）

平成30年度英語教育改革推進FD 東北大学英語教育改革に向けて ―到達目標と高大接続― 第Ⅱ部 学習指導要領の理解（高大接続のため）に講師（講師）

〔学外の社会活動〕

高校教員対象入試説明会（札幌）

教員との意見交換（札幌北高校）

教員との意見交換（札幌東）

高校教員対象入試説明会（新潟）

教員との意見交換（新潟県立国際情報高校）

東北大学進学説明会・相談会（札幌）

高校教員対象入試説明会（郡山）

教員との意見交換（福島高校）

教員との意見交換（磐城高校）

教員との意見交換（都立立川高校）

教員との意見交換（海城高校）

高校教員対象入試説明会（東京）

教員との意見交換（都立戸山高校）

高校教員対象入試説明会（甲府）

東北大学進学説明会・相談会（静岡）
 高校教員対象入試説明会（仙台）
 高校教員対象入試説明会（広島）
 教員との意見交換（広島・修道高校）
 高校教員対象入試説明会（大阪）
 教員との意見交換（大阪星光学園）
 教員との意見交換（東大寺学園）
 全国国公立有名私大相談会 2018（東京）
 夢ナビ LIVE2018（東京）
 東北大学進学説明会・相談会（東京）
 東北大学進学説明会・相談会（大阪）
 全国国公立有名私大相談 2018（横浜）
 夢ナビ LIVE2018（仙台）
 教員との意見交換（都立八王子東高校）
 教員との意見交換（都立国立高校）
 教員との意見交換（桐朋高校）
 全国普通科高等学校長会 高校基本問題検討特別委員会 平成30年度第3回高基検会議

〔報道〕

雑誌（出演・執筆）「大学入試改革の行方 ―資格・検定試験が高校・大学に与える影響―」大修館書店発行 GCD 英語通信61 2018年4月1日

宮本 友弘（准教授）

〔専門分野〕

教育心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報学応用論研究演習Ⅱ 後期

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（副査1名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 口頭発表件数:1件

〔論文〕

（単著）「小学校6年間の学力変化の分析」『日本テスト学会誌』14巻1号 31-50 2018年6月

（単著）「小学生における学力と性格の関連―学習方略に着目して―」『教育情報学研究』17巻 1-9 2018年12月

（共著）「小学4年生におけるコンピュータによる日本語文字入力スキルに関する調査―キー配列と入力ツールの影響について―」『教育情報学研究』17巻 19-27 2018年12月

（共著）「新共通テスト（イメージ例）が測定する資質・能力の分析（2）―センター試験及び個別学力試験の遂行状況との比較から―」『大学入試研究ジャーナル』29巻 99-104 2019年3月

〔著書〕

『保育の現場で役立つ心理学 保育所保育指針を読み解く』アイ・ケイコーポレーション 2018年9月

『児童期の学力の発達に関する縦断的研究』風間書房 2019年1月

"第1章「主体性」評価の課題と展望―心理学と東北大学 AO 入試からの示唆(pp.7 - 29)"『大学入試における「主体性」の評価―その理念と現実―』 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「東北大学 AO 入試における主体性評価の現状と課題」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：第28回東北大学高等教育フォーラム 2018年5月

「大学入試問題（国語）の出題形式と成績の関係―高校生を対象にした調査から―」口頭（一般）：平成30年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第13回） 2018年5月

「Causal ordering between academic self-concept and academic performance in Japanese female high-school students: Data from a three-year longitudinal study」ポスター（一般）：29th International Congress of Applied Psychology 2018年6月

「Three-year longitudinal study of parents' expectations and academic attainment of female high school students」ポスター（一般）：29th International Congress of Applied Psychology 2018年6月

「東北大学の AO 入試における「自己採点利用方式」に対する高校側の意見」口頭（一般）：日本テスト学会第16回大会 2018年9月

「女子高校生における学力に関する自己評価バイアスと受験行動の関連」口頭（一般）：日本テスト学会第16回大会 2018年9月

「大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見―主として賛否の根拠をめぐって―」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「女子高校生における学業的自己概念の偏りと抑うつ傾向の関連―3 年間の縦断データから―」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「中学・高校生女子のコンピテンスと抑うつ―2 コホートの縦断研究から―」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「児童の認知発達と授業改善 (1) ―ワーキングメモリの発達の様相―」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第 60 回総会 2018 年 9 月

「学業的自己概念と進路の関連」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：日本心理学会第 82 回大会 2018 年 9 月

「大学入学共通テスト記述式問題の利用に対する高校側の意見」 ポスター（一般）：日本心理学会第 82 回大会 2018 年 9 月

「高大接続と「学力の 3 要素」―心理学的視座からの検討―」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：環日本海沿岸進学指導ネットワーク大会 2018 年 12 月

「高校教員は新傾向問題をどう捉えたか―全国調査から―」 その他：文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業〈人文社会分野（国語科）〉問題分析ワークショップ 2019 年 3 月

〔総説・解説記事〕

（単著）「知能・学力を利用した研究―ある小学校の縦断データから―」 『指導と評価』 64 巻 7 月号 19-22 2018 年 7 月

（単著）「日本心理学会の「公認心理師大学カリキュラム 標準シラバス(案)」についての所感」 『指導と評価』 64 巻 7 月号 4-5 2018 年 7 月

（単著）「標準学力検査の結果が映し出すもの」 『応研レポート』 89 巻 1-1 2019 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 思春期女子における学業成績と自己概念形成プロセス―進路決定の支援に向けて― 2014 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 美術教育における学力分析―ルーブリックを用いた鑑賞学習の効果測定― 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

研究成果公開促進費・学術図書 児童期の学力の発達に関する縦断的研究 2018 年 4 月～2019 年 3 月 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（受託研究費 大学入学者選抜改革推進委託事業）個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究～記述式問題を中心に～ 2016 年 10 月～2019 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 入試実施委員会委員 2016 年 5 月～

全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長(副) 2017 年 4 月～

全学委員会 広報戦略推進室員 2018 年 4 月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会委員 2016 年 4 月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2018 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

第 4 回東北大学医学部保健学科入試セミナーの講師を担当し、AO 入試Ⅲ期の面接試験について、昨年度のデータ分析結果と、面接員としての心得等について解説した。（FD／SD の企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査(TIMMS)国内専門委員 2017 年 2 月～2020 年 3 月

日本テスト学会 理事 2017 年 8 月～

日本テスト学会 編集出版委員 2017 年 8 月～

日本教育心理学会 「教育心理学研究」編集委員 2019 年 1 月～2021 年 12 月

〔会議の主催・運営〕

（国内会議・運営）第 28 回東北大学高等教育フォーラム 2018 年 5 月 21 日

〔学外の社会活動〕

高校個別訪問（山形東高校）

入試説明会（山形）

高校個別訪問（盛岡第三高校）

入試説明会（盛岡）

進学説明会・相談会（札幌）

入試説明会（東京）

高校個別訪問（千葉県立千葉東高等学校）

高校個別訪問（千葉県立船橋高等学校）

高校個別訪問（宇都宮県立宇都宮女子高等学校）

入試説明会（宇都宮）

進学説明会・相談会（静岡）

入試説明会（仙台）

全国国公立・有名私大相談会（東京）

夢ナビライブ 2018（東京）

進学説明会・相談会（東京）

進学説明会・相談会（大阪）

全国国公立・有名私大相談会（横浜）

静岡県立清水東高校主催「東北大学オープンキャンパスツアー」

進学説明会・相談会（福岡）

私立茨城高等学校主催「国公立大学入試説明会」

山形県立山形東高等学校東北大学訪問

東京都品川区立城南第二小学校主催校内研修会

埼玉県立大宮高等学校主催「大学説明会」

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

株式会社 図書文化社 「指導と評価」編集委員 2016年4月～

一般財団法人 応用教育研究所 理事 2017年11月～2019年11月

公益社団法人 全国幼児教育研究協会 平成30年度文部科学省委託「幼稚園教育への円滑な接続の観点から行う子育て支援としての2歳児の受入れに関する調査研究」調査研究実行委員会 調査研究実行委員 2018年6月～2019年3月

泉 毅（助教）

〔会議の発表・講演〕

「"Error Analysis of Responses to Email Writing Tasks in the Test of English for Academic Purposes, Computer-Based Test (TEAP CBT)"」 口

頭（一般）：The 57th JACET International Convention 2018年8月

「東北大学のAO入試における「自己採点利用方式」に対する高校側の意見」 口頭（一般）：日本テスト学会第16回大会 2018年9月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本テスト学会第16回大会実行委員会 実行委員 2018年2月～2018年12月

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）第28回東北大学高等教育フォーラム「「主体性」とは何だろうかー大学入試における評価とその限界への挑戦ー」 2018年5月21日

（国内会議運営）日本テスト学会第16回大会 2018年9月8日～2018年9月9日

〔学外の社会活動〕

高校教員対象入試説明会（山形）

教員との意見交換（山形東高）

高校教員対象入試説明会（盛岡）

教員との意見交換（盛岡第三高）

東北大学進学説明会（札幌）

高校教員対象入試説明会（東京）

教員との意見交換（千葉東高）

教員との意見交換（船橋高）

東北大学進学説明会（静岡）

教員との意見交換（諏訪青陵高）

高校教員対象入試説明会（長野）

教員との意見交換（長野高）

高校教員対象入試説明会（仙台）

教員との意見交換（錦丘高）

教員との意見交換（桜丘高）

高校教員対象入試説明会（金沢）

全国国公立有名私大相談会（東京）

夢ナビライブ（東京）

東北大学進学説明会（東京）

東北大学進学説明会（大阪）

全国国公立有名私大相談会（横浜）

東北大学進学説明会（福岡）

難関大学フェア（お茶の水）

夢ナビライブ（仙台）

合同説明会（仙台、駿台予備校主催）

橋 由加 (教授)

[専門分野]

英語教育、カリキュラム・教授法開発、CALL、高等教育論、日米比較文化論

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 "英語 B1,B2" 通年

全学教育 "英語 C1,C2" 通年

全学教育 "英語 A1,A2, B1,B2,C1,C2" 通年

大学院教育 アカデミック・ライティング 前期

大学院教育 English Communication

[その他教育上に関する活動]

(教育方針の実践例) 自己開発 On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による www.yukamedia.com および www.authenticmedia.org を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上を図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための新しい教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。シラバス及び模擬授業公開。毎学期全学 1, 2 年レベル 450 名以上の学生に英語実践演習 (CALL 演習) を指導。

(教科書・教材の開発) On-line 動画ニュース、TED などの教材化 (www.yukamedia.com, <http://authenticmedia.org>)。CNN, NYT, TED や Podcast で配信されているニュースや動画を CALL テキスト用に編集し、スク립トや質問文を作成。1, 2 年生から大学院レベルのクラスで活用。Internet から流れる authentic な英語はテキスト用英語からは得られない臨場感とスピードを持つ。このような英語に慣れさせることを英語学習の一つの目的とする。

(教科書・教材の開発) On-line 教材 LincEnglish の開発と改善(tohoku.lincenglish.com)および「オンライン英語学習用テキスト LincEnglish Bronze~Platinum レベル」のテキストの監修 (大学教育出版)。モンタナ大学、ワシントン大学、サンフランシスコ州立大学の外国語教授法、英語学、コンピュータサイエンスの専門家及び IT 関連のインベスターらと WG を 2003 年に結成。取得外部資金額 7500 万、プロジェクト期間 5 年で日本人向けの英語学習オンライン教材を開発。デジタルコンテンツの総ページ数は A4 版で 24,000 頁以上、演習問題数 36,000、音声ファイル CD230 以上の膨大なコンテンツ量。学校内外からアクセスができ、Windows, Mac, iPad, Android, Kindle あらゆる PC, デバイスに対応。2008 年秋から東北大学の CALL 演習の授業で自己開発 On-line 教材を導入、本学では毎年 1500 名以上の学生がこのカリキュラムで学習。東北大学、大阪大学、神戸大学、筑波大学他、20 以上の中・高校でも英語カリキュラムの副教科として導入されている。東北大学英語教科部会、私学高等学校英語研究会、東北大学工学研究科次世代航空機研究センターおよび流体科学研究所 GOEC セミナー、高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター主催の高大連携セミナーにおいて、CALL 教材を活用した授業、LincEnglish 教授法のワークショップを行う。また、東北大学工学研究科主催の「科学者の養成卵」講座、医学研究科保健学科においても「効果的な英語学習法とオンライン教材の活用」と題して講演を依頼されている。

(教科書・教材の開発) On-line 教材 LincEnglish は Listening、速読教材であるが、Reading/Writing 用として有効活用できるパートも大量に含んでいる。語彙確認、文章理解、作文練習のために「説明文問題」と「読解文問題」の概要と質問文を作成しワークブックとして編集して (On-line 上にアップ) 授業で活用。

(教科書・教材の開発) 教育活動：全学、学部、大学院レベルで指導できる、オンライン英語学習教材 Presentation Course 開発(東北大学用の URL: tohoku1.lincenglish.com)。自己開発 (主幹) On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による www.yukameida.com を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上も図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。高校や他校の教員にシラバス及び模擬授業公開。

(教育方針の実践例) 大学院教育：情報科学研究科において前期：博士課程の学生にアカデミック・ライティング論文指導、後期：修士の学生に英語コミュニケーションの講義担当

(その他) 受託研究「パナソニック教育ソリューション」との共同研究 (産学連携プロジェクト) 中・高等学校に通じた英語教育全体の抜本的充実にどのように図るか、また大学における英語教育をどのように改善していくのか、について産学連携で共同研究を行う。具体的には、1) 中・高等学校における指導体制強化 2) 指導用オンライン副教材の開発、3) 中・高教員養成指導、4) 外部人材の活用促進、5) 新たな英語教育の在り方実現のための体制設備、6) 中・高・大学における教育 IT ソリューションとの連携、などについて調査・研究を行い、新たな英語教育改革実施計画の推進をはかる。

(教科書・教材の開発) Authentic Media を利用した内容重視の On-line 英語教材の開発。 <http://authenticmedia.org>

(教育方針の実践例) ICT を活用した授業実践例について、全国公私立中高役職者、大学英語担当教員対象に FD を行っている。

[共同研究活動]

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画 研究相手先：国内 2013 年 4 月～

高大 5 年間で伸ばす英語運用能力 研究相手先：聖徳学園高等学校、宮城学院高校 国内 2014 年 4 月～

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

(挑戦的萌芽研究 理工系のための学術論文・プレゼンテーションスキル向上のためのオンライン教材開発 2013 年 4 月～2015 年 3 月 代表者)

[その他の競争的資金獲得実績]

(その他寄附金) 聴解力、速読力をつけるためのオンライン英語学習教材の開発 2004 年 4 月～

〔学内活動〕

全学委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員 2013年4月～2015年3月
部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2014年4月～
部局内委員会 グローバル人材育成推進事業実施委員 2014年4月～2016年3月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員 2014年4月～2016年3月
部局内委員会 学務審議会委員 2014年4月～2017年3月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 人事委員会委員 2015年4月～
その他の主要活動 大学教育支援センター(PFFP)プログラム開発・交渉委員 2010年4月～2013年3月
その他の主要活動 工学教育院、国際交流室における連携支援（留学学生相談委員） 2010年4月～

〔プロジェクト活動〕

パナソニック教育ソリューションとの英語教材開発共同研究（産学連携プロジェクト）

〔国際交流実績〕

アメリカ合衆国 モンタナ大学マンスフィールドセンター（部局間）2014年9月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

外国語教育メディア学会 大会実行委員 2014年4月～
日本教育工学協会「JAET」 学会開催委員 2015年4月～

〔兼務、兼業など〕

学内 大学院情報科学研究科 2014年4月～
学外 宮城学院中・高等学校 英語教育顧問 2015年4月～
学外 "Linc Educational Resources, Inc" 顧問 2005年9月～2008年9月
学外 尚綱学院中・高等学校 英語教育カリキュラムアドバイザー 2015年4月～

〔学外の社会活動〕

高・大連携で伸ばす英語運用能力
仙台市教育審議会語学教育推進アドバイザー
"E.S.S ディベート審査委員"
宮城学院中・高等学校 英語教育顧問
尚綱学院 英語教育カリキュラム改革顧問
宮城県高等学校英語弁論大会委員
東北大学工学部・工学研究科事務局の「科学者の卵養成講座」講師
東北大学医学研究科保健学科 英語講師
〔行政機関・企業・NPO等参加〕
仙台市 仙台市審議会 仙台市審議会委員（英語教育） 英語教育アドバイザー 2014年4月～2017年3月

上原 聡（教授）

〔専門分野〕

認知言語学・言語類型論
談話分析・対照言語学
日本語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 〔国際教育科目〕 日本文化・社会 A「歌に学ぶ日本の言葉と心―国際共修ゼミ―」 2セメスタ
大学院教育 言語科学特別講義前期 DC 1年1学期
大学院教育 言語科学演習前期 未設定
大学院教育 認知言語学Ⅱ MC 1年後期
大学院教育 言語科学特別講義後期 DC 1年2学期
大学院教育 言語科学総合演習後期 MC 1年後期
大学院教育 言語科学演習後期 未設定
大学院教育 言語科学特別演習後期 DC 1年2学期
その他 中上級日本語共修ゼミ：歌に学ぶ日本の言葉と心 後期
その他 特別課程日本語・初中級日本語読解 R300 後期
その他 特別課程日本語・中級日本語読解 R400 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士3名（主査2名、副査1名）、修士2名（主査2名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 口頭発表件数:2件 論文発表件数:4件 学会発表件数:2件

2018 年度 大学院学生（博士課程前期 2 年の課程） 口頭発表件数:1 件 論文発表件数:1 件 国際会議発表件数:1 件

〔論文〕

〔共著〕「日タイ語の親族名称の用法に関する認知言語学的一考察—親族名称系自称詞に注目したケーススタディー」『日本認知言語学会論文集』18 巻 293-305 2018 年 9 月

〔共著〕「タイ語の授与動詞 hay の意味拡張に関する一考察—コーパス分析に基づく構文のアプローチ」『日本認知言語学会論文集』18 巻 280-292 2018 年 9 月

〔会議の発表・講演〕

「日タイ語の自称詞使用に関するコーパス分析—自称詞の種類と subjectivity に注目して—」口頭（一般）： 関西言語学会第 43 回大会 2018 年 6 月

「日本語の授与動詞の意味拡張に関する一考察—構文のアプローチに基づくコーパス分析—」口頭（一般）： 関西言語学会第 43 回大会 2018 年 6 月

「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考える—性質形容詞とその重ね型を中心に—」口頭（一般）： 日本認知言語学会第 19 回全国大会 2018 年 9 月

〔共同研究活動〕

東アジア・東南アジアの言語を中心とした対照言語学的研究 研究相手先:タイ 国外 1999 年 12 月～

日本語教材リング 研究相手先:アメリカ合衆国 国外 2000 年 1 月～

中国語の方言内の社会言語学的対照研究 研究相手先:ニュージーランド 国外 2004 年 4 月～

台湾語の中の日本語 研究相手先:台湾 国外 2005 年 11 月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 感情表現の構文パターンと感情の捉え方の認知類型的実証研究：日韓中英仏独語を対象に 2016 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(B) 日本語と近隣言語における文法化の基礎的研究 2016 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 主観性に基づく言語の類型化と他の言語類型との相関に関する認知類型論的実証研究 2016 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営委員会委員 2018 年 4 月～2019 年 3 月

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営専門委員会委員 2018 年 4 月～2019 年 3 月

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流運営委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員 2018 年 9 月～2019 年 3 月
部局内委員会 言語・文化教育センター運営会議委員 2018 年 9 月～2019 年 3 月

専攻内委員会 日本語プログラム HP 広報委員長 2006 年 4 月～

〔教育相談（学生相談所、留学生センターなど）〕

のべ相談人数 20 名、のべ相談回数 20 回

〔国際交流実績〕

ニュージーランド オークランド大学（大学間）2005 年 12 月～

タイ チュラロンコーン大学（大学間）2010 年 8 月～

〔海外研究機関交流実績〕

〔渡航:共同研究〕タイ Chulalongkorn University Associate Professor Kingkarn Thepkanjana 2018 年 5 月 7 日～2018 年 7 月 31 日

〔渡航:共同研究〕タイ Chulalongkorn University Professor Kingkarn Thepkanjana 2018 年 9 月 20 日～2018 年 9 月 24 日

〔渡航:共同研究〕タイ Chulalongkorn University Professor Kingkarn Thepkanjana 2019 年 3 月 5 日～2019 年 9 月 14 日

〔学会活動および外部機関における活動〕

International Cognitive Linguistics Association reviewer 2004 年 1 月～

社会言語科学会 査読委員 2004 年 10 月～

Cognitive Linguistics Association of Britain reviewer 2006 年 1 月～

"Faculty of Arts, Chulalongkorn University" Member of the Editorial Board for Journal of Letters 2011 年 10 月～

日本認知言語学会 査読委員 2013 年 4 月～

Journal of Japanese Linguistics reviewer 2014 年 8 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 大学院国際文化研究科 教授 2004 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

日本語教材ウェブリング

〔その他の特記事項〕

特別訪問研修生の受入／指導 2019 年 2 月

北原 良夫（教授）

〔専門分野〕

ヨーロッパ語系文学

言語学

教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期

全学教育 英語 C2-1/2 3セメスタ

全学教育 英語 A1-1/2 1セメスタ

全学教育 英語 B1-1/2 1セメスタ

全学教育 英語 C1-1/2 3セメスタ

全学教育 英語 B2-1/2 2セメスタ

全学教育 英語 A2-1/2 2セメスタ

全学教育 英語 C2-1/2 4セメスタ

大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別研究 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義 A 前期

大学院教育 言語データ解析論 II 後期

大学院教育 応用言語研究総合演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別研究 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義 B 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（副査1名）、修士3名（副査3名）

〔その他教育上に関する活動〕

英語教科部会副会長として、部会長を補佐し、全学教育「英語」科目が円滑に運営されるよう尽力した。

全学教育グローバルコミュニケーション科目「大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座」を2019年度も引き続き開講するための準備作業に従事した。

（教科書・教材の開発）全学教育「英語」科目履修新入生に配付するためのブックレット『Pathways to Academic English』の改訂及び配布準備作業に従事した。

〔著書〕

監修及び部分執筆（第8章「東北大学の英語学習リソース」（119頁～121頁）及び第12章「メディアを利用した英語学習」（141頁～143頁））

『Pathways to Academic English』東北大学高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター 2018年4月

〔共同研究活動〕

高等教育（カリキュラム，FD等）に関する研究 研究相手先：国内 2004年4月～

大学院教員の職能開発に関する研究 研究相手先：国内 2007年4月～

疾病予防活動に有益な情報提供に関する意識調査 研究相手先：国内 2010年4月～

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会外国語委員会英語教科部会副会長 2018年4月～2019年3月

全学委員会 学務審議会高度教養教育内容開発検討ワーキンググループメンバー 2018年4月～2019年3月

全学委員会 学務審議会英語教育改革推進ワーキンググループ副座長 2018年11月～2019年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会副委員長 2018年4月～2019年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2018年4月～2019年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室講師昇任選考委員会委員 2018年4月～2019年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室講師任期更新審査委員会委員 2018年4月～2019年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構評価委員会委員 2018年4月～2019年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室室長 2018年4月～2019年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センタープログラム開発研究員 2018年4月～2019年3月

専攻内委員会 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター運営会議メンバー 2018年4月～2019年3月

〔学内教職員支援〕

東北大学全学教育教員研修実施委員（FD／SDの企画・運営）

『英語教育改革推進FD』（FD／SDの企画・運営）

『全学英語教育の充実に向けて』（FD／SDの企画・運営）

〔プロジェクト活動〕

国際連携を活用した世界水準の大学教員養成プログラム（PFFP）開発

言語教育高度専門家養成カリキュラム開発

建設的協働学習による企業・海外大学・全学参加型スキルアップ研修

東アジアの非英語圏・準英語圏における特色ある英語教育システムの実態調査と英語学習サポートシステムの開発研究

継続的学習に繋がる英語聴解力伸張を目指した集中講義プログラム開発

〔海外研究機関交流実績〕

（渡航・調査）中国 香港バプテスト大学 言語センター 2019年3月19日

（渡航・調査）中国 香港嶺南大学 英語・外国語センター 2019年3月20日

（渡航・調査）中国 香港教育大学 言語教育センター 2019年3月21日

〔会議の主催・運営〕

（国内会議主催）英語教育改革推進FD 2019年2月13日

（国内会議主催）全学英語教育の充実に向けて 2019年3月15日

吉本 啓（教授）

〔専門分野〕

コンピュータ言語学

言語学・音声学

日本語文法

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 日本語C 1セメスタ

全学教育 日本語G 1セメスタ

全学教育 日本語A 1セメスタ

全学教育 Basic Japanese 2 3セメスタ

全学教育 日本語D 2セメスタ

全学教育 日本語B 2セメスタ

全学教育 日本語H 2セメスタ

全学教育 Basic Japanese 1 2セメスタ

大学院教育 意味論 II 1セメスタ

大学院教育 応用言語研究総合演習A 1セメスタ

大学院教育 応用言語研究総合演習B 2セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

修士1名（主査1名）

〔論文〕

（共著）「Deriving Mappings for FrameNet Construction from a Parsed Corpus of Japanese」 『The International FrameNet Workshop 2018: Multilingual FrameNets and Constructicons Proceedings』 28-32 2018年5月

（単著）「統語・意味解析情報を伴う日本語コーパスの開発とその日本語教育・学習への応用」 『日本言語文藝研究』 18号 1-11 2018年6月

（共著）「中国語存現文の解析」 『言語科学会第20回国際年次大会ハンドブック』 2018年8月

（単著）「言語研究と統語・意味解析情報付きコーパス」 『Conference Handbook』 36号 242-247 2018年11月

（単著）「統語・意味解析情報付き日本語コーパスの構築とその文法研究への応用」 『韓国日本語学会第39回国際学術発表大会予稿集』 23-31 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「音響的特徴に基づく中国語声調のカテゴリ知覚—母語話者と日本人学習者を対象に—」 口頭（一般）：第32回日本音声学会全国大会 2018年9月

「統語・意味解析情報付き日本語コーパスの構築とその文法研究への応用」 口頭（招待・特別）：韓国日本語学会第39回国際学術発表大会 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 統語・意味解析情報タグ付きコーパス開発用アノテーション研究：複文を中心に 2015年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 高度な統語・意味解析情報を持つコーパスの開発とその応用 2016年4月～2019年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会外国語委員会専門委員（日本語）2005年4月～

全学委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員 2010年4月～

その他の主要活動 国際文化研究科異文化間教育論講座 講座代表 2005年4月～

〔プロジェクト活動〕

統語・意味解析コーパスの開発と言語学研究

〔国際交流実績〕

ドイツ ザールラント大学（大学間）2004年12月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

"Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation" プログラム委員 2002 年 4 月～

人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics Organizing Committee member 2004 年 4 月～

人工知能学会国際シンポジウム (JSAD) 企画委員会 委員 2009 年 2 月～

言語情報科学会 会長 2012 年 9 月～2018 年 8 月

"Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation" 運営委員 2012 年 10 月～

国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」 サブリーダー 2016 年 4 月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 日本英語学会第 36 回大会シンポジウム 2018 年 11 月 25 日

(国内会議主催) 統語・意味解析コーパス (NPCMJ) チュートリアル 2019 年 1 月 26 日

〔兼務、兼業など〕

学内 大学院国際文化研究科 教授 1997 年 4 月～

学外 国立国語研究所 客員教員 2016 年 4 月～2022 年 3 月

佐藤 勢紀子 (教授)

〔専門分野〕

日本語教育

日本思想史

日本文学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 日本文化を考える 2 セメスタ

大学院教育 国際日本研究総合演習 A 前期

大学院教育 国際日本研究特別研究 A 前期

大学院教育 研究のための日本語スキル 前期

大学院教育 国際日本研究特別演習 A 前期

大学院教育 日本文化基層論Ⅱ (平安人の表現と意識—『源氏物語』を中心に—) 後期

大学院教育 国際日本研究総合演習 B 後期

大学院教育 国際日本研究特別研究 B 後期

大学院教育 国際日本研究特別演習 B 後期

その他 超級研究ゼミ (RS730) 前期

その他 中級日本語読解 (R400) 前期

その他 "中上級研究ゼミ (PA500, 研究のための日本語スキル)" 前期

その他 "上級日本文化演習 (CL600, 古典入門)" 前期

その他 "中上級日本文化演習 (JC530, 日本文化を考える)" 後期

その他 中上級日本語作文 (W500) 後期

その他 "上級日本文化演習 (CJ500, 古文入門)" 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士 2 名 (副査 2 名)、修士 3 名 (主査 1 名、副査 2 名)

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 研究スキル養成の授業の論文作成指導において、受講学生の専門分野のサンプル論文を利用して各分野のライティングの特性をふまえた指導を行っている。

(教育方針の実践例) 日本語研修コースの授業において使用するための読解を中心とした初級文化教材の作成を行っている。

(教科書・教材の開発) 日本語学習者のための文語文読解 e-learning 教材を開発している。

〔論文〕

(共著) 「文語文を学ぶ非母語話者のための e-learning 教材—試作版教材の利用可能性と課題—」『ヨーロッパ日本語教育』22 号 458-463 2018 年

〔会議の発表・講演〕

「アカデミック・ライティングの指導法」 口頭 (基調): 国際シンポジウム「新世代の日本語学習 (Japanese Language Learning for New Generations)」 2018 年 9 月

「日本語学習者のための文語文 e-learning 教材—非漢字系学習者による試用結果を中心に—」 口頭 (一般): 第 31 回日本語教育連絡会議 2018 年 9 月

「文語文を素材とした国際共修学授業—正岡子規「はて知らずの記」を読む—」ポスター (一般): 第 42 回国際日本文学研究集会 2018 年 11 月

〔総説・解説記事〕

〔共著〕「論文読解を目指す中級日本語授業—予習用ワークシートの使用を中心に—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5号 325-336 2019年3月

〔単著〕「古典から学ぶ日中の文化的基盤—『源氏物語』の漢籍摂取を例として—」 4号 27-33 2019年3月

〔共同研究活動〕

日本語学習者のための文語文読解教材の開発 研究相手先: 国内 2013年4月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 日本語学習者を対象とする文語文 e-learning 教材および文語文教授法の開発 2017年4月～2019年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 日本語研修教育運営委員会委員 2009年2月～2019年3月

全学委員会 日本語研修教育運営専門委員会委員長 2009年2月～2019年3月

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員 2018年4月～2019年3月

全学委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員 2018年10月～2019年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構研究倫理委員会副委員長 2014年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2014年4月～

〔学内教職員支援〕

高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センターで実施している大学教員養成プログラムNFP・PFPに「先達教員」として参加し、プログラム参加者への授業公開、模擬授業へのコメント付与、先達コンサルテーションなどを行った。（その他）

〔国際交流実績〕

中国 上海海洋大学（大学間）2018年7月

中国 南開大学外国語学院（部局間）2018年7月

イタリア ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・アフリカ・地中海学部（部局間）2018年9月

中国 上海海洋大学（大学間）2019年3月

〔海外研究機関交流実績〕

〔渡航:共同研究〕イタリア ヴェネツィア大学 2018年9月2日～2018年9月5日

〔渡航:講演〕クロアチア プーラ大学 2018年9月5日～2018年9月7日

〔渡航:講演〕中国 上海海洋大学 2019年3月17日～2019年3月20日

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北多文化アカデミー 理事 2010年4月～

日本語教育学会 表彰委員会副委員長 2016年5月～2018年6月

日本文芸研究会 代表委員 2016年7月～2018年6月

〔会議の主催・運営〕

〔国際会議:主催〕公開セミナー「非母語話者への文語文教育を考える—日本研究のリテラシー養成に向けて—」 2018年8月9日

〔学外の社会活動〕

飽海地区高等学校国語教育協議会での講演

"夏季短期日本語・日本文化研修プログラム（KEYAKI, 上海海洋大学）"

"夏季短期日本語・日本文化研修プログラム（KEYAKI, 南開大学）"

冬季短期日本語・日本文化研修プログラム（KEYAKI）

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

一般財団法人「東北多文化アカデミー」 理事 2010年4月～

竹林 修一（准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 英語 A1 前期

全学教育 英語 C1 前期

全学教育 大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期

全学教育 英語 B2 後期

全学教育 英語 C2 後期

〔論文〕

〔共著〕「英語ハンドブック Pathways to Academic English と 東北大学全学英語教育の今後を考える」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5巻 269-278 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「冷戦リベラリズムの帰結としてのラディカル・フェミニズム: エレン・ウィリスの批判的考察」 口頭（一般）: 東北アメリカ研究会 2018年5月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会指名委員 2018年4月～

全学委員会 英語教育改革推進ワーキング・グループ 2018 年 11 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、言語・文化教育センター運営会議メンバー 2018 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、紀要・出版委員会 2018 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北アメリカ研究会 幹事 2018 年 5 月～

〔学外の社会活動〕

英語スピーチ作成・実践ワークショップ

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

Toastmasters International コミュニケーションとリーダーシップの向上を図るための活動 2017 年 4 月～

平塚 貴晶 (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A 前期

全学教育 英語 B 前期

全学教育 英語 C 前期

全学教育 カレントトピックス 前期

全学教育 英語 A 後期

全学教育 英語 B 後期

全学教育 英語 C 後期

〔論文〕

(共著) 「Narrative frames as a course evaluation instrument」 『The Language Teacher』 42 巻 1 号 3-7 2018 年

(共著) 「Possibilities of a sociocultural perspective in second language teacher education (SLTE)」 『The Annual Report of Tohoku University Center for Culture and Language Education』 11 巻 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「Stimulating pair discussion for teacher education」 口頭 (一般) : JALT PanSig International Conference 2018 2018 年 5 月

「Assuring the quality of classroom life with language learners through Exploratory Practice (EP)」 口頭 (一般) : the 57th JACET International Convention 2018 年 8 月

「Narrative frames as a course evaluation instrument」 口頭 (一般) : International Narrative Symposium 2018 年 11 月

「High school students as key practitioners」 口頭 (一般) : 44th Annual JALT International Conference 2018 年 11 月

「An action research endeavor with international student teaching assistants for their development as teaching professionals」 口頭 (一般) : 16th Asia Pacific Conference 2018 年 12 月

「Language teachers and learners as explorers: Exploratory Practice and Fanselovian premises」 口頭 (一般) : Tohoku ELT Expo 2018 2018 年 12 月

「Unlocking clues to new ways of teaching in secondary schools」 口頭 (一般) : 東北大学英語教育 PD セミナー 2019 2019 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(S) A longitudinal and cross-sectional study into the experiences of foreign assistant language teachers (ALTs) 2018 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 総務委員会英語化小委員会委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 英語教育改革 WG メンバー 2018 年 10 月～

部局内委員会 総務委員会委員 2018 年 4 月～

その他の主要活動 2019 年度英語教材「Pathways to Academic English」配布責任者 2018 年 12 月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 東北大学英語教育 PD セミナー 2019 2019 年 3 月 24 日

〔学外の社会活動〕

山形県立谷地高等学校

秋田県立能代松陽高等学校

SCURA VINCENT (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 "英語 A, B, C, BH" 通年

全学教育 大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期

〔会議の発表・講演〕

「Project based language learning」 口頭 (一般) : International Conference on Education 2019 年 2 月

〔学内活動〕

部局内委員会 英語教育改革推進ワーキング・グループ 2018 年 11 月～2019 年 3 月

専攻内委員会 English Reform Task Group 2018 年 4 月～2019 年 3 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

Academic FORA Session Chair 2016 年 4 月～

KANG MINKYEONG (准教授)

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ドイツ語Ⅰ 1 セメスタ

全学教育 異文化理解 1 セメスタ

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 2 セメスタ

〔論文〕

（共著）「コロケーションと独和辞典の記述—コロケーション活用の可能性と限界—」 『三重大学教養教育院研究紀要』 4 号 73-89 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「形容詞を伴う不変化詞動詞と結果構文：形容詞 kaputt を伴う場合を例に」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：ワークショップ

「構文の使用と意味」 2019 年 2 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) ドイツ語「結果構文」のコーパス分析と使役構文を含む「結果表現」の包括的研究 2016 年 4 月～ 代表者

基盤研究(C) ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討 2016 年 4 月～ 分担者

〔学内活動〕

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2016 年 4 月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2017 年 4 月～

専攻内委員会 ドイツ語部会（時間割） 2017 年 4 月～2019 年 3 月

〔学内教職員支援〕

「初級外国語授業の相互参観による授業改善」プロジェクト（代表：張立派先生）の活動に協力し、ドイツ語の授業参観に関する以下のワークショップを企画・開催した。 「初習外国語担当教員の成長を促す授業参観」 ・日時：2018 年 9 月 21 日 ・講師：森田昌美先生（神戸学院大学）（FD／SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本独文学会・語学ゼミナール実行委員会 委員 2013 年 8 月～2018 年 9 月

深井 陽介 (准教授)

〔専門分野〕

フランス文学

フランス語教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎フランス語 通年

全学教育 展開フランス語 通年

学部教育 フランス文学各論 後期

大学院教育 フランス文学特論 後期

他大学 基礎フランス語 後期

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

第 50 回全日本学生フランス語弁論大会 優勝: 京都外国語大学 2018 年 11 月 9 日

第 50 回全日本学生フランス語弁論大会 準優勝: 京都外国語大学 2018 年 11 月 9 日

〔著書〕

"「ランボーと風景」, pp. 107-126." 『象徴主義と〈風景〉』 水声社 2018 年 10 月

〔会議の発表・講演〕

「RPG 型教科書の可能性」 口頭（一般）: 関西フランス語教育研究会例会 2018 年 11 月

「ランボーとミュッセにおける私の多重性」 口頭（一般）: シンポジウム「語りと主観性」, (於東北大学), 2018 年 12 月

「外国語教育における映画製作の可能性」 口頭（一般）: 日本英語映像教育学会, (於麗澤大学新宿キャンパス) 2018 年 12 月

「YouTubeにおける映画製作の可能性」 口頭（一般）: " RPK（関西フランス語教授法研究会）, (於安田女子服飾学院) " 2019 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 創造—発信型フランス語教育システムの開発 2016 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

その他 若手研究 キャリア形成のための外国語教育研究—動画制作を用いたフランス語教育 2018 年 4 月～ 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2017年4月～

〔プロジェクト活動〕

東北大学フランス語動画プロジェクト

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本フランス語教育学会 学会誌編集委員 2015年4月～

日本フランス語教育学会 理事 2018年6月～

日本フランス語フランス文学会東北支部 運営委員 2018年12月～

〔学外の社会活動〕

高大連携授業（岩手県立不來方高校）

田林 洋一（准教授）

〔専門分野〕

言語学

外国語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 異文化理解 せかいをめぐる「ことばとぶんかのため」前期

全学教育 基礎スペイン語Ⅰ 1セメスタ

全学教育 基礎スペイン語Ⅱ 2セメスタ

〔論文〕

（単著）「言語の命名に関する諸問題 ―主に朝鮮半島の言語を巡って―」 『言語・文化教育センター年報』 4号 41-46 2019年3月

〔著書〕

『文化と学ぶスペイン語』マニユスクリプト 2019年3月

〔総説・解説記事〕

（共著）「言語の命名に関する諸問題 ―主に朝鮮半島の言語を巡って―」 『言語・文化教育センター年報』 4号 41-46 2019年3月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 教育開発推進経費（組織申請））外国語学習の補助としての異文化理解講義―言語・文化論講座の開講― 2018年4月～

〔学内活動〕

部局内委員会 機構教育推進ワーキンググループ 2016年6月～

部局内委員会 広報小委員会 2017年2月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 総務委員会 2018年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター年報編集委員 2018年4月～

その他の主要活動 学習環境専門部会 2016年4月～

その他の主要活動 言語・文化教育センターホームページ担当 2018年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

北海道大学メディアコミュニケーション研究 査読委員 2014年4月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）スペイン語ワークショップ（アスンシオン先生） 2018年10月13日

（国内会議運営）スペイン語ワークショップ（コンチャ先生） 2018年12月15日

〔学外の社会活動〕

スペイン語能力検定試験監督

Cecilia Silva（准教授）

〔専門分野〕

リテラシー

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎スペイン語 通年

全学教育 展開スペイン語 通年

全学教育 実践スペイン語 通年

〔論文〕

（共著）「"Francisco Maldonado da Silva, un Marrano en el Nuevo Mundo (Francisco Maldonado da Silva, a pig in the New World)"」

『"Asociacion Asiatica de Hispanistas. Monograficos Sinoele ISSN 2056-5533"』 812-816 2018年6月

(共著)「Portfolio of Oral Communication: Scaffolding in Foreign Language Learning」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第5号』
5号 315-323 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「Applying the Four Cs Framework for integrating Spanish language and art」 口頭(一般): First Tohoku Chapter of Japan CLIL 2018年
6月

「Intercultural Competence Activities within the framework of Active Learning」 口頭(一般): ASELE 第29回スペイン語教育法学会国際
大会 2018年9月

「CLIL 4Cs Framework for Bridging the Gap between Language and Content」 口頭(一般): 日本教育工学会・第34回全国大会 2018年9月

「Componentes Interculturales en la Saga de Cristina Bajo」 口頭(一般): イスパニア学会第64回大会 2018年10月

「Diversity and inclusion of the intercultural dimension」 口頭(一般): 全国語学教育学会・第44回年次国際大会教材展示会 2018年11月

「Text and Context for Intercultural Practice in the Classroom」 口頭(一般): "Multidisciplinary Academic Conference on Education, Teaching
and Learning" 2018年12月

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(C) Application of the concept of Intercultural Communicative Competence to the development of a multimodal portfolio for Spanish
as a foreign language 2017年4月～2019年3月 代表者

〔学術関係受賞〕

全学教育貢献賞 授与機関: 東北大学・高度教養教育学生支援機構 2019年1月

〔プロジェクト活動〕

先生による先生のための研究会プロジェクトワークショップ

スペイン語初心者のためのハンドブック

Integrating Culture in Language Teaching Workshop

Bridging the Gap between Students and Textbooks Workshop

西田 文信(准教授)

〔専門分野〕

言語学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 基礎中国語Ⅰ-1 前期前半

全学教育 展開中国語Ⅰ-1 前期前半

全学教育 基礎中国語Ⅰ-2 前期後半

全学教育 展開中国語Ⅰ-2 前期後半

全学教育 基礎中国語Ⅱ-1 後期前半

全学教育 展開中国語Ⅱ-1 後期前半

全学教育 カレントトピックス 後期

全学教育 基礎中国語Ⅱ-2 後期後半

全学教育 展開中国語Ⅱ-2 後期後半

他大学 中国語コミュニケーション 通年

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 以下の3点の力を入れてきている。ビデオ教材による理解促進: 市販されているものの他、テレビ番組で理解促進に役立つ
ものは積極的に視聴させている。問題演習: 促進中国語の授業ではできるだけ具体的データに関して受講者自らの手で解決できる能力を 高
めるため、問題演習を適宜織り交ぜている。パワーポイントによる理解: 中国文化に関係するものは教員自らが撮影した写真や動画なども
交えて視覚的に理解させるよう努めている。

(教科書・教材の開発) 基礎中国語の授業では、毎回の授業の流れを適確につかめるようにポイントをまとめた資料を配付。受講生が自分で内容を
整理し、メモをとれるよう適宜重要箇所を空白を入れている。特に発音習得に関する領域は、全て自作のハンドアウトを利用してきている。

中国の文化現象については視覚的理解を深めるため、社会構造の図表やデータ表、な らびに写真などをハンドアウト内に組み込んでいく。

(その他) 中国語教育に関する国際シンポジウムを企画・実施・司会

〔論文〕

(共著)「中国語教育における文法の実践的教授法について(その1)」 『東北大学言語・文化教育センター年報』4号 15-20 2019年3月

(共著)「A Grammatical Analysis of you and zai in Mandarin Chinese」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5号 145-152 2019年3月

(共著)「マンデビ語諸方言における音韻の年代差」 『ブータン学研究』2号 33-47 2019年3月

(共著)「ブータン王国の諸言語について一言語多様性の現状と課題: Lhokpu 語を例に」 『ヒマラヤ学誌』20巻 63-76 2019年3月

(共著)「ナムイ語冕寧方言の音韻体系」 『慶應義塾中国文学会報』3号 122-103 2019年3月

〔著書〕

『ナムイ語文法の記述言語学的研究』東北大学出版会 2019年2月

〔会議の発表・講演〕

- 「ブータン王国地域言語研究序説」 口頭（一般）：第86回ブータン勉強会 2018年4月
- 「ゾンカ語における音素の出現頻度について」 口頭（一般）：第2回日本ブータン学会大会 2018年5月
- 「ブータン王国の研究について一言語学的研究を中心に」 その他：第55回正午PD会 2018年5月
- 「ブータン王国の言語について」 口頭（一般）：第88回ブータン勉強会 2018年6月
- 「A grammatical analysis of you and zai in Mandarin Chinese」 その他：Hong Kong University 2018年6月
- 「音声音韻及びローマ字と元文字の新正書法：ヒマラヤの原住民話者への助力」 ポスター（一般）：海外学術調査フェスタ 2018年6月
- 「PhoPhoNO project: Converging phonetics and phonology in suggesting orthographies for understudied Tibeto-Burman languages」 ポスター（一般）："The NINJAL International Symposium ""Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization"" 2018年8月
- 「Linguistic variations of different age groups in the Mangdep dialects」 ポスター（一般）：The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 2018年9月
- 「Sentence types of Mangdebikha」 口頭（一般）：The Inaugural International Society of Bhutan Studies (ISBS) Conference 2019年1月
- 「Exploring morphophonological alternations: toward constructing phonology-based checklist」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：PhoPhoNO Project Workshop 2019年2月
- 「四川省の少数民族言語～ナムイ語を中心に～」 その他：東北大学中国語セミナー「周辺から見た中国語」 2019年2月

〔共同研究活動〕

Himalayan Languages Project 研究相手先：スイス ベルン大学言語学研究所 国外 2010年8月～

〔その他研究活動〕

（フィールドワーク）East Bodish 諸語の記述・歴史言語学的研究

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) East Bodish 諸語の言語実態・言語変化・言語変容 2018年4月～2022年3月 代表者

研究成果公開促進費・学術図書 ナムイ語文法の記述言語学的研究 2018年4月～ 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（補助金 稲盛財団学術助成金）史上初のゾンカ語＝日本語＝英語辞典編纂・出版のためのデータベースの構築 2018年4月～

〔学内活動〕

- 全学委員会 中国語・朝鮮語部会 2017年4月～
- 部局内委員会 言語・文化教育センター運営会議委員 2017年4月～
- 部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2018年4月～

〔プロジェクト活動〕

Himalayan Languages Project

PhoPhoNO Project

〔国際交流実績〕

- 中国 香港大学（大学間）2018年6月
- 中国 香港城市大学（大学間）2018年6月

〔学会活動および外部機関における活動〕

- 日本ブータン学会 出版委員会委員 2017年5月～
- 日本音声学会 学会誌編集委員会査読委員 2017年7月～
- 日本南アジア学会 30周年記念大会企画委員 2017年9月～

〔会議の主催・運営〕

- （国内会議主催）第86回ブータン勉強会 2018年4月28日
- （国内会議主催）第88回ブータン勉強会 2018年6月9日

〔兼務、兼業など〕

学外 宮城学院女子大学 非常勤講師 2018年4月～

〔学外の社会活動〕

- 地域伝統文化の記録・保存・再活性化
- NPO 法人地球ことば村・世界言語博物館ことばのサロン
- 第70回東北大学祭学術企画

菅谷 奈津恵（准教授）

〔専門分野〕

日本語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 日本語J 2セメスタ

全学教育 日本語F 2セメスタ

全学教育 日本語E 1セメスタ

全学教育 日本語I 1セメスタ

全学教育 Basic Japanese 1 2セメスタ

全学教育 Basic Japanese 2 3セメスタ

大学院教育 第二言語教授法 MC 1年1学期

大学院教育 応用言語研究特別講義A DC 1年1学期

大学院教育 応用言語研究総合演習A MC 1年1学期

大学院教育 応用言語研究特別講義B DC 1年2学期

大学院教育 応用言語研究総合演習B MC 1年2学期

〔学位論文指導・審査〕

修士4名（主査1名、副査3名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 口頭発表件数:2件

2018年度 大学院学生（博士課程前期2年の課程） 学会発表件数:1件

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）"日本語教材を作成し、ウェブサイト「Tohoku-JP」にて公開している。 <https://sites.google.com/view/tohoku-jp>"

（教科書・教材の開発）"ブログ「Tohoku-JP」にて、日本語授業の関連情報や留学生の文章を公開している。 <https://tohokujp.blogspot.com/>"

〔論文〕

（単著）「全学教育科目のレポートにおける引用：日本人学生と留学生の事例から」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5号 153-164

2019年3月

（単著）「初年次生による文献の選択と出典の表記：高評価レポートを対象とした予備的分析」『東北大学言語・文化教育センター年報』4号 47-

51 2019年3月

（共著）「在仙留学生のための日本語教材開発：初級総合教科書と学習ニーズの考察を中心に」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5号

347-357 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「留学生の読解ノート作成スキルと内容説明文産出の関係」ポスター（一般）：第51回日本語教育方法研究会 2018年9月

「大学初年次生のレポートにおける構成の特徴：文章量のバランスを中心に」口頭（一般）：第54回日本言語文化学会 2018年10月

「中国人日本語学習者の慣用語の理解：親密度と透明度の影響を中心に」口頭（一般）：2018年度日本語教育学会秋季大会 2018年11月

「LINEと口頭会話における終助詞「ね」の使用の特徴：台湾人中級日本語学習者を対象として」ポスター（一般）：第52回日本語教育方法研究会 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 言語習得の観点から見た表現の借用と適切な引用 2018年4月～2021年3月 代表者

〔学術関係受賞〕

佐々木嘉則賞 授与機関:第二言語習得研究会 2018年12月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2018年4月～

全学委員会 全学教育基幹科目委員会委員 2018年4月～

全学委員会 全学教育人文科学委員会委員 2018年4月～

全学委員会 全学教育基礎ゼミ委員会委員 2018年4月～

部局内委員会 総務委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018年4月～

その他の主要活動 ロシア交流推進室 室員 2012年4月～

その他の主要活動 東北大学附属図書館学習支援委員会委員 2016年4月～

その他の主要活動 東北大学附属図書館全学教育用図書選定部会 委員 2017年4月～2019年3月

専攻内委員会 国際文化研究科教務委員会委員 2018年4月～2019年3月

〔学内教職員支援〕

学習支援センターのSLA（Student Learning Adviser）を対象に、留学生への日本語支援に関する講習会を実施した。（講師）

講演会「Teaching Writing in Context」の企画・コーディネート（FD／SDの企画・運営）

第66回正午PD会にて講演「初級日本語クラスにおける文字指導の工夫」を行った。（講師）

Professional Development Seminar for Language Teachers 2019の運営補助（FD／SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

第2言語習得研究会（関東）運営委員 2011年4月～

日本CLIL教育学会 J-CLIL 東北支部 開催校委員 2018年2月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議運営) The First J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 第1回 J-CLIL 東北支部大会 2018年6月16日

副島 健作 (准教授)

〔専門分野〕

言語学

日本語教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ一映像に見る日本語と日本文化一 (JF500) 前期

全学教育 展開科目・国際教育科目 日本社会・文化A (LV500) 後期

大学院教育 日本語解析論 II 前期

大学院教育 言語科学研究総合演習 通年

大学院教育 言語科学研究特別講義 通年

大学院教育 言語科学研究特別研究 通年

その他 入門日本語応用 (A150E) 日本語研修コース

他大学 日本語教育学特論 東北学院大学 通年

その他 DEEP-Bridge 中上級研究ゼミ (RS530)

その他 初級日本語応用 (A250E) 日本語研修コース

その他 中級日本語総合 (C440) 後期

〔学位論文指導・審査〕

博士1名 (副査1名)、修士5名 (主査1名、副査4名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生 (博士課程後期3年の課程) 学会発表件数:1件 国際会議発表件数:2件

〔論文〕

(単著) 「日本語と韓国語とロシア語の「好まれる言い回し」一人為的事態の結果状態を示す表現を比較して」 『2018 CAJLE Annual Conference Proceedings』 320-329 2018年8月

(単著) 「日本語とロシア語と韓国語の「好まれる言い回し」一人為的事態の結果状態を示す表現を比較して」 『国際文化研究科論集』 26号 67-79 2018年12月

〔会議の発表・講演〕

「日本語と韓国語とロシア語の「好まれる言い回し」一人為的事態の結果状態を示す表現を比較して」 口頭 (一般): CAJLE・カナダ日本語教育振興会 2018年次大会 Annual Conference 2018 2018年8月

「How Do Japanese Language Learners Understand 'the Other' in the Result Expressions?」 口頭 (一般): Colloque 'Les Valeurs de l'Autre' 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 主要部後置型言語におけるアスペクトとヴォイスの「自然な言い回し」に関する研究 2015年4月～2019年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流運営委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会 委員 2017年10月～2018年9月

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム東北大学内運営・実施委員会 委員 2017年10月～

全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム運営委員会委員 2018年11月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会 委員 2016年4月～

その他の主要活動 ロシア交流推進室員 2012年4月～

その他の主要活動 特別研究員アドバイザー 2018年9月～2018年12月

〔プロジェクト活動〕

日本語教育実施検討プロジェクト

〔国際交流実績〕

フランス グルノーブル・アルプ大学 (大学間) 2019年3月

〔海外研究機関交流実績〕

(受入:客員研究員) 中国 北華大学 講師 呉 繁 2017年10月1日～2018年9月30日

(受入:特別訪問研修生:日本語・日本文化研修および学生交流) 2名 2018年7月4日～2018年7月15日

(受入:特別訪問研修生:日本語・日本文化研修および学生交流) 2名 2019年2月8日～2019年2月17日

〔兼務、兼業など〕

学外 東北学院大学 非常勤講師 2014年4月～

学内 ロシア交流推進室 2012年4月～

中村 渉 (准教授)

〔専門分野〕

言語学

情報学基礎

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義 A 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義 B 後期

大学院教育 対照言語学Ⅱ 後期

その他 S410 (中級日本語会話) 前期

その他 S400 (中級日本語会話) 前期

その他 R500 (日本語中上級読解) 前期

その他 S400 (中級日本語会話) 後期

その他 JM500 (中上級日本語文化演習) 後期

その他 A460/A560 (中級/中上級日本語実践) 後期

〔学位論文指導・審査〕

修士 4 名 (主査 2 名、副査 2 名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018 年度 大学院学生 (修士課程) 学会発表件数: 1 件

〔その他教育上に関する活動〕

他大学へ進学する留学生を含めた日本語研修コースの受け入れ作業、授業の担当、成績管理・認定、留学生の勉学上・生活上の問題点を解決するチュートリアル等を行った。また、日本語特別課程の運営 (例: プレースメントテスト) および授業にも携わった。2007 年 4 月からは、短期留学生受け入れプログラムの日本語コースの運営および授業の担当も行っている。

本学で留学生に日本語を教える専任教員、非常勤教員、関係部署の職員を加入者とするメーリングリストの運営し、留学生の指導に必要な情報の共有化を進めている。

短期留学生プログラム (JYPE) のカリキュラム作成・運営を担当し、JYPE 生の履修する中級日本語会話 (S400) の授業を担当した。

日本語のカリキュラム変更に伴って、レベル調整のため、レベル 1～2 のカリキュラムとシラバスを担当した。

日韓理工系共同プログラムのカリキュラム作成及び運営を担当し、対象となる韓国人学生を対象とする日本語中級/中上級実践クラス (A460/A560) を担当した。

〔論文〕

(単著) 「Case」 『The Cambridge Handbook of Japanese Linguistics (Cambridge University Press)』 249-275 2018 年

(単著) 「ロシア語の具格標識の「多義性」の派生—Jakobson 的記述—」 『第 19 回日本認知言語学会大会予稿集』 19 号 141-144 2018 年 8 月

〔会議の発表・講演〕

「ロシア語の具格標識の「多義性」の派生—Jakobson 的記述—」 口頭 (一般): 日本認知言語学会第 19 回全国大会 2018 年 9 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 印欧諸語の強勢代名詞及び接語代名詞のパラダイムの通言語的研究 2017 年 4 月～ 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018 年 10 月～

その他の主要活動 日本語研修コースおよび日本語特別課程の運営 2003 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本言語学会 大会運営委員 2017 年 4 月～

金 鉉哲 (准教授)

〔専門分野〕

韓国語

日韓比較文化論

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎朝鮮語Ⅰ、Ⅱ 1, 2 セメスタ

全学教育 展開朝鮮語Ⅰ、Ⅱ 3, 4 セメ

全学教育 展開朝鮮語Ⅲ、Ⅳ 5, 6 セメ

〔論文〕

(単著) 「한일 영화텍스트의 리메이크 현상과 대중의 욕망에 관한 연구-영화 < 容疑者 X の献身> 과 < 용의자 X> 를 중심으로-」
『우리어문학회』 187-200 2018 年 8 月

〔学内活動〕

全学委員会 既修得単位認定等のための審査委員 2008 年 2 月～

その他の主要活動 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員 2016 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

パンソリ学会 国際理事 2006 年 3 月～

日本韓国語教育学会 東北地域理事 2009 年 10 月～

近代文学会 編集委員 2016 年 1 月～

韓国劇芸術学会 編集委員 2016 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

第 9 回東北地域韓国語ハンマダン弁論大会の審査委員長

「日韓相互理解の時代： 知っているようで知らない韓国」

DANIEL JOEL EICHHORST (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 B1 1 セメスタ

全学教育 A1 1 セメスタ

全学教育 C2 4 セメスタ

全学教育 C1R 3 セメスタ

全学教育 B2 2 セメスタ

全学教育 A2 2 セメスタ

全学教育 C2R 4 セメスタ

〔学内活動〕

全学委員会 大学教育支援センター 研究開発委員 2013 年 4 月～

その他の主要活動 東北大学のプロモーションビデオを編集する WG 2012 年 12 月～

ENSLEN TODD ROBERT (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 B1・Communication 1 セメスタ

全学教育 英語 C1・コミュニケーション能力 1 セメスタ

全学教育 英語 A1・Reading 1 セメスタ

全学教育 英語 C1・C2・コミュニケーション能力 通年

全学教育 英語 B1・B2 通年

全学教育 英語 A1・A2・Reading 通年

〔論文〕

(単著) 「Modelling CLIL in EMI Teacher Education Workshops to Improve Content Teaching」 『The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL)』 2019 年 3 月

(単著) 「Teacher Professional Development: A Key to Effective English Education Curriculum Choices for Higher Education in Japan」
『Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education Tohoku University』 5 巻 2019 年 3 月

〔学内教職員支援〕

Teaching techniques for conducting classes in English (FD/SD の企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

英語での教育力・発表力向上支援プログラム開発事業

学会活動および外部機関における活動

Japan Content and Language Integrated Learning (JCLIL) Tohoku Chapter Secretary 2017 年 8 月～2019 年 3 月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) TIE Seminar (Tips for Implementing the Student-Centered Approach in Classes Conducted in English) 2019 年 1 月 9 日

〔学外の社会活動〕

Proofreading other teachers' presentations/papers

SHEARON BEN (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1 1 セメスタ
全学教育 英語 A2 2 セメスタ
全学教育 英語 B2 2 セメスタ
全学教育 英語 B1 1 セメスタ
全学教育 英語 C1 3 セメスタ
全学教育 英語 C2 4 セメスタ
全学教育 英語 C1R 3 セメスタ
全学教育 英語 C2R 3 セメスタ

〔会議の発表・講演〕

「Personal Finance for Teachers in Japan」 口頭 (招待・特別) : 国際基督教大学 Spring Faculty Development Workshop 2018 年 5 月

〔学内教職員支援〕

英語非常勤講師サポート (その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

Extensive Reading Foundation Level test collaborator 2013 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

二華中・高等学校評議員

STAVOY JOSEPH ANTHONY (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 B1 1 セメスタ
全学教育 英語 C1 3 セメスタ
全学教育 英語 C2 3 セメスタ
全学教育 Practical English Skills 1 3 セメスタ
全学教育 英語 A2 2 セメスタ
全学教育 英語 B2 2 セメスタ
全学教育 英語 C2 4 セメスタ
全学教育 Practical English Skills 2 4 セメスタ

SPRING RYAN EDWARD (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1 前期
全学教育 英語 B1 前期
全学教育 英語 C1 前期
全学教育 Practical English Skills 1 前期
全学教育 Practical English Skills 2 後期
全学教育 英語 A2 後期
全学教育 英語 B2 後期
全学教育 英語 C2 後期
全学教育 大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期
学部教育 英作文 Ba 後期
大学院教育 言語研究法 後期
その他 International Team Building 通年

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 全学教育プログラム、スカイプ・パートナー・プログラム
(クラス担任) Faculty Led Program という学生と一緒に外国に行って、学習するプログラム
(教科書・教材の開発) "教科書開発""Short Film Creation for Project Based Language Learning" ISBN: 9784802094955"

〔論文〕

(共著) 「"The importance of L1 awareness in teaching English as a foreign language: Examples from Korean and Japanese EFL learners."」
『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 4 号 269-276 2018 年 4 月
(単著) 「"Teaching phrasal verbs more efficiently: Using corpus studies and cognitive linguistics to create a particle list."」 『Advances in Language and Literary Studies』 9 巻 5 号 121-135 2018 年 12 月

- (共著) 「"The effect of L2 onset on L2 and L3 learning: The case of native speakers of Burkinabe languages."」 『"Proceedings of the 32nd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation"』 32 巻 2018 年 12 月
- (共著) 「"Teaching English metaphors to Japanese learners through visual media: How and why with practical examples from Steven Universe."」 『STEM Journal』 19 巻 4 号 109-126 2019 年 1 月
- (単著) 「Proposal of a hierarchy for manner salience affecting motion-framing choices in English: At what point did I make this weird?」 『Proceedings of the 35th annual conference of the English Linguistic Society of Japan』 35 巻 2019 年 3 月
- (単著) 「"A survey of tools to objectively evaluate L2 speech."」 『2017 年言語・文化教育センター年報』 4 号 35-39 2019 年 3 月
- (共著) 「"Factors associated with improvement in oral fluency when using Video-Synchronous Mediated Communication with native speakers: An analysis of 3 years of data from a Skype partner program."」 『Foreign Language Annals』 52 巻 1 号 1-14 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

- 「Adding CLIL to PBL: Creation of a CLIL-based textbook for an international project-based course」 口頭 (一般): "1st Annual J-CLIL Tohoku Chapter Conference." 2018 年 6 月
- 「Setting Film-Making as the Project in a Project Based Language Learning Class」 口頭 (一般): "2018 TEEM International Conference." 2018 年 9 月
- 「Curation of Online Videos for English Learners」 ポスター (一般): 第 24 回映像メディア英語教育学会全国大会 2018 年 10 月
- 「Increasing listening and speaking skills through Skype: The results of 3 years of data」 口頭 (一般): 第 24 回映像メディア英語教育学会全国大会 2018 年 10 月
- 「Changing from teaching English through movies to teaching through multimedia: Shifting from top down approaches to class design to bottom up approaches」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 第 24 回映像メディア英語教育学会全国大会 2018 年 10 月
- 「Creating a better list of PV particles」 ポスター (一般): 37th Annual TESOL France Colloquium 2018 年 11 月
- 「Proposal of a hierarchy for manner salience affecting motion-framing choices in English: At what point did I make this weird?」 口頭 (一般): 36th Annual Conference of the English Linguistic Society of Japan 2018 年 11 月
- 「東北大学で短編映画作成を通じたプロジェクト型外国語学習: フランス語と英語の習得、関連性をめぐって」 口頭 (一般): 映像メディア英語教育研究会東日本第 9 回支部大会 2018 年 12 月
- 「Developing speaking skills through short film creation: A preliminary analysis」 口頭 (一般): 映像メディア英語教育研究会 (ATEM) 東日本支部春季例会 2019 年 3 月

〔共同研究活動〕

会話能力向上のためのスカイプ利用の有効性 研究相手先: アメリカ合衆国 ノース・カロライナ州立大学シャーロット校 国外 2015 年 1 月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 英語句動詞習得を推進する認知類型論の応用研究 2016 年 4 月～2019 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

- 部局内委員会 東北大学第 60 回正午 PD 会 2018 年 8 月～2018 年 8 月
- 部局内委員会 シャーロット大学 教員引率プログラム 2018 年 8 月～2018 年 9 月
- その他の主要活動 ノース・カロライナ大学シャーロット校との交換留学協定締結 副担当者 2014 年 9 月～
- その他の主要活動 メリーランド大学との交換留学締結 副担当者 2015 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

- マルチメディア英語教育学会東日本支部 企画委員 2018 年 3 月～2018 年 12 月
- 15th International Cognitive Linguistics Conference Reviewer 2018 年 5 月～2018 年 5 月
- Studia Psychologica Reviewer 2018 年 11 月～2018 年 12 月
- Foreign Language Annals Reviewer 2018 年 12 月～2019 年 1 月
- 映画英語教育研究 Reviewer 2018 年 12 月～2019 年 3 月
- マルチメディア英語教育学会東日本支部 副部長 2018 年 12 月～
- The Journal of Language and Education Reviewer 2019 年 1 月～2019 年 3 月

〔報道〕

雑誌 (その他) 「Featured Article "Living Globally"」 The University of North Carolina at Charlotte 2018 年 6 月

MERES RICHARD PAUL (講師)

〔専門分野〕

コミュニケーション
プロンディー

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 B1 English Communication 前期
全学教育 C1 English Communication 前期
全学教育 A1 English Reading 前期

全学教育 Current Topics 前期
全学教育 A2 English Reading 後期
全学教育 B2 English Communication 後期
全学教育 C2 English Communication 後期

〔論文〕

〔共著〕「Pathways to Academic English」 『Pathways to Academic English』 2018 年 4 月

〔著書〕

"Chapter 1, Chapter 2, Chapter 4, Chapter 5, Chapter 6, Chapter 7" 『Pathways to Academic English』 2018 年 4 月

〔国際交流実績〕

その他 モンタナ大学 (大学間) 2018 年 9 月～2018 年 9 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

EIKEN EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner 2010 年 4 月～

The Japan Association for Language Teaching (JALT) The Japan Association for Language Teaching (JALT) 2012 年 4 月～

American Communication Association (ACA) American Communication Association (ACA) 2015 年 4 月～

JALT' s Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) JALT' s Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) 2016 年 4 月～

American Speech Language Hearing Association California Speech Language Hearing Association 2016 年 11 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 英語検定二次試験面接官 英語検定二次試験面接官 2000 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

FALLING WALLS LAB SENDAI

KAVANAGH BARRY (講師)

〔専門分野〕

言語学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 "IPLA class. Karate and Japanese culture 全学教育" 前期

全学教育 PES 1 前期

全学教育 B1 Intercultural Communication and Academic Writing 前期

全学教育 C1 CLIL themed Global issues 前期

全学教育 A1 Genre reading 前期

全学教育 Speaking 1a 前期

全学教育 Speaking 2a 前期

全学教育 Speaking 3a 前期

全学教育 Speaking 1b 前期

全学教育 大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期

全学教育 Speaking 2b 後期

全学教育 "IPLA class. Karate and Japanese culture 2" 後期

全学教育 PES 2 後期

全学教育 B2 Intercultural Communication and Academic Writing 2 後期

全学教育 C2 CLIL themed Global issues 2 後期

全学教育 A2 Genre reading 2 後期

全学教育 Speaking 3b 後期

〔論文〕

〔単著〕「An Introduction to the Theory and Application of CLIL in Japan」 『『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 4 号』 4 巻 277-285 2018 年 6 月

〔共著〕「"An examination into how CLIL can contribute to a young child' s heritage language and cultural identity: A case study of a Japanese language school for Anglo-Japanese children in the UK."」 『"The 23rd Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics proceedings Journal."』 2018 年 8 月

〔共著〕「The Role Heritage Language Input and the Language Environment has on the Development of Bilingualism in Bicultural Children: Case studies of families residing in Tohoku and Tokyo」 『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会プロシーディング』 2018 年 8 月

〔単著〕「"The Teaching of Intercultural Communication and Academic Writing through a CLIL Based Approach: A Case Study of a Tohoku University Course."」 『"JJ-CLIL Journal In S. Sasajima, B.Kavanagh, & M. Shimada (Eds.)"』 1 巻 1 号 100-119 2019 年 3 月

- (共著) 「"A Cultural Exploration of the Use of Kaomoji, Emoji and Kigou in Japanese Blog Post Narratives."」 『"In Elena Giannoulis (Ed), Emoticons, Emoji and Kaomoji: The Transformation of Communication in the Digital Age. Routledge."』 2019年3月
- (共著) 「American and British English: Giving students an awareness of the differences」 『東北大学 言語・文化教育センター年俵』 4巻 21-27 2019年3月
- (共著) 「The Sharing of Practical Ideas for the Implementation of Integrated Education called CLIL: A report on the 'The First J-CLIL Tohoku Chapter Conference」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 第5号』 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

- 口頭(招待・特別): "Teaching Japanese culture and Karate through CLIL 日本 CLIL 教育学会 (J-CLIL) 第7回研究発表会 早稲田大学 2018年4月
- 口頭(一般): "Examining the 'C' for culture in a triple focused CLIL approach. A case study of a karate and Japanese culture class 第1回 J-CLIL 東北支部大会 東北大学" 2018年6月
- 口頭(一般): "Being a bilingual and bicultural child in Japan and the UK: A cross-cultural examination of societal perceptions, L2 exposure and ethnic identity 第10回リングアボックス・アジア 2018 国際シンポジウム 筑波大学" 2018年6月
- 口頭(一般): "Stereotypes, myths, misconceptions and realities: Representations of martial arts and Japanese culture through the film and media of the west and Japan in a CLIL based English class. ATEM (映像メディア英語教育学会) 東日本支部 2018 年度夏季例会, 麗澤大学 東京研究センター" 2018年6月
- 口頭(一般): "The potential of CLIL as an effective pedagogy for the teaching and learning of heritage languages. A case study of a supplementary Japanese school in the UK. 日本 CLIL 教育学会 (J-CLIL) 第1回大会 The 1st J-CLIL Annual Conference. 早稲田大学" 2018年7月
- 口頭(一般): "The role heritage language input and the language environment has on the development of bilingualism in bicultural children: Case studies of families residing in Tohoku and Tokyo. 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB 学会, 国際基督教大学" 2018年8月
- 口頭(一般): "2. An examination into how CLIL can contribute to a young child's heritage language and cultural identity: A case study of a Japanese language school for Anglo-Japanese children in the UK. The 23rd Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. Juntendo University" 2018年8月
- 口頭(一般): "PAAL Orientalism, stereotypes and fallacies: A cross-cultural comparison of the martial arts films of Hollywood and Japan through a CLIL pedagogical approach. 第24回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会, 京都外国語大学." 2018年10月
- 口頭(一般): "Using TV commercials in the ESL classroom as a window into culture, humor, and wordplay. 映像メディア英語教育学会 (ATEM) 東日本支部 第9回支部大会" 2018年12月

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(C) An examination into heritage language education through CLIL within Japan and the UK 2018年4月～2022年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 英語カリキュラム改善・改革WGとTask Force 2018年8月～

〔学内教職員支援〕

TUJP サマープログラムでの空手の授業(講師)

「アカデミック・ライティングについて: 英語アブストラクトの書き方」ワークショップ (FD/SDの企画・運営)

全学教育科目「現代大学論」(担当: 杉本和弘教授) ゲスト講師(講師)

TiE ワークショップ「Tips for implementing the student-centered approach in classes conducted in English」(FD/SDの企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

Communication quarterly 査読者 2016年10月～

日本 CLIL 教育学会 東北支部長 日本 CLIL 教育学会 2017年10月～

J-CLIL 東北 支部長 J-CLIL 2017年10月～

Journal of Cognitive Science 査読者 査読者 2018年1月～

Computers in Human behavior Journal 査読者 査読者 2018年1月～

First Monday Journal 査読者 査読者 2018年1月～

J-CLIL Journal Editor 日本 CLIL 教育学会 2018年1月～

映画英語教育学会 東日本企画委員 2018年12月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 2019年06月 運営 J-CLIL 東北支部第2回大会 / J-CLIL 東北支部長 2018年4月～

(国内会議主催) TiE Teaching English program project member 2018年4月～

(国内会議運営) J-CLIL 東北支部第1回大会 / J-CLIL 東北支部長 2018年6月16日

(国内会議主催) ATEM (映画英語教育学会) 東日本支部運営委員会・企画委員 2018年8月～

三上 傑 (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1 1 セメスタ

全学教育 英語 B1 1 セメスタ

全学教育 英語 C1 3 セメスタ

全学教育 グローバル・コミュニケーション：大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期

全学教育 英語 A2 2 セメスタ

全学教育 英語 B2 2 セメスタ

全学教育 英語 C2 4 セメスタ

他大学 英語基礎 I 後期集中

〔論文〕

(共著)「焦点卓越言語としての日本語と主語尊敬語化」 『日本英文学会東北支部第 72 回大会 Proceedings』 153-154 2018 年 9 月

(共著)「英語の結果構文が示す「非能格性」：非能格動詞結果構文が許容する二つの解釈と構造的曖昧性」 『英文学研究』 95 巻 53-71 2018 年 12 月

〔会議の発表・講演〕

「語用論的要素の統語操作との関わり方とその言語間変異」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)：日本英文学会東北支部第 73 回大会シンポジウム 2018 年 12 月

〔総説・解説記事〕

(共著)「研究活動を意識付けた英語リーディング授業の実践」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 巻 307-313 2019 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) Mirativity における「焦点」と「評価」の役割：日英語からのアプローチ 2016 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

若手研究(B) 自然言語における一致の普遍性と統語構造の通時的変化に関する日英語対照研究 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本英文学会東北支部 大会準備委員 (英語学部門) 2017 年 4 月～2019 年 3 月

SCHACHT BERND (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ドイツ語 I、II 1, 2 セメ

全学教育 展開ドイツ語 I、II 3, 4 セメ

〔その他教育上に関する活動〕

(その他) オープンキャンパスの体験授業「Guten Morgen! 日常生活の場面でドイツ語の基礎を学びましょう!」の担当者

(その他) 「ドルトムントで海外留学! 工科大学情報! Q&A-ドイツ語のちょっとしたレッスン」のイベントの支援

(その他) 初修外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクトの支援

〔学内活動〕

その他の主要活動 入試 (ドイツ語の課題) 点検班員 2018 年 7 月～2018 年 7 月

遠藤コラー・スサンネ (講師)

〔専門分野〕

北方史

ドイツ語教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ドイツ語 I 1 セメスタ

全学教育 展開ドイツ語 I 3 セメスタ

全学教育 異文化理解 せかいをめぐる—ことばとぶんかのたび 1 セメスタ

全学教育 基礎ドイツ語 I I 2 セメスタ

全学教育 展開ドイツ語 I I 4 セメスタ

〔論文〕

(単著)「18 世紀後半の北太平洋地域におけるロシア政府の探検隊派遣」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 号 41-55 2019 年 3 月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 教育開発推進経費) 初級ドイツ語学習者向けの語彙学習用の教材開発 2018 年 4 月～2019 年 3 月

〔学外の社会活動〕

古文書の修復

高橋 美穂 (講師)

〔専門分野〕

ドイツ語学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ドイツ語Ⅰ 前期

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 前期

全学教育 展開ドイツ語Ⅰ 前期

全学教育 基礎ドイツ語Ⅱ 後期

全学教育 展開ドイツ語Ⅱ 後期

〔論文〕

(単著) 「"移動を表す不変化詞動詞における起点・着点の表出—ausfahren, einfahren を例に—」 『DER KEIM (かゝる)』42号 1-23 2019年3月

(単著) 「ドイツ語自由与格構文における「使役」と「被害」の意味—英語の have 使役文・日本語の「—させ」使役文と対比して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5号 57-70 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「Konstruktionen mit bekommen plus Partizip II bei Fortbewegungsverben: Zum potenziellen Dativ als “Verursacher” des Sachverhaltes」

口頭 (一般): 日本独文学会第46回語学ゼミナール 2018年8月

「空間的解釈から派生される時間的解釈—durch を伴う移動の不変化詞動詞を例に」 口頭 (一般): 日本独文学会 2018年 秋季研究発表会 2018年9月

「「使役」と「被害」の意味の重なり—ドイツ語自由与格構文と日本語「—させ」使役文の比較」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): ワークショップ: 構文の使用と意味 (東北大学) 2019年2月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) ドイツ語移動動詞と経路表現の共起に関するコーパスを用いた意味的・統語的分析 2017年4月～ 代表者

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本独文学会 語学ゼミナール実行委員会 委員 2018年10月～

SAUZEDDE BERTRAND (講師)

〔専門分野〕

言語学

日本語学

外国語教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎フランス語Ⅰ 前期

全学教育 展開フランス語Ⅰ 前期

全学教育 基礎フランス語Ⅱ 後期

全学教育 展開フランス語Ⅱ 後期

全学教育 せかいをめぐることばとぶんかのたび 前期

〔学位論文指導・審査〕

修士1名 (その他1名)

〔教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)〕

第50回全日本学生フランス語弁論大会: 京都外国語大学 2018年11月10日

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発)"教科書を作成した。 SAUZEDDE Bertrand & 細貝健二 (2015年9月) Vocal, Hachette Japon 出版社 フランス語コミュニケーションと発音入門 ISBN-10: 4907970056, 144 ページ "

(教育方針の実践例) フランス語動画プロジェクト, 『わたしはだれだ?』, 第一話, 「突然, もう一つの人生がはじまる」, 2018年10月5日, 第二話, 「クリスマスは何色だ?」, 2019年3月24日,

〔論文〕

(単著) 「Manques et apories de l'enseignement de la phonétique dans les manuels utilisés au japon」 『Revue japonaise de didactique du français (numero special)』 408-413 2018年

(単著) 「Acquisition de la structure syllabique du français par des apprenants japonais」 『These de doctorat (linguistique)』 1-378 2018年10月

〔会議の発表・講演〕

「大学のフランス語教員になるには」 口頭 (一般): 東北大学フランス文学研究室就職講演 2019年2月

「Youtube でビデオを作る Creation de courts-metragés collaboratifs avec les étudiants」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第
3 3 回関西フランス語教育研究会 2019 年 3 月

【学内活動】

その他の主要活動 フランス交換留学面接委員 2016 年 4 月～

【学内教職員支援】

初修外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト（FD／SD の企画・運営）

【教育相談】

のべ相談人数 20 名、のべ相談回数 50 回

【学会活動および外部機関における活動】

RPK 関西フランス語教育研究会 委員、会計管理者、IT 担当者 2012 年 6 月～

東北大学フランス語フランス文学会 役員 2018 年 4 月～

【学外の社会活動】

東北大学宿舎の副会長

張 立波（講師）

【担当授業科目（他大学も含む）】

全学教育 「基礎中国語Ⅰ」 5 コマ 前期

全学教育 「展開中国語Ⅰ」 2 コマ 前期

全学教育 「展開中国語Ⅲ」 1 コマ 前期前半

全学教育 異文化理解「せかいをめぐる—ことばとぶんかのたび—」国際共修ゼミ 一回のみ 前期

全学教育 「基礎中国語Ⅱ」 5 コマ 後期

全学教育 「展開中国語Ⅱ」 2 コマ 後期

全学教育 「展開中国語Ⅳ」 1 コマ 後期

全学教育 現代大学論「中国の大学」一回のみ 後期

【論文】

（単著）「关于表示存在的“有”字句和“在”字句的偏误分析以及教学法的探讨」『中国語教育学会第 16 回全国大会予稿集』 2018 年 5 月

（共著）「『東北大学初修中国語におけるブレンディッラーニングの実践—開発した教科書『KOTOTOMO』の検証を中心として—」[東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要,(4)(2018),149-164]趙秀敏,張立波,上野稔弘,今野文子,三石大」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2018 年 5 月

（単著）「『中国の大学院における中国語国際教育の現状と課題—北京語言大学の中国語国際教育修士課程を中心として—」[東北大学高度教養・学生支援機構紀要,(4)(2018),299-306]張立波」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2018 年 5 月

（単著）「日中の学生の交流についての試み」『東北大学言語・文化教育センター年報』 2019 年 3 月

（共著）「アクティブラーニングを取り入れた初修外国語としての中国語授業の試み」『東北大学言語・文化教育センター年報』 2019 年 3 月

【会議の発表・講演】

「教員海外研修の実施と評価」口頭（一般）：中国語教員育成の現状と課題(中国・台湾・日本を中心に)—中国語教育が目指すもの— 2019 年 3 月

【その他研究活動】

（その他）専門教育指導力育成プログラム大学中国語教授法強化講座

【プロジェクト活動】

初修外国語教員の授業相互参観による授業改善プロジェクト

【会議の主催・運営】

（国際会議運営）中国語教員育成の現状と課題(中国・台湾・日本を中心に)—中国語教育が目指すもの— 2019 年 3 月 23 日

【学外の社会活動】

全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会

趙 秀敏（講師）

【専門分野】

外国語教育

教育工学

【担当授業科目（他大学も含む）】

全学教育 基礎中国語Ⅰ 1 セメスタ

全学教育 展開中国語Ⅰ 1 セメスタ

全学教育 基礎中国語Ⅱ 2 セメスタ

全学教育 展開中国語Ⅱ 2 セメスタ

他大学 中国語コミュニケーションⅠ (d) 1 セメスタ

他大学 中国語コミュニケーション I I (d) 2 セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

修士 2 名 (副査 2 名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018 年度 大学院学生 (修士課程) 学会発表件数:8 件

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 獲得した JSPS 科研費【基盤研究(C) (2015 年度～2018 年度; 代表者)】の課題「中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発と評価」に取り組み, スマートフォン利用復習アプリ教材について, 復習状況が提示可能なユーザーインターフェースの設計手法を明らかにするとともに, 新たに改善版アプリ KoToToMo Plus (iOS / Android 双方対応) を開発し, その有効性を確認した.

(教科書・教材の開発) 獲得した JSPS 科研費【基盤研究(C) (2017 年度～2019 年度; 分担者)】の課題「持続的な 3 段階ブレンディットラーニングを可能とする教授・学習支援システムの開発」に取り組み, スマートフォン利用復習教材の学習ログについて, 様々な視点から視覚的に確認可能なシステムの設計手法を明らかにし, 学習ログ可視化システムを開発した.

(その他) 東北大学 大学教員準備プログラム/新任教員プログラムへの授業参観提供

(その他) 東北多文化アカデミー財団と本機構の共催事業「TTA-短期留学 日本語冬季短期研修プログラム KEYAKI」で特別訪問研修生 2 名を受け入れ

〔論文〕

(共著) 「A Study on UI Design of Smartphone App for Continuous Blended Language Learning」 『Proc. of 2018 5th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR)』 584-589 2018 年 5 月

(共著) 「学習履歴の閲覧意図に応じて異なる複数の視点を切り替え可能なログデータ可視化手法の検討」 『電子情報通信学会 信学技報』 118 巻 131 号 41-46 2018 年 7 月

(共著) 「学習状況の視覚的な提示により持続的な学習を可能とするスマートフォン学習教材の開発」 『電子情報通信学会 信学技報』 118 巻 131 号 35-40 2018 年 7 月

(共著) 「大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発 —発音練習の設計—」 『第 43 回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 181-182 2018 年 9 月

(共著) 「初修外国語学習における断続的な学習活動を対象とした学習履歴記録・可視化システムの開発」 『第 43 回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 353-354 2018 年 9 月

(共著) 「学習状況の視覚的な提示により持続的な学習を可能とする初修外国語向けスマートフォン学習教材」 『第 43 回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 355-356 2018 年 9 月

(共著) 「大学初修中国語ブレンディッドラーニングにおけるスマートフォン利用復習教材の実践と成果」 『北海道 FD・SD フォーラム 2018』 76-77 2018 年 9 月

(共著) 「ブレンド型初修外国語授業を対象とした探索的学習分析システムの開発」 『教育システム情報学会研究報告』 38 巻 5 号 45-52 2019 年 1 月

(共著) 「ブレンド型初修外国語授業における復習状況の視覚的な提示を可能とするスマートフォン学習教材の開発と試行」 『教育システム情報学会研究報告』 38 巻 5 号 37-44 2019 年 1 月

(共著) 「ブレンド型初修外国語教育における持続的な復習活動を可能とするスマートフォン学習教材の開発と評価」 『情報処理学会研究報告』 2019-CLE-27 巻 18 号 1-8 2019 年 3 月

(共著) 「教員の気づきに基づく探索的分析を可能とする学習分析システムの開発と評価」 『情報処理学会研究報告』 2019-CLE-27 巻 9 号 1-8 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「日本大学初級漢語 Blended Learning の教学実践—利用スマートフォンの復習教材の設計と開発—」 口頭 (招待・特別): 2018 年 “国際漢語教学と資源建設” 国際学術研討会 2018 年 12 月

「ICT 活用中国語教育の実践と成果—教科書開発と PC からスマホへの転換—」 口頭 (一般): 東北大学中国語教授法国際シンポジウム 2019 年 3 月

〔作品〕

(その他) 「Android アプリ: KoToToMo Plus (教科書に準拠した初修中国語復習アプリ)」 2018 年 4 月

(その他) 「iPhone アプリ: KoToToMo Plus (教科書に準拠した初修中国語復習アプリ)」 2018 年 4 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文部省・学振)〕

基盤研究(C) 中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発と評価 2015 年 4 月～2019 年 3 月 代表者

基盤研究(C) 持続的な 3 段階ブレンディットラーニングを可能とする教授・学習支援システムの開発 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

〔学術関係受賞〕

ICBIR 2018 Outstanding Paper Award 授与機関: IEEE [Institute of Electrical and Electronics Engineers] 2018 年 5 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本中国語検定協会 仙台会場試験監督 2006 年 11 月～

日本中国語検定協会 評議員 2016 年 7 月～2020 年 3 月

〔会議の主催・運営〕

〔国際会議主催〕 東北大学中国語教授法国際シンポジウム 2019 年 3 月 23 日

王 其莉（講師）

〔論文〕

（単著）「“好像”の多義について」 『東北大学 言語・文化教育センター年報』 4 号 2019 年 3 月

林 雅子（講師）

〔専門分野〕

日本語学

日本語教育

言語学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ゼミ「マルチメディアを活用した日本語教育～留学生とともにマンガ・アニメを使って日本語を考え、教え合おう～国際共修ゼミ」 前期

全学教育 日本社会・文化A（【展開ゼミ】マルチメディアを活用した日本語教育～応用マルチメディア・コーパス言語学：ドラマや映画を使って言葉を調べて教え合おう～国際共修ゼミ） 後期

全学教育 異文化理解「せかいをめぐる―ことばとぶんかのたび―国際共修ゼミ」 オムニバス授業「外から見た日本語」担当 前期

上級日本語研究ゼミ（RS630）DEEp-Bridge 日本語必修科目 前期

中上級日本語漢字・語彙（K500）外国人留学生特別課程科目 前期

初中級日本語読解（R310）自然科学系短期留学プログラム科目 前期

入門日本語応用/初級日本語応用（速習）（A150/A250）日本語研修コース日本語科目 前期

入門日本語読解/初級日本語応用（R150/R250）日本語研修コース日本語科目 前期

上級日本語研究ゼミ（RS630）DEEp-Bridge 日本語必修科目 後期

中上級日本語漢字・語彙（K500a）外国人留学生特別課程科目 後期

中上級日本語漢字・語彙（K500b）外国人留学生特別課程科目 後期

入門日本語応用/初級日本語応用（速習）（A150/A250）日本語研修コース日本語科目 後期

入門日本語読解/初級日本語読解（速習）（R150/R250）日本語研修コース日本語科目 後期

〔その他教育上に関する活動〕

（クラス担任）日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）担任 留学生 7 名受入指導

（教科書・教材の開発）東北大学日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）入門～初級レベルにおける日本文化読解教材の共同開発

（教科書・教材の開発）東北大学日本語教育プログラム使用テキストレベル別語彙リスト作成

（教育方針の実践例）国立国語研究所開発『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）及びコーパス検索アプリケーション「中納言」を活用した言語分析の指導

（教育方針の実践例）文系短期交換留学プログラム DEEp-Bridge 最終成果報告会学生指導・実施 前期・後期

（教育方針の実践例）「アクティブ・ラーニング」の一環として「ピア・ティーチング」を国際共修ゼミ及び留学生対象日本語教育科目で実践

（教育方針の実践例）ラングエッジ・エクスチェンジ（日本人学生・国費留学生間の英語・日本語交流）実施

（教育方針の実践例）日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）における茶道・書道の日本文化体験学習指導 前期・後期

（教育方針の実践例）日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）フィールドトリップ引率 後期

（教育方針の実践例）学習支援センターによるライティング（レポート等作成）支援制度の授業内での活用及び日本人学生・留学生の利用促進

（教育方針の実践例）DEEp-Bridge 上級研究ゼミにおける情報探索・貴重書閲覧等の図書館講習会企画・実施支援

〔論文〕

（単著）「東北大学日本語教育プログラムにおけるレベル別語彙リスト開発のための調査研究（報告）」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 5 号 337-340 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「非漢字圏・漢字圏混合クラスにおけるアカデミック漢字・語彙の指導実践例」 “Practical Examples of Teaching Academic Kanji and Vocabulary in a Mixed Class of Kanji and Non-Kanji Background Japanese Learners” ポスター（一般）：Venezia ICJLE 2018 ヴェネツィア 2018 日本語教育国際研究大会 2018 年 8 月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（平成 30 年度「教育開発推進経費（個人）」）東北大学日本語教育レベル別漢字リストの開発 2018 年 7 月～2019 年 3 月

〔学内活動〕

全学委員会：国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流運営委員会 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会 委員 2018 年 4 月～2019 年 3 月

学生支援業務：日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）における学生受入指導（受入教員となりスタディガイダンスから修了認定まで指導問題や相談に対する対応）、日本語教育プログラム留学生オリエンテーション 前期・後期、人文社会科学系交換留学プログラム（IPLA）における日本語教育プログラムオリエンテーション 前期

センター業務：日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）コーディネーター（カリキュラム編成及びクラス編成などの運営業務）

日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）サブコーディネーター 前期、人文社会科学系交換留学生日本語プログラムサブコーディネーター 後期

言語・文化教育センター国際交流棟録音室環境整備と先生方の利用を支援

〔学内教職員支援〕

初修外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクトへの授業提供「文学部茶室における国費留学生対象の茶道体験学習」授業後の討論会参加

〔教育相談〕

学習相談：のべ相談人数 2 名、のべ相談回数 6 回

進路相談：のべ相談人数 1 名、のべ相談回数 1 回

〔学外の社会活動〕

外国人の子ども・サポートの会

〔国際交流実績〕

特別訪問研修生受入

粕壁 善隆（教授）

〔専門分野〕

物性 II

金属物性

無機材料・物性

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

学部教育 量子力学入門 3 セメスタ

大学院教育 金属フロンティア工学修士研修 通年

大学院教育 先端マテリアル物理化学セミナー 通年

大学院教育 材料表面界面科学 後期

〔論文〕

（共著）「Formation Mechanism of (111)-oriented Ti_{1-x}Al_xN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD」 『QST Takasaki Annual Report 2016』 2 巻 41-41 2018 年

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 原子力機構施設利用共同利用研究）イオン注入法によるチタン・シリコン・アルミ窒化合物薄膜成長過程のその場観察 2018 年 4 月～

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2014 年 4 月～

全学委員会 安全保障輸出管理委員会委員 2014 年 4 月～

全学委員会 国際共同教育実施委員会委員長 2015 年 4 月～

全学委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員長 2015 年 4 月～

全学委員会 学術交流協定調査検討委員会 2015 年 4 月～

全学委員会 国際交流委員会委員 2015 年 4 月～

全学委員会 国際共同大学院プログラム部門副部門長 2016 年 4 月～

全学委員会 学生生活支援審議会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 国際学士コース入試小委員会委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 国際学位コース（学部担当）小委員会委員長 2018 年 4 月～

部局内委員会 紀要・出版委員会委員長 2018 年 4 月～

〔国際交流実績〕

アメリカ合衆国 ワシントン大学（大学間）2014 年 8 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）実施委員会 委員 2012 年 4 月～

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度（短期受入れ・短期派遣）選考委員会 委員 2013 年 1 月～

独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員会 委員 2014 年 10 月～

独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門 選考委員会 委員 2016 年 10 月～

文部科学省 国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会 委員 2018 年 9 月～

末松 和子(教授)

〔専門分野〕

異文化間教育、国際教育

〔担当授業科目〕

全学教育 キャンパス国際化への貢献：留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう I、II（指導言語：英語）

全学教育 異文化コミュニケーションを通じて世界を知ろう（日本語・前期・後期）

全学教育 海外体験（短期集中・後期）ドイツでの2週間のPBL研修を引率

大学院教育 多文化教育論概論 前期

大学院教育 多文化教育論特論 後期

大学院教育 多文化教育論研究演習 I 前期

大学院教育 多文化教育論研究演習 II 後期

〔その他教育上に関する活動〕

人文社会科学交換留学プログラム統括およびアドバイザー

学友会アカベラコーラス部、国際フットサルサークルの顧問

東北大学留学生協会（TUFSA）アドバイザー

TEDeX 東北大学アドバイザー

文系交換留学生支援グループ IPLANET アドバイザー

〔論文〕

（単著）国際共修の検証—文献リサーチを通して見えてくるもの— 『留学交流』 Vol 95 2019年2月号 日本学生支援機構 pp1-12

（単著）Internationalization at Home - Enhancing Students' Intercultural Competence in "Intercultural Co-Learning Class" Proceedings, Asian Conference on Education (ISSN: 2186-5892)

（単著）留学生と国内学生が学び合う国際共修『第68回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究収録』 pp86-89

（共著）『海外留学プログラム開発のためのハンドブック』東北大学高度教養教育・学生支援機構 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「Curriculum Development and Innovative Education in the Japanese Higher Education」NAFSA, 2018年5月31日

「留学生とともに学ぶ国際共修：効果的な授業実践へのアプローチ」異文化間教育学会第39回年次大会、2018年6月9日、新潟大学

「留学生と国内学生が学び合う国際共修」第68回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会、室蘭工業大学 2018年8月23日

「留学生と国内学生が共に学ぶ国際共修ファシリテーター・ワークショップ」留学生教育学会第23回研究大会 2018年9月7日（金）広島大学

「留学生アドバイジングにおける専門性を考えるワークショップ」留学生教育学会第23回研究大会 2018年9月8日（土）広島大学

「Strategies for Promoting Student Mobility through Development of Permeable System」Forum on Internationalization in Higher Education Foreign Trade University, Hanoi, 2018年10月8日 Key Note Speaker (招待講演)

「Comprehensive Internationalization at National Research University: Strategies, Accomplishments, and Challenges」JAISE-KAIE Joint Seminar : Developing Future International Student Exchange 2018年11月1日, Toyo University, Tokyo

「Strategies to Promote Research Activities」FTU Research Seminar, 2018年11月2～3日, Foreign Trade University, Hanoi

「Present to Future: Research Collaborations on Intercultural Co-learning Research Workshop in Higher Education 2018」at the University of Melbourne. 2018年11月8日, The University of Melbourne

「Bringing out the best in faculty: Enhancing intercultural interaction and learning in the classroom」2019 Association for International Education Administrators (AIEA) annual conference. 2019年1月22日, Washington DC.

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

科学研究費 基盤研究（B）アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化」モデルの開発（代表者）

〔学内活動〕

全学委員会 総長特別補佐（国際交流担当）

全学委員会 国際戦略室、国際連携推進機構、国際連携推進室

全学委員会 教育学研究科兼務

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員長

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員長

全学委員会 グローバル人材育成運営委実施委員会委員長

全学委員会 学務審議会委員、学務審議会教務委員会委員

全学委員会 国際交流委員会委員、国際交流委員会学術交流協定調査検討委員会委員

全学委員会 教育国際化運営委員会委員

全学委員会 キャリア支援連絡会議委員

全学委員会 文系オアシス運営委員会委員

全学委員会 日本語教育研修運営委員会委員

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」運営委員会

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」部会長（基礎教育）
部局内委員会 総務委員会、人事委員会、グローバルラーニングセンター副センター長
部局内委員会 カリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センター運営委員、ベトナム貿易大学東北大学センター運営委員
その他の主要活動 現代的教育プログラム準備 WG、高度教養教育開発推進事業 WG、全学教育改革 WG、高度教養教育・学生支援機構改革 WG

〔学外活動〕

宮城県多文化共生社会推進審議会（副委員長）
宮城国際化協会評議員
仙台二華高等学校スーパーグローバル高校運営指導委員
東北大学地域産業支援アドバイザー
留学生教育学会 理事、同学会留学生担当教職員分科会総括

渡邊 由美子（教授）

〔専門分野〕

地球宇宙化学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 科学と情報 通年
学部教育 日本の産業と科学技術 後期前半

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）理学部・理学研究科地学専攻の学生の研究への助言
（学友会・同好会等の指導）"英字新聞発行グループ""The Sentinel"" 顧問"
（その他）TSSP (Tohoku University STEM Summer Program) 2018
（その他）""TU Global Leaders Camp""実施"
（学友会・同好会等の指導）理工系学部・研究科所属の学生のための国際交流団体 TUSTEM (Tohoku University STEM Students Network) 設立・活動支援
（その他）全学教育：伝統文化・書道セッション

〔論文〕

（共著）「東北大学における留学生入学前準備プログラムの実践報告 ―サバイバル日本語講座 2017 の事例―」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要第 5 号』 5 号 247-260 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「Causes of Sulfur Isotope Fractionation during Thermochemical Sulfate Reduction by Organic Matter」ポスター（一般）：Goldschmidt Conference 2018 2018 年 8 月
「(Bio)geochemical cycles of S, C, Fe, and O on the hotter Archean Earth」口頭（一般）：Goldschmidt Conference 2018 2018 年 8 月

〔共同研究活動〕

Origins of Organic Matters in Archean Era 研究相手先：アメリカ合衆国 "Penn State University, etc." 国外 2016 年 11 月～

〔学内活動〕

全学委員会 国際学士コース入試小委員会副委員長 2017 年 4 月～
全学委員会 国際学位コース運営委員会副委員長 2017 年 4 月～
部局内委員会 E-journal: Higher Education Critical Review 編集委員 2017 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

TiE ワークショップ（FD／SD の企画・運営）
理科教育改革のための PD セミナー開催 「サイエンス・エデュケーション・スペシャリスト」：その養成と役割 Science Education Specialists (SESs): How They are Trained and What Their Role is (FD／SD の企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

TiE プログラム (Teaching in English Program) の開発・提供による 「英語による授業」科目担当教員の支援強化プロジェクト

〔教育相談〕

のべ相談人数 41 名、のべ相談回数 26 回

〔国際交流実績〕

アメリカ合衆国 ペンシルバニア州立大学 (大学間) 2018 年 5 月～2018 年 6 月
ベトナム 貿易大学 (大学間) 2018 年 9 月
アメリカ合衆国 ペンシルバニア州立大学 (大学間) 2018 年 12 月
ベトナム 貿易大学 (大学間) 2019 年 2 月
ベトナム チュイロイ大学 (大学間) 2019 年 2 月
アメリカ合衆国 "University of California (Davis, Berkley)" (大学間) 2019 年 3 月

〔会議の主催・運営〕

(国際会議運営) International Symposium for Evidence-based Transformation of STEM Education: Nobel Laureate Professor Carl Wieman's Initiative and Imperial College London's Strategy 2019年3月2日

〔兼務、兼業など〕

学外 仙台第三高等学校 2017年6月～

学内 東北大学理学部・理学研究科 2017年4月～2019年3月

学外 仙台第三高等学校 講演会講師 2018年11月～2018年11月

〔学外の社会活動〕

仙台三高 SSH 運営指導委員

仙台第三高等学校理科研究発表

高校留学促進イベント「みやぎ留学フェア」

仙台三高 「探求の日」

高橋 美能 (准教授)

〔論文〕

(単著) 「グローバル化する社会における日本の「夫婦同姓」の問題—大学生の当事者意識を高める方策—」『人権教育研究』 18巻 55-68 2018年

(共著) 「日本人学生の海外留学を促進する方策—東北大学の留学相談者と留学未経験者を対象とする調査結果を基に—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 4号 373-381 2018年

〔著書〕

『多文化共生社会の構築と大学教育』 2019年2月

第4章 東北大学の交換留学制度『"PD ブックレット Vol.12 海外留学プログラム開発のためのハンドブック"』東北大学高度教養教育・学生支援機構 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「グローバル化する社会における日本の「夫婦同姓」の問題—大学生の当事者意識を高める方策—」 口頭 (一般): 異文化間教育学会第39回 2018年6月

「留学生と国内学生が共に学ぶ国際共修: ファシリテーター・ワークショップ」 口頭 (一般): 第23回留学生教育学会年次大会 2018年9月

〔共同研究活動〕

アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化」モデルの開発 研究相手先: 国内 2018年4月～2023年3月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

研究成果公開促進費・学術図書 多文化共生社会の構築と大学教育 2018年4月～2019年2月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 短期派遣留学実施委員会 2013年4月～

〔教育相談〕

のべ相談人数 80名

〔学外の社会活動〕

仙台二華高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員

富田 真紀 (准教授)

〔専門分野〕

国際教育開発・教育評価

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 海外フィールドワーク 後期集中

全学教育 海外研修 後期集中

全学教育 グローバル・コミュニケーション・プレゼンテーションの構成と理論構築 前期

全学教育 グローバル人材基礎演習—グローバルゼミ— 前期

全学教育 海外研修 (展開) 前期集中

全学教育 海外研修 (基礎) 後期集中

全学教育 グローバル人材基礎演習—グローバルゼミ— 後期

全学教育 グローバル人材基礎演習—プレゼンテーションとディスカッションを通して学ぶ途上国の現状と国際課題— 後期

全学教育 海外研修 (展開) 後期後半

〔その他教育上に関する活動〕

グローバル人材育成プログラムアドバイジング (担当学生: 約150名) 目標設定セミナー開催 (全TGL生対象) / 目標設定面談 / グローバルリーダー面談 / 目標設定シートやグローバルリーダー・TGL修了報告書に関するアドバイス等 / グローバルゼミクラス担当 (各学年40名) / 外部団体主催海外派遣プログラム参加支援 (CVやエッセイの添削、アドバイス 英文・和文とも)

〔論文〕

（共著）「東北大学 学内と海外で育成するグローバルリーダー」 『「グローバル人材育成教育学会」5周年出版』 2018年

〔共同研究活動〕

途上国への留学・インターン経験のグローバル人材力向上への寄与について 研究相手先: 国内 2016年2月～

〔学内活動〕

全学委員会 東北大学グローバルリーダー運営委員会副委員長 2018年4月～

部局内委員会 倫理委員会 2017年4月～

その他の主要活動 TGLプログラム運営業務全般 2015年4月～

その他の主要活動 英語教育支援全般 2015年4月～

〔兼務、兼業など〕

学外 広島大学 国際協力研究科 客員研究員 2016年4月～

渡部 留美（准教授）

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 異文化理解実践 2セメスタ

全学教育 課題解決型（PBL）演習 A 1セメスタ

全学教育 海外研修(基礎) 1セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

（学友会・同好会等の指導）SCRUM(ボランティア団体)国際部（IDeS）指導

〔論文〕

（共著）「ブレ国際共修授業における国内学生の意識変容と学び—基礎ゼミでの試み—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5号 2019年3月

（共著）「東北大学における留学生入学前準備プログラムの実践報告—サバイバル日本語講座2017の事例—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5号 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「PBL型共修授業実践-留学生と地域社会のニーズを満たす-」口頭（一般）：第68回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 2018年8月

「ワークショップ「留学生アドバイジングにおける専門性を考える」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第23回留学生教育学会 年次大会 2018年9月

「東北大学における留学生入学前準備プログラム「Welcome weeks」の実践報告」口頭（一般）：国立大学留学生指導研究協議会第7回留学生交流・指導研究会 2019年2月

〔その他研究活動〕

（書評）多文化間共修 多様な文化背景をもつ大学生の学び合いを支援する

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究 2018年4月～2021年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員 2017年4月～

全学委員会 国際交流オアシス事業実施協力委員 2018年4月～

全学委員会 学生ボランティア活動支援委員会 2018年4月～

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」実施委員会 2018年7月～

部局内委員会 施設整備委員 2018年4月～

〔学内教職員支援〕

国際交流部署担当者情報交換会（その他）

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立大学留学生指導研究協議会 ジャーナル編集委員長 2015年4月～

〔学外の社会活動〕

京阪神地域留学生・研究者の家族の支援団体での活動

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

日本学生支援機構海外留学支援制度（学部学位取得型）審査会委員 2017年9月～

渡部 由紀（准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 グローバルゼミ 前期

全学教育 グローバルゼミ 後期
全学教育 Japanese Universities and Students 後期
全学教育 海外研修（基礎） 前期集中
全学教育 海外研修（基礎） 後期集中
大学院教育 多文化教育論概論 前期
大学院教育 多文化教育論特論 後期
大学院教育 多文化教育論研究演習Ⅰ 前期
大学院教育 多文化教育論研究演習Ⅱ 後期

〔論文〕

（共著）「"Mapping Internationalization of Japanese Universities: Goals, Strategies, and Indicators"」 『International Briefs for Higher Education Leaders』 7巻 21-24 2018年
（共著）「学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と研修成果 ―東北大学グローバルラーニングセンターの取り組み―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5号 237-245 2019年3月

〔著書〕

『海外留学プログラム開発のためのハンドブック』 東北大学高度教養教育・学生支援機構 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と学習成果」 口頭（一般）：第23回留学生教育学会年次大会 2018年9月
「アジアの大学国際化評価指標構築に向けた量的分析（共同発表）」 口頭（一般）：日本国際教育学会第29回大会 2018年9月
「アジアの大学国際化評価指標構築に向けた量的分析」 口頭（一般）：日本国際教育学会第29回大会 2018年9月
「"Strategies, Goals, and indicators for Internationalization of Universities: Comparative analysis of Oceania, South & Southeast Asia, East Asia, and Japan"」 口頭（招待・特別）：Internationalization of Higher Education Platform (IZN of HEP): Internationalization Policies and Practices for Future Development 2018年11月
「Examining Indicators for Evaluation of University Internationalization in Asia-Pacific」 口頭（一般）：Asia-Pacific Association for International Education Conference 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 急速に発展するアジアの高等教育における大学国際化評価に関する実証的研究 2016年4月～2019年3月 分担者
基盤研究(S) アジアにおける「知識外交」と高等教育の国際化に関する実証的研究 2016年4月～2020年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員 2018年4月～2019年3月
全学委員会 学務審議会全学教育科目委員会専門委員及び部会等委員 2018年4月～2019年3月
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2018年4月～2019年3月

〔教育相談〕

のべ相談人数 33名

ROBERT MARTIN (准教授)

〔専門分野〕

生化学
生体生命情報学
細胞生物学
分子生物学

小池 武志 (准教授)

〔論文〕

（共著）「Three-level mixing model for nuclear chiral rotation: Role of the planar component」 『Physical Review C』 97巻 041303(R)- 2018年4月

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

三春「実生」プロジェクト 役員 2011年6月～

坂本 友香 (准教授)

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 日本社会・文化B 前期
全学教育 海外研修（基礎） 前期集中
全学教育 日本社会・文化B 後期
全学教育 海外研修（基礎） 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

授業担当：・前期・後期共に全学教育科目「海外研修（基礎）」を担当し、カナダ、ベトナム、アメリカ研修プログラム（担当プログラム参加者約60名）の企画・運営、事前・事後研修（全5回）における学生指導を行った。また、海外研修時には、海外協定校、保健・管理センターと連携し、異文化適応や危機管理面 などにおいて学生を支援した。また、英語で開講する「宮城の伝統文化を通じた日本理解」（前期）、「日本の伝統文化を通じた日本理解」（後期・2コマ）を担当し、外国人留学生向け科目及び国際共修授業科目開講にも貢献した。 教育支援活動： ・留学希望者に対し、アドバイジングを実施。

〔会議の発表・講演〕

「学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と学習成果」 口頭（一般）：留学生教育学会第23回研究大会 2018年9月

〔その他研究活動〕

（フィールドワーク）大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究

〔学内活動〕

その他の主要活動 大学運営活動（グローバルラーニングセンター） 2017年4月～

〔学外の社会活動〕

海外の高校生による東北大学訪問受け入れ

みやぎ高校生留学フェア

山形東高等学校生徒と東北大学留学生との異文化理解セミナー

島崎 薫（講師）

〔専門分野〕

外国語教育

日本語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 海外研修 後期

〔その他教育上に関する活動〕

サマープログラム TUJP コーディネーター

（学友会・同好会等の指導）@home 顧問

（教科書・教材の開発）サマープログラム TUJP 日本語教材の開発

バイラー大学プログラム企画・運営

（教科書・教材の開発）留学生向け入学前準備プログラム教材開発

メリーランド大学プログラム企画・運営

〔会議の発表・講演〕

「留学生と国内学生がともに学ぶ国際共修の実践について考える：東北大学の事例をもとに」 その他：山梨学院大学平成30年度FD・SD研修会 2018年9月

「東北大学における留学生生活の実態と学内での支援について」 その他：東北大学第2回学生生活支援審議会FD 2018年10月

「東北大学における留学生入学前準備プログラム「Welcome Weeks」の実践報告」 口頭（一般）：第7回 COISAN 留学生交流・指導研究会 2019年2月

「日米間学生協働プロジェクトの成果と課題：「Humans of Minamisanriku」実践報告」 口頭（一般）：アメリカ日本語教師会 2019年春季大会 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究(B) 実践コミュニティ間の越境をともなった日本語学習者の学びに関する基礎的研究 2017年4月～2020年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 日本語研修教育運営委員 2015年10月～

全学委員会 日本語研修教育運営専門委員 2015年10月～

全学委員会 人文社会系学生交流委員 2016年4月～

〔国際交流実績〕

オーストラリア ニューサウスウェルズ大学（部局間）2014年8月～

林 聖太（助教）

〔専門分野〕

英語教育学・英語教授法

〔論文〕

（共著）「The Impact of Dialogic Pronunciation Practice on TOEIC® Listening Scores: A Study of Japanese University Students in an EFL Setting」, 『リメディアル教育研究』, 第13巻, pp.23-30, 2019年

(共著)「The Use of Mobile Flashcards in Preparing Technical University Students for TOEIC®」,『ESP 語彙研究の地平—新しい工学英語教育の創造をめざして—』,金星堂,2018年

〔学内活動〕

その他の主要活動 大学運営活動(グローバルラーニングセンター) 2018年11月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

留学生教育学会理事補佐 2018年11月～

中村 教博(教授)

〔専門分野〕

地質学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 自然科学総合実験 通年

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 通年

全学教育 遊学:ためして、つなげて、ふりかえる 2セメスタ

全学教育 みせる、学び:大学で何を学んだの?どう役に立つの? 2セメスタ

大学院教育 課題研究 未設定

その他 Global 30 Introductory Science experiment 3セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

博士2名(主査1名、副査1名)、修士2名(主査2名)

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 研究倫理教育レベル5向けセミナー「研究倫理とは?」

〔論文〕

(共著)「Effect of crack direction around laboratory-scale craters on material bulk permittivity」『Icarus』 319巻 512-524 2018年10月

(共著)「"Ferromagnetic Resonance Spectroscopy and Rock Magnetic Characterization of Fossil Coral Skeletons in Ishigaki Islands, Japan"」『geosciences』 8巻 400号 1-11 2018年11月

(共著)「大規模理科実験科目におけるFD研修」『第68回東北・北海道地区大学等高等・共通研究会研究集録』 2018年12月

〔会議の発表・講演〕

「[HCG24-01] Revealing transport mechanism of coastal boulders onto the cliff based on field survey, laboratory experiment, and numerical simulation」口頭(一般):日本地球惑星科学連合2018年大会 2018年5月

「[SEM17-16] 粘性残留磁気による年代推定のズレに関する実験的検証」口頭(一般):日本地球惑星科学連合2018年大会 2018年5月

「Preliminary report on sedimentary > structure and magnetostratigraphy of IODP Site U1490」ポスター(一般):地球惑星科学連合大会 2018年5月

「地磁気ダイナモ作用を維持するエネルギーは何か?～>深海底堆積物を用いた検討～」口頭(一般):学際高等研究教育院第3回 Joint Workshop 2018年7月

「大規模理科実験科目におけるFD研修」口頭(一般):第68回東北・北海道地区研究会 第3分科会 カリキュラム改革とFD/SDの実践 2018年8月

「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学:統合科学の一例として」口頭(一般):2019 Transforming Undergraduate STEM Education in Japan 2019年2月

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(A) 過去1000万年間の長期的な地磁気変動の解明 2016年4月～2019年3月 分担者

基盤研究(C) 地磁気による津波性巨礫・断層破碎帯の活動年代法の実用化 2018年4月～2020年3月 代表者

基盤研究(B) 学問に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究 2018年4月～2020年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会実験科目委員会 2016年4月～

全学委員会 学務審議会 基幹科目委員会委員長 2017年4月～2019年3月

全学委員会 広報(曙光)編集委員会委員 2018年4月～2019年3月

全学委員会 全学教育改革推進ワーキンググループ委員 2019年1月～2019年3月

部局内委員会 総合学術博物館部会委員 2015年7月～

部局内委員会 高教機構 施設整備委員会委員長 2017年4月～

その他の主要活動 学友会バスケ部顧問 2018年12月～

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験のための教員・TAガイダンス(FD/SDの企画・運営)

自然科学総合実験のための教員・TAガイダンス(FD/SDの企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

地球電磁気・地球惑星圏学会 運営委員会委員 2015 年 4 月～2019 年 3 月

日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 書面審査・書面評価員 2017 年 8 月～2018 年 7 月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議・運営) 第 142 回地球電磁気・地球惑星圏学会 2018 年 11 月 23 日

(国際会議・主催) International Symposium for Evidence-based Transformation of STEM Education: Nobel Laureate Professor Carl Wieman's Initiative and Imperial College London's Strategy 2019 年 3 月 2 日

(国内会議・主催) Science Education Specialists (SEs): How They are Trained and What Their Role is 2019 年 3 月 3 日

〔兼務、兼業など〕

学内 理学研究科地学専攻 教授 (兼任) 2016 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

第 70 回東北大学祭 サイエンスワークショップ

地球電磁気・地球惑星圏学会アウトリーチ活動

中川 学 (准教授)

〔専門分野〕

日本近世史

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 東北大学を学ぶ (人間と文化) 前期前半

全学教育 memento mori 一死を想えー 1 セメスタ (分担)

全学教育 東北大学を学ぶ (人間と文化) 2 セメスタ

全学教育 History of Tohoku University (歴史と人間社会) 2 セメスタ

全学教育 遊学: ためして、つないで、ふりかえる 2 セメスタ (分担)

全学教育 東北大学のひとびと 2 セメスタ (分担)

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 『東北大学レポート指南書』第 2 版第 2 刷 (第 5 章担当)

〔共同研究活動〕

賀茂別雷神社文書の調査・研究 研究相手先: 東京大学史料編纂所・日本史史料の研究資源化に関する研究拠点 国内 2018 年 4 月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 神社争論をめぐる紛争処理システムの研究—朝廷・幕府の裁判を中心に 2016 年 10 月～2019 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 広報連絡委員 2013 年 4 月～

全学委員会 学務審議会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ専門委員 2017 年 4 月～

部局内委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会・史料館部会委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 総務委員会委員 2017 年 4 月～

部局内委員会 広報小委員会委員長 2017 年 4 月～

その他の主要活動 学際融合教育推進センター・副センター長 2017 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

宮城歴史科学研究会 委員 2009 年 4 月～

東北史学会 評議員 2013 年 10 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学史料館 兼務教員 2010 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 理事 2014 年 5 月～

山内 保典 (准教授)

〔専門分野〕

認知科学

科学社会学・科学技術史

科学教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ (フィクションで正義を考える) 前期

全学教育 人間と文化 (展開ゼミ: 汎用的技能ワークショップ) 後期

全学教育 科学と情報（展開ゼミ：あなたの選択） 後期
全学教育 カレントトピックス科目（遊学） 後期
全学教育 カレントトピックス科目（みせる、学び） 7, 8セメ
全学教育 基礎ゼミ（社会の中の科学技術） 1セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）研究倫理教育教材 ISTU 版作成（レベル2・3向け）

〔会議の発表・講演〕

「大学院教育でのトランスファラブル・スキルの開発」 口頭（一般）：奈良先端科学技術大学院大学 教育推進部門企画 FD 研修会 2018 年 9 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 「個別支援×集団研修」のハイブリッド型小学校理科指導力向上プログラムの開発 2017 年 4 月～ 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 公正な研究活動推進室 2016 年 4 月～
全学委員会 教育情報・評価改善委員会 2017 年 4 月～
全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018 年 4 月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会 2016 年 4 月～
部局内委員会 機構改革推進本部 2018 年 2 月～

〔学内教職員支援〕

機構正午 PD の企画・運営（FD／SD の企画・運営）
基礎ゼミ展開ゼミ FD（講師）
研究公正アドバイザー向けワークショップ（FD／SD の企画・運営）

〔プロジェクト活動〕

社会にインパクトある研究「心に豊かさを灯す社会の創造」

〔学外の社会活動〕

一般財団法人理数教育研究所の広報誌にて、科学技術と社会に関する連載
八尾柏原藤井寺 3 市合同初任若手小学校教員研修

野家 啓一（総長特命教授）

〔専門分野〕

哲学
科学基礎論

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）『科学の哲学』（放送大学教育振興会）の執筆・刊行

座小田 豊（総長特命教授）

〔専門分野〕

哲学
思想史

〔論文〕

（単著）「学問の役割について—シェリングの『学問論』を手がかりに—」 『シェリング年報』 26 号 25-36 2018 年 7 月
（単著）「絶対的なもの」の構成はいかにして可能か 『ヘーゲル哲学研究』 24 号 45-57 2018 年 12 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北哲学会 委員(1998～)、会長(2008～) 1998 年 4 月～

山口 隆美（総長特命教授）

〔専門分野〕

医用生体工学・生体材料科学
流体工学

〔プロジェクト活動〕

東北大学 REDEEM プロジェクト 第二期 医療工学技術者創成のための再教育システム

〔学会活動および外部機関における活動〕

（社）日本機械学会 フェロー 2004 年 3 月～
Asian-Pacific Association for Biomechanics 代表 2005 年 11 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 特定非営利活動法人 REDEEM 代表理事 2009 年 1 月～

学外 Asian-Pacific Association for Biomechanics 代表 2005 年 11 月～

学外 (社) 日本機械学会 フェロー 2004 年 3 月～

学外 世界バイオメカニクス理事会 (World Council for Biomechanics) 委員 1999 年 5 月～

〔学外の社会活動〕

医療工学技術者創成のための再教育システム

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

特定非営利活動法人 REDEEM 代表理事 2009 年 4 月～

宮岡 礼子 (総長特命教授)

〔専門分野〕

幾何学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 展開ゼミ「数学と諸分野の最先端連携」 2 セメスタ

全学教育 基礎ゼミ 今更ですが「もしドラ」を見てみよう, 読んでみよう 1 セメスタ

全学教育 基礎ゼミ 統計学入門 未設定

全学教育 数学概論 B 未設定

全学教育 線型代数学 A 未設定

全学教育 「展開ゼミ」曲がった空間の幾何学 2 セメスタ

全学教育 「展開ゼミ」DNA の冒険 2 セメスタ

学部教育 幾何学序論 B 4 セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

博士 1 名 (その他 1 名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018 年度 大学院学生 (博士課程後期 3 年の課程) 口頭発表件数: 5 件 論文発表件数: 3 件 学会発表件数: 2 件 国際会議発表件数: 2 件

〔論文〕

(単著) 「ある過剰決定系の解の性質」 『2018 年度福岡大学微分幾何研究集会報告集』 2019 年 2 月

〔著書〕

『現代幾何学への招待 (電子版)』サイエンス社 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

口頭 (招待・特別): "5th Workshop "Complex Geometry and Lie Groups", Firenze" 2018 年 6 月

「Lagrangian Geometry of the Gauss Image of Isoparametric Hypersurfaces」口頭 (招待・特別): Ehwa University Mathematics Colloquium 2018 年 9 月

「ある過剰決定系の解の性質」口頭 (招待・特別): 2018 年度福岡大学微分幾何研究集会 2018 年 11 月

〔共同研究活動〕

ガウス写像の除外値問題 研究相手先: 名古屋大学 国内 2003 年 9 月～

ラグランジュ交叉とフレアホモロジー 研究相手先: 中国 清華大学 国外 2014 年 6 月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) 可積分幾何の新展開 2015 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔国際交流実績〕

中国 復旦大学 (大学間) 2007 年 12 月～

中国 南開大学 Chern Institute of Mathematics (その他) 2011 年 12 月～

イギリス King's College London (部局間) 2012 年 12 月～

〔海外研究機関交流実績〕

(渡航: 会議) "Pluripotential Theory, Geometric Analysis and Calibrated Geometry" イタリア University of Torino 2018 年 5 月 1 日～2018 年 5 月 7 日

(渡航: 講演) "The 5th Workshop "Complex Geometry and Lie Groups" 2018" イタリア University of Florence 2018 年 6 月 11 日～2018 年 6 月 15 日

(渡航: 会議) The 4th China-Japan Geometry Conference) 中国 中国科学技術大学 2018 年 9 月 6 日～2018 年 9 月 12 日

(渡航: 講演) Lagrangian Geometry of the Gauss Image of Isoparametric Hypersurfaces 韓国 梨花大学 2018 年 9 月 19 日～2018 年 9 月 22 日

(渡航: 会議) "Global Aspects of Projective and Kahler Geometry" 中国 Tsinghua Sanya International Mathematics Forum 2019 年 1 月 3 日～2019 年 1 月 6 日

(渡航: 会議) UK-Japan Winter School: winter 2019 イギリス University of Leeds 2019 年 1 月 6 日～2019 年 1 月 12 日

(渡航: 講演) 中国 Tsinghua University 2019 年 2 月 15 日～2019 年 2 月 21 日

〔学会活動および外部機関における活動〕

Kyushu Journal of Mathematics 編集委員 2004 年 4 月～
日本学術会議 連携会員 2006 年 5 月～
女性科学者に明るい未来をの会 評議員 2012 年 4 月～
科学技術振興機構 CREST 領域アドバイザー 2014 年 6 月～
科学技術振興機構 さきがけ領域アドバイザー 2014 年 6 月～
明治大学先端数理インスティテュート 現象数理学研究拠点運営委員 2014 年 7 月～
韓国数学会 数学雑誌 編集委員 2016 年 2 月～

〔会議の主催・運営〕

(国際会議主催) 第 4 回日中幾何学研究集会 2018 年 9 月 6 日～2018 年 9 月 12 日

〔兼務、兼業など〕

学外 日本学術会議 連携会員 2014 年 10 月～2020 年 9 月
学外 科学技術振興機構 さきがけ及び CREST 領域アドバイザー 2014 年 6 月～
学外 明治大学先端数理科学インスティテュート MIMS 共同利用・共同研究拠点運営委員 2014 年 7 月～
学外 女性科学者に明るい未来をの会 選考委員 2011 年 6 月～
学外 放送大学 非常勤講師 2018 年 10 月～
学外 稲盛財団 京都賞専門委員 2017 年 7 月～2018 年 6 月
学外 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員 2018 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

高校数学研究会講演

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

稲盛財団 京都賞専門委員会 専門委員 2018 年 4 月～2019 年 3 月
放送大学 非常勤講師 2018 年 10 月～2019 年 3 月

米倉 等 (総長特命教授)

〔専門分野〕

農業開発論
開発経済学
地域研究

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 歴史と人間社会 1 セメスタ
学部教育 開発経済学 5 セメスタ
学部教育 農業経済学演習 5 セメスタ
学部教育 現代における農と農学 1 セメスタ
学部教育 農学と社会・環境 1 セメスタ
学部教育 理論経済学Ⅱ 4 セメスタ
大学院教育 国際資源政策学特論 MC 1 年前期
大学院教育 国際資源開発史 DC 1 年 1 学期
大学院教育 特別研修 MC 2 年通年
大学院教育 特別研修 DC 3 年通年

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) ヒューマンセキュリティプログラム実施

〔学内活動〕

その他の主要活動 ヒューマンセキュリティ・プログラム世話人 2005 年 4 月～

〔国際交流実績〕

インドネシア ガジャマダ大学 (大学間) 2006 年 12 月～
インドネシア ハサヌディン大学農学部 (部局間) 2015 年 2 月～
インドネシア ブラウィジャヤ大学 (大学間) 2015 年 9 月～
インドネシア パジャジャラン大学 (大学間) 2015 年 9 月～
インドネシア ボゴール農科大学 (大学間) 2015 年 9 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本農業経済学会 副会長 2014 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

仙台二華中学校・高等学校 スーパーグローバルハイスクール

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

国際協力機構 食料安全保障政策立案・実施支援プロジェクト アドバイザー 2005年8月～

鈴木 岩弓（総長特命教授）

〔専門分野〕

宗教学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 『遠野物語』をあるく 前期

全学教育 memento mori ―死を想え― 前期

全学教育 仙台市内のカミガミ 前期後半

全学教育 文学者の見た「死」 後期

全学教育 現代日本の「死」の変化 後期

全学教育 日本の民間信仰 後期

他大学 中国：東南大学（日本文化論：死の宗教民俗学） 前期

〔論文〕

（単著）「柳田國男と仙台の地」 『鈴木岩弓・小林隆編『柳田國男と東北大学』（東北大学出版会）』 29-61 2018年4月

（単著）「死者を忘れない “死者の記憶” 保持のメカニズム」 『鈴木岩弓・森謙二編『現代日本の葬送と墓制 イエ亡き時代の死者のゆくえ』（吉川弘文館）』 150-168 2018年7月

（単著）「臨床宗教師の誕生とその意義」 『人道研究ジャーナル』 8巻 70-79 2019年1月

（単著）「伯耆大山信仰―縁起に示された大山の靈威―」 『大山と三徳―その信仰と行事―』 2019年3月

〔著書〕

『柳田國男と東北大学』東北大学出版会 2018年4月

『現代日本の葬送と墓制 イエ亡き時代の死者のゆくえ』吉川弘文館 2018年7月

〔会議の発表・講演〕

「現代日本における墓の無縁化への対応」 口頭（一般）：日本民俗学会第70回年会 2018年10月

「日本人的人生礼儀」 口頭（一般）：内蒙古大学蒙古学学院學術講演会 2018年11月

〔海外研究機関交流実績〕

（渡航：集中講義）中国 東南大学外国語学院 2018年9月

（渡航：講演）中国 内蒙古大学蒙古学研究所 2018年11月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本宗教学会 常務理事 2001年9月～

みやぎ県南中核病院倫理委員会 倫理委員 2018年4月～

日本民俗学会 会長 2018年10月～

〔兼務、兼業など〕

学外 放送大学 客員教授 2016年4月～

学外 国際日本文化研究センター 客員教授 2017年4月～

〔学外の社会活動〕

東本願寺日曜講演

遊行会講演会

東北大学リベラルアーツサロン講演会

東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京第4期

日文研アイハウス連携フォーラム

宮城県曹洞宗青年会講演会

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

国立歴史民俗博物館 運営委員会 委員 2014年4月～

水野 健作（総長特命教授）

〔専門分野〕

機能生物化学

細胞生物学

医化学一般

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 生命と自然（エッセンシャル生命科学） 前期

全学教育 生命と自然（エッセンシャル生命科学） 後期

全学教育 基礎ゼミ（ノーベル賞で読み解く生命科学の潮流） 未設定

全学教育 展開ゼミ（がんと老化の生物学） 後期

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生（博士課程前期2年の課程） 口頭発表件数:4件 論文発表件数:1件 学会発表件数:4件

2018年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 口頭発表件数:2件 論文発表件数:2件 学会発表件数:2件

〔その他教育上に関する活動〕

総長特命教授合同講義（転換点を生きる）における講演と討論

〔論文〕

〔共著〕「"Solo, a RhoA-targeting guanine nucleotide exchange factor, is critical for hemidesmosome formation and acinar development in epithelial cells."」 『PLoS One』 13巻4号 e0195124-e0195124 2018年4月

〔共著〕「"PKD regulates actin polymerization, neutrophil deformability and transendothelial migration in response to fMLP and trauma."」 『J Leukoc Biol.』 104巻3号 615-630 2018年4月

〔共著〕「"Solo and keratin filaments regulate epithelial tubule morphology."」 『Cell Struc. Funct.』 43巻1号 95-105 2018年4月

〔共著〕「"Cullin-3-KCTD10-mediated CEP97 ubiquitination promotes primary cilium formation."」 『J. Cell Sci.』 131巻24号 jcs219527- 2018年12月

〔著書〕

II. 細胞質/オルガネラでの分子修飾 アセチル化, 脱アセチル化『生体の科学 増大特集 タンパク質・核酸の分子修飾』医学書院 2018年10月

〔会議の発表・講演〕

「Functional roles of Rho-GEF PLEKHG4B in the formation of adherens junctions」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第70回日本細胞生物学会（日本発生活物学会合同大会） 2018年6月

「力覚応答に関与する RhoGEF, Solo と相互作用する蛋白質の BioID 法による網羅的探索」 口頭（一般）：第91回日本生化学会大会 2018年9月

「RhoA-GEF Solo は上皮細胞の集団移動の速度を制御する」 口頭（一般）：第91回日本生化学会大会 2018年9月

「細胞間接着形成に関与する Rho-GEF, PLEKHG4B の機能解析」 口頭（一般）：第91回日本生化学会大会 2018年9月

「上皮細胞のメカノトランスダクションとヘミデスモソーム形成における Rho-GEF Solo の役割」 ポスター（一般）：第41回日本分子生物学会年会 2018年11月

「Solo(ARHGEF40)はケラチン 8/18 ネットワークの再構築に関与し細胞集団移動の速度を制御する」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第41回日本分子生物学会年会 2018年11月

「"Cullin3-KCTD10-mediated CEP97 degradation is crucial for serum-starvation-induced ciliogenesis."」 口頭（一般）："Gordon Research Conference ""Cilia, mucus and mucociliary interactions"" 2019年2月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

（挑戦的萌芽研究 RhoA 活性化因子 Solo のメカノセンシングの分子機構 2018年4月～2020年3月 代表者

基盤研究(B) 増殖抑制シグナル依存的な一次繊毛形成機構の解明 2018年4月～2021年3月 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 生命科学研究科学生支援委員会委員 2017年4月～2018年4月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本細胞生物学会 評議員 2000年4月～

日本生化学会 評議員 2001年4月～

日本細胞生物学会 代議員、理事 2015年4月～

芳賀 満（教授）

〔専門分野〕

史学一般

考古学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ゼミ「ユーラシア大陸から考える?反「大勢」の視点の重要性」 1セメスタ

全学教育 Japanese Art History 前期

全学教育 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia 未設定

全学教育 展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う」 後期

全学教育 カレントトピックス「アジアを感じよう、考えよう」 後期

その他 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia 後期

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 「先端技術を用いた中央アジアの環境・シルクロード交流の総合的調査研究」 2011年4月～ 分担者

（挑戦的萌芽研究 ディオニュソスを中心としたギリシア・ローマ図像のアジアへの伝播・吸引の研究 2012年4月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 基幹科目担当教員会議委員 2010 年 4 月～
全学委員会 G30 全学教育授業担当者会議委員 2010 年 4 月～
全学委員会 学務審議会委員 2012 年 4 月～
全学委員会 附属図書館商議会議員 2012 年 4 月～
全学委員会 東北大学附属図書館本館学生用図書選書委員会 2012 年 4 月～
全学委員会 学術情報整備検討委員会委員 2013 年 4 月～
全学委員会 学術情報資料選定小委員会委員 2013 年 4 月～
全学委員会 教員選考業績評価指針作成検討WG 委員 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基礎ゼミ委員会 委員長 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基幹科目委員会 委員 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 人文科学委員会 委員 2014 年 4 月～
全学委員会 学務審議会 高度教養教育開発検討ワーキング・グループ 委員 2015 年 5 月～
全学委員会 東北大学 附属図書館 学術情報資料選定小委員会 分野別(人文) WG 2015 年 6 月～
全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 運営委員会 委員 2015 年 7 月～
全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 共同利用協議会 委員 2015 年 7 月～
全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム構想委員会 「日本学国際共同大学院検討WG」委員 2016 年 4 月～
全学委員会 学務審議会「研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ」 委員 2016 年 5 月～
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 2011 年 4 月～
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD) プログラム実施部門長 2012 年 4 月～
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、部門長会議委員 2012 年 4 月～
部局内委員会 総務委員会 委員 2014 年 4 月～
部局内委員会 活動データベース作成及び要覧の見直しWG 委員 2014 年 4 月～
部局内委員会 紀要編集委員会 委員長 2015 年 4 月～
部局内委員会 図書・資料委員会 委員長 2015 年 4 月～
その他の主要活動 社会・人文科学短期留学生受入プログラム実施委員会委員 2010 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 (FD/S Dの企画・運営)
高等教育開発推進センター内 大学教育支援センターのプログラム実施部門長として同センターのプログラムの企画と実施に携わる。(FD/S Dの企画・運営)

〔プロジェクト活動〕

ウズベキスタン共和国スルハンダリア州カンピール・テペの発掘調査

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 高度教養教育・学生支援機構 正午PD会 2014 年 4 月 1 日～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員 2010 年 12 月～
日本学術会議 史学委員会 連携会員 「文化財の保護と活用に関する分科会」委員 2012 年 4 月～
日本学術会議 連携会員、史学委員会、「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員 2014 年 10 月～
日本学術会議 連携会員 史学委員会 「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」委員 幹事 2014 年 10 月～
日本学術会議 連携会員 哲学学委員会 「古典精神と未来社会分科会」委員 2014 年 10 月～

葛生 政則 (准教授)

〔専門分野〕

農業経済学

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 経済と社会 1セメスタ

全学教育 経済学 3セメスタ

全学教育 経済と社会 2セメスタ

全学教育 経済学 2セメスタ

〔論文〕

(単著) 「1980 年代、90 年代前半のニーダーザクセン州の農業構造と農業構造政策」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 号 1-14
2019 年 3 月

〔その他研究活動〕

（その他）東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第12回東北大学全学教育FD—報告書—』を編集

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会基幹科目委員会専門委員 2008年4月～

全学委員会 学務審議会教育情報・評価改善委員会推薦委員 2012年4月～2019年3月

〔学内教職員支援〕

「第13回東北大学全学教育FD」の企画・運営に参加。（FD／SDの企画・運営）

田嶋 玄一（准教授）

〔専門分野〕

動物生理・行動

生物物理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 生命科学A（医学部保健学科クラス） 1セメスタ

全学教育 生命科学A（工学部クラス） 1セメスタ

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 生命と自然 2セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）自然科学総合実験 出席・成績情報システムの設計・実装・運用・機能改修

〔著書〕

編集責任者, 第10章, 第13章, 第14章『自然科学総合実験 2018』東北大学出版会 2018年4月

〔学内活動〕

全学委員会 遺伝子組換え実験安全主任者 2008年11月～

全学委員会 環境保全センター業務委員会委員 2012年4月～

全学委員会 情報システム部局実施責任者 2012年4月～

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス（FD／SDの企画・運営）

文科系のための自然科学総合実験教員・TA ガイダンス（FD／SDの企画・運営）

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス（FD／SDの企画・運営）

藤本 敏彦（准教授）

〔専門分野〕

体育学

環境生理学

スポーツ科学

生理学一般

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 スポーツ 未設定

全学教育 体育講義・身体の文化と科学・体と健康 未設定

全学教育 生命と自然 疲労 1セメスタ

全学教育 スポーツB 武道 3, 4セメ

全学教育 生命と自然「身体運動のしくみ」 1セメスタ

全学教育 基礎ゼミ 運動とこころ 1セメスタ

全学教育 スポーツB フィジカルトレーニング 通年

全学教育 展開ゼミ こころと体の健康をつなぐ 2セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

教養教育特任教員

〔論文〕

（共著）「大学体育における実技と講義の同時受講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響」 『大学体育スポーツ学研究』16巻 13-18 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「大学体育における講義の有用性の検討」 口頭（一般）：日本体育学会 第69回大会 2018年8月

「大学生における運動部活動の参加は学生生活の不安を軽減させるか?～3年間の縦断研究からみた検討～」 口頭（一般）：第73回日本体力医学会大会 2018年9月

「運動が認知パフォーマンスを向上させるメカニズムの解明」 口頭（一般）：東北大学サイクロトン共同利用研究成果報告会 2019年3月

〔共同研究活動〕

運動が認知機能を高める機序の解明：PETを用いたドーパミンの神経伝達からの検証 研究相手先：電気通信大学 国内 2016年4月～2019年3月

大学生に対する体育、スポーツの影響 研究相手先：福岡県立大学 国内 2017年4月～

運動強度と骨髄の糖取り込みに関する研究 ("Increase of Glucose Uptake in Human Bone Marrow With Increasing Exercise Intensity.") 研究相手先：フィンランド 国外 2018年4月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 運動が認知機能を高める機序の解明：PETドーパミンの神経伝達からの検証 2016年4月～2019年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2012年4月～

部局内委員会 倫理委員会 2016年4月～

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター 研究開発員（その他）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本体力医学会 評議員 2000年4月～

仙台市 市民局指定管理者選定委員会 委員 2010年9月～

宮城県柔道整復師会 宮城学術認定柔道整復師認定委員会 委員 2010年9月～

〔兼務、兼業など〕

学内 医学系研究科 障害科学専攻 機能医科学講座 講師 2004年4月～

学内 大学教育支援センター 研究開発委員 2011年4月～

学内 スポーツ医科学コアセンター 2011年4月～

学外 東北学院大学 非常勤講師 2018年4月～

〔学外の社会活動〕

宮城県成人病予防協会講演会

高橋 禎雄（助教）

〔専門分野〕

日本思想史

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育科目 基幹科目「概説東北大学」1セメスター

全学教育科目 展開科目「日本近世政治思想の歴史的展開」2セメスター

〔論文〕

（共著）「文献学 村岡典嗣と日本思想史学」『近代日本の思想をさぐる一研究のための15の視角』（中野目徹 編 吉川弘文館）2018年12月

〔会議の発表・講演〕

その他：国際シンポジウム 聖地と霊場―神・仏・死者、その共生の構図 2018年8月

〔学内活動〕

全学委員会 学術資源研究公開センター史料館兼務教員 2010年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本文芸研究会 常任委員 1997年6月～

東北大学文学部同窓会 監事 2015年10月～

日本東アジア実学研究会 事務局長、評議委員 2018年9月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学学術資源研究公開センター史料館 兼務教員 2010年4月～

太田 宏（助教）

〔専門分野〕

生態・環境

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

学部教育 進化学実習 5セメスタ

学部教育 生態学実習 5 セメスタ

他大学 仙台工業高等専門学校 (生物学) 9, 10 セメ

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発

〔論文〕

(共著) 「エゾサンショウウオとトウホクサンショウウオの孵化率及び幼生の生存率に融雪剤 (CaCl₂) が及ぼす影響」 『保全生態学研究』 23 巻 1 号 67-73 2018 年 7 月

〔共同研究活動〕

西シベリア、チャニー湖沼群における両生爬虫類の分布について 研究相手先: ロシア ロシア科学アカデミーシベリア支所動物分類生態研究所 国外 2001 年 8 月～

両生類の塩分耐性について～融雪剤の影響～ 研究相手先: NPO 法人環境把握推進ネットワーク・PEG 国内 2011 年 4 月～

ツチガエルの性決定様式が異なる地域集団について 研究相手先: 横浜市、広島大学 国内 2015 年 6 月～

〔学内活動〕

その他の主要活動 アニメーション研究会顧問 1989 年 11 月～

その他の主要活動 園芸部顧問 1997 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/SD の企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会委員 2012 年 7 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 東北大学生生活協同組合 理事 2002 年 5 月～

学外 宮城県希少野生動植物保護対策検討会 構成員 2007 年 12 月～

学外 国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査アドバイザー 2012 年 7 月～

学外 宮城県 宮城県環境影響評価記述審査会委員 2014 年 1 月～

学外 仙台高等専門学校 非常勤講師 2009 年 10 月～

〔学外の社会活動〕

宮城県野生動植物調査会 両生類・爬虫類分科会長

カジカガエルが誘う、里地里山の魅力発見！

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

環境省自然環境局 東北北海道地区自然保護事務所 東北北海道地区自然保護事務所調査研究員 2005 年 8 月～

宮城県 希少野生動植物保護対策検討会 両生爬虫類分科会長 2007 年 11 月～

環境省 希少野生動植物種保存推進員 2012 年 6 月～

国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査 アドバイザー 2012 年 7 月～

宮城県 環境影響評価記述審査会 委員 2014 年 1 月～

国土交通省東北地方整備局 鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 委員 2016 年 6 月～

岡 壽崇 (助教)

〔専門分野〕

物理化学

放射線・化学物質影響科学

〔論文〕

(共著) 「南相馬市・浪江町野生ニホンザル・アライグマの放射性セシウムの臓器内放射能濃度」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 237-242 2018 年

(共著) 「福島第一原発事故被災サルの硬組織中の放射能濃度」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 231-236 2018 年

(共著) 「福島第一原発事故被災サルの硬組織中の放射能濃度ウシの歯の放射能測定による福島第一原発事故後の環境汚染評価」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 225-230 2018 年

(共著) 「福島第一原発事故被災ウシの歯・骨中の放射性・安定セシウムの測定」 『Proceedings of the 19th Workshop on Environmental Radioactivity』 219-224 2018 年

(共著) 「Gas-permeable templates using cellulose derivatives with acrylate and methacrylate groups for reduction in void defect density in ultraviolet nanoimprint lithography」 『Japanese Journal of Applied Physics』 57 巻 086503-1-086503-6 2018 年 7 月

(共著) 「"Ferromagnetic Resonance Spectroscopy and Rock Magnetic Characterization of Fossil Coral Skeletons in Ishigaki Islands, Japan"」 『Geosciences』 8 巻 400- 2018 年 11 月

(共著) 「Substituent effect on the yield of unpaired electrons in DNA bases studied by electron paramagnetic resonance」 『Applied Physics Letters』 113 巻 2018 年 12 月

[著書]

『自然科学総合実験 2018』 2018 年 4 月

[会議の発表・講演]

「Role of animal teeth for estimation of environmental pollution of Sr-90 and Cs-137 just after the Fukushima Daiichi Power Plant Accident」

口頭 (一般) : The 18th Radiochemical Conference (RadChem2018) 2018 年 5 月

「Improvement of the electron spin resonance spectroscopy detection limit for tooth dosimetry」 ポスター (一般) : EPR BioDose 2018 2018 年 6 月

「ウシの歯中の放射能濃度からの環境中 Sr-90 と Cs-137 の挙動の推定」 口頭 (一般) : 第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会 2018 年 7 月

「放射線照射ポリエチレンの長期保存中の酸化劣化評価」 口頭 (一般) : 第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会 2018 年 7 月

「被災サル歯中 Sr-90 の測定と歯を用いた被災サルの骨髓線量の推定」 口頭 (一般) : 第 5 回福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会 2018 年 8 月

「Structural Evolution of Deformed Polyethylene Studied with Positrons」 ポスター (一般) : 18th International Conference on Positron Annihilation (ICPA-18) 2018 年 8 月

「Free-volume study of radiation-irradiated polymers by means of the ^{22}Na -based low-energy AMOC technique」 ポスター (一般) : 18th International Conference on Positron Annihilation (ICPA-18) 2018 年 8 月

「Long-term oxidative degradation of electron beam irradiated high density polyethylene studies by positron annihilation technique」 ポスター (一般) : The 13th International symposium on Ionizing Radiation and Polymers (IRaP2018) 2018 年 8 月

「Beam-based positron annihilation lifetime spectroscopy for evaluation of the impurities of $\text{C}\#D60\#DR$ with encapsulated lithium cation」 ポスター (一般) : Tohoku University's Chemistry Summer School 2018 2018 年 8 月

「Strontium-90 separation method for soil from the Fukushima environment」 ポスター (一般) : Tohoku University's Chemistry Summer School 2018 2018 年 8 月

「Degradation of gamma-ray irradiated polyethylene films studied by positron annihilation」 ポスター (一般) : "The 10th International Conference of Modification, Degradation and Stabilization of Polymers (MoDeSt2018)" 2018 年 9 月

「(2) プラズマを標的とするインフライトミュオン触媒核融合の物理」 口頭 (一般) : 日本原子力学会 2018 年秋の大会 2018 年 9 月

「ウシの歯を用いた福島第一原発事故後の Sr-90 汚染経過の推定」 口頭 (一般) : 日本分析化学会第 67 年会 2018 年 9 月

「歯の ESR 測定によるヒトおよび動物の外部被ばく線量評価」 口頭 (一般) : 日本分析化学会第 67 年会 2018 年 9 月

「浪江町の野生アライグマの臓器ごとの Cs-137 放射能濃度の測定」 ポスター (一般) : 2018 日本放射化学会年会・第 62 回放射化学討論会 2018 年 9 月

「福島第一原発事故後の環境中からウシ硬組織への Sr-90 の移行挙動」 口頭 (一般) : 2018 日本放射化学会年会・第 62 回放射化学討論会 2018 年 9 月

「福島第一原発事故被災サルの歯・骨への Sr-90 の取り込み履歴と骨髓線量の推定」 口頭 (一般) : 日本放射線影響学会第 61 回大会 2018 年 11 月

「放射線汚染地域に生息するアライグマにおける細胞遺伝学的解析」 口頭 (一般) : 日本放射線影響学会第 61 回大会 2018 年 11 月

「ニホンザルの歯の電子スピン共鳴測定による外部被ばく線量推定」 ポスター (一般) : 日本放射線影響学会第 61 回大会 2018 年 11 月

「福島原発事故後のウシ、サルの硬組織への環境中からの ^{90}Sr の移行」 口頭 (一般) : 第 20 回環境放射能研究会 2019 年 3 月

「福島原発事故影響調査のための野生動物体内の放射性核種分布と被ばく線量の評価」 ポスター (一般) : 第 20 回環境放射能研究会 2019 年 3 月

「外部被ばく線量評価のための ESR 法の検出限界の改善」 ポスター (一般) : 第 20 回環境放射能研究会 2019 年 3 月

[共同研究活動]

歯を用いた包括的被ばく線量評価 研究相手先: 国内 2014 年 4 月～

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(B) 歯を用いた内部被曝量のスクリーニング 2015 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 量子ビーム処理した多糖類のゲル化メカニズムの解明 2016 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 陽電子寿命測定による高分子材料の変形・ひずみのオペランド分析 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

基盤研究(A) レーザー誘電体スイッチ型卓上マイクロビーム源の開発と応用 2018 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 乳歯を用いた福島県在住小児の外部被ばく量測定 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

新学術領域研究 マッハ衝撃波干渉領域での飛行中ミュオン触媒核融合の創生 2018 年 6 月～2023 年 3 月 分担者

[その他の競争的資金獲得実績]

(その他補助金 文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム 研究設備の試行的利用事業) 軟 X 線照射ポリイミド薄膜の陽電子消滅寿命の変化 2014 年 7 月～

(その他受託研究費 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業) 福島原発事故による生物影響の解明に向けた学際共同研究 2016 年 12 月～2019 年 3 月

(その他受託研究費 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業) 放射線影響モデル動物を利用した生物影響解明のための多面的アプローチ
チ 2017 年 12 月～2020 年 3 月

〔学術関係受賞〕

Young Scientist Poster Prize 授与機関:EPRBioDose2018 International Conference 2018 年 6 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本放射線化学会 編集委員会 編集委員 2004 年 4 月～

日本陽電子科学会 会誌刊行委員会 副委員長 2013 年 4 月～

日本放射線化学会 理事 2014 年 9 月～

International Electrotechnical Commission TC 112 国内委員会 WG2 委員・国際エキスパート・アシスタントプロジェクトリーダー 2016 年 11 月～2018 年 11 月

公益財団法人 日本アイソトープ協会 第 55 回 アイソトープ・放射線 研究発表会 幹事 2018 年 1 月～2018 年 9 月

公益財団法人 日本アイソトープ協会 若手ユーザ活性化専門委員会 専門委員 2018 年 4 月～

公益財団法人 日本アイソトープ協会 理工・ライフサイエンス部会 常任委員会 委員 2018 年 4 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 International Electrotechnical Commission TC 112 国内委員会 WG2 委員・国際エキスパート・アシスタントプロジェクトリーダー 2016 年 11 月～

学外 日本アイソトープ協会 第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会 運営委員会幹事 2018 年 1 月～2018 年 9 月

小俣 乾二 (助教)

〔専門分野〕

有機化学

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 教科書の編集

〔学内活動〕

全学委員会 自然科学総合実験テキスト編集委員会 2003 年 4 月～

全学委員会 自然科学総合実験実施委員会 2007 年 4 月～

全学委員会 東北大学文科系のための自然科学総合実験テキスト編集委員会 2008 年 4 月～

永尾 翔 (助教)

〔専門分野〕

素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 文科系のための自然科学総合実験－2 前期後半

〔論文〕

(共著) 「Neutral Kaon Spectrometer 2」 『Nuclear Instruments and Methods in Physics A』 886 巻 88-2018 年 7 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 光子ビームを用いた中性子過剰 Λ ハイパー核の弱崩壊過程の研究 2018 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

その他の主要活動 自然科学総合実験運営スタッフミーティング 2016 年 4 月～

その他の主要活動 理系・文系の自然科学総合実験の実施・運営 2016 年 4 月～

石田 章純 (助教)

〔専門分野〕

岩石・鉱物・鉱床学

地球宇宙化学

〔論文〕

(共著) 「"Chamber formation and trace element distribution in the calcite walls of laboratory cultured planktonic foraminifera (Globogenerina bullies and Globigerinoides ruber)."」 『Marine Micropaleontology』 140 巻 46-55 2018 年

(共著) 「"Searching for the great oxidation event in North America: A reappraisal of the Huronian Supergroup by SIMS sulfur four-isotope analysis."」 『Astrobiology』 18 巻 5 号 2018 年

(共著) 「"Questioning the biogenicity of Neoproterozoic superheavy pyrite by SIMS."」 『American Mineralogist』 2018 年

(共著) 「Simultaneous In situ analysis of carbon and nitrogen isotope ratios in organic matter by secondary ion mass spectrometry」 『Geostandards and Geoanalytical Research』 42 巻 189-203 2018 年 5 月

- (共著) 「Lithospheric architecture and tectonic evolution of the southwestern U.S. Cordillera: Constraints from zircon Hf and O isotopic data」
『GSA Bulletin』 2018 年 6 月
- (共著) 「Hydrogen isotope analysis of microscale apatite inclusions in Archean zircon grains」 『Geochemical Journal』 52 巻 457-466 2018 年 8 月
- (共著) 「Thermal and impact histories of 25143 Itokawa recorded in Hayabusa particles」 『Scientific Reports』 8 巻 2018 年 8 月
- (共著) 「Growth and formation of statoliths in *Aurelia coerulescens* examined by using ^{234}U - and Sr-labels」 『Journal of Plankton Research』 40 巻 5 号 619-626 2018 年 8 月

〔会議の発表・講演〕

- 「Simultaneous in situ analysis of C and N Isotope Ratios in organic matter by SIMS: application for geological samples」 口頭（一般）：日本地球惑星科学連合 2018 年会 2018 年 5 月
- 「生命の起源と進化の地球化学-初期地球生命圏の解明に向けた研究」 口頭（招待・特別）：極限環境生物学会シンポジウム 2018 年 8 月

〔総説・解説記事〕

- (単著) 「生命の起源と進化の地球化学：太古代の生命の痕跡をめぐる研究と近年の研究について」 『極限環境生物学会誌』 17 号 69-76 2019 年 1 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究(B) 初期原生代生命圏の高解像度復元を目指した酵素金属微小領域分析の地質試料への応用 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

壁谷 典幸 (助教)

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 自然科学総合実験 1 セメスタ

〔論文〕

- (共著) 「Antiferromagnetic ground state and heavy-fermion behavior in $\text{Ce}_2\text{Pt}_2\text{Pb}$ 」 『PHYSICAL REVIEW B』 98 巻 035131- 2018 年 7 月
- (共著) 「Spin trimer formation in the metallic compound $\text{Gd}_3\text{Ru}_4\text{Al}_{12}$ with a distorted kagome lattice structure」 『PHYSICAL REVIEW B』 98 巻 054410- 2018 年 8 月

〔会議の発表・講演〕

- 「磁性絶縁体」 1: 日本物理学会 2018 年秋季大会 2018 年 9 月
- 「変形カゴメ格子を持つスピンプラトー系 $\text{Gd}_3\text{Ru}_4\text{Al}_{12}$ におけるスピン三量体の形成と三量体間相互作用」 口頭（一般）：日本物理学会 2018 年秋季大会 2018 年 9 月
- 「 $\text{CeCu}_6\text{yAu}_y$ の Ce 希釈系における交流磁化率の奇妙な振る舞い」 口頭（一般）：日本物理学会 2018 年秋季大会 2018 年 9 月
- 「Shastry-Sutherland 構造を持つ $\text{Ce}_2\text{Pd}_2\text{Cd}$ の磁化プラトー現象」 口頭（一般）：日本物理学会 2018 年秋季大会 2018 年 9 月

〔兼務、兼業など〕

学内 極低温科学センター 2012 年 4 月～

佐藤 智子 (准教授)

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ 1 セメスタ

全学教育 人間と文化 前期

全学教育 社会の構造 後期

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅲ 前期

大学院教育 教育情報学応用論演習Ⅲ 後期

〔その他教育上に関する活動〕

学習支援センターSLA サポート事業の推進、SLA 研修プログラム開発・実施

(教科書・教材の開発) 学習支援センターにおいて『東北大学レポート指南書』に準拠したアカデミック・スキルズセミナー「レポート指南書入門ゼミ」を開発・実施した。

〔論文〕

(共著) 「アクティブ・ラーニング型授業におけるアイスブレイクの意義と方法」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5号 203-211 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「社会教育のコミュニティ・ガバナンスに関する学習論的検討」 口頭 (一般) : 日本教育学会第 77 回研究大会 2018 年 8 月

「公民館再編の動向にみる社会教育概念の再検討と教育行政の課題」 口頭 (一般) : 日本教育行政学会第 53 回大会 2018 年 10 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 都市公民館再編の実態とコミュニティ・ガバナンスへのインパクト 2015 年 4 月～2019 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 附属図書館学習支援委員会委員 2017 年 4 月～

全学委員会 公正な研究活動推進委員会専門委員会 2018 年 4 月～

部局内委員会 学習支援センター副センター長 2016 年 4 月～

部局内委員会 紀要・出版委員会委員 2018 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター大学教員準備プログラム (PFFP)・新任教育プログラム (NFP) 先達教員 (その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本教育行政学会 研究推進委員 2016 年 10 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 高知大学希望創発センター 客員准教授 2018 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

尼崎市 公民館運営審議会 委員 2015 年 8 月～2019 年 3 月

西宮市 社会教育委員会協議 委員 2016 年 2 月～

尼崎市 総合計画審議会 委員 2017 年 2 月～

仙台市 社会教育委員の会議 委員 2017 年 11 月～

高知大学 希望創発センター 客員准教授 2018 年 4 月～

縣 拓充 (助教)

〔専門分野〕

教育心理学

教科教育学

教育学

認知科学

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 「『レポート指南書入門』ゼミ」の開発と実施

学習支援センター (SLA サポート) の運営、研修等の実施

(教科書・教材の開発) 「統計学の基礎と批判的思考をじっくりと学ぶゼミ」の開発と実施

学びの転換セミナー「インプロ(即興演劇)で学ぶ コミュニケーションスキルと発想力を磨くワークショップ」の企画・開催

〔論文〕

(共著) 「レポートライティングにおける「問いを立てること」の支援方法の検討」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 5 巻 121-133 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「鑑賞教育の効果を見直す：レクチャーと対話型鑑賞の比較」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：日本教育心理学会 第60回総会 2018年9月

頼 羿廷（助教）

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ゼミ/国際共修ゼミ「現代社会の教育問題を考える」 前期

〔会議の発表・講演〕

「教員評価のあり方を考えるー日本の教員評価制度を通してー」 口頭（一般）：台湾教育社会学会 2018年5月

「2014年地公法改正後の教員評価制度の動向ー各教育委員会による人事管理への適用を焦点にー」 口頭（一般）：東北教育学会 2019年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 研究活動スタート支援 目標管理手法による教職員人事評価制度の実態調査研究ー資質向上と人事処遇との関係性 2017年9月～2019年12月 代表者

〔プロジェクト活動〕

全学教育に対する学習支援教材開発と授業時間外学習機会の整備

〔学会活動および外部機関における活動〕

国家教育研究院/跨國教育制度分析研究室(台湾) 委員 2018年1月～

猪股 歳之（准教授）

〔専門分野〕

教育社会学

高等教育論

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 3セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインC 2セメスタ

全学教育 【展開ゼミ】東北の「みらい」を拓く新聞論 2セメスタ

全学教育 【展開ゼミ】新聞から見た現代社会 2セメスタ

他大学 教育社会学 通年

他大学 教育・社会統計演習 前期

他大学 フィールド・ワーク論 前期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（学友会・同好会等の指導）東北大学学友会準加盟団体弓道サークル zansin 顧問

〔論文〕

（共著）「就職における困難さの研究ー外国人留学生の日本での就職活動に着目してー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5号 79-92 2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「大学のキャリア教育と雇用との関係ー就業形態の推移に着目してー」 口頭（一般）：日本教育社会学会第70回大会 2018年9月

「地方都市における杜氏組合の現状と課題ー産業・雇用環境の変化と各地の取り組みを事例にー」 口頭（一般）：日本都市学会第65回大会 2018年10月

「大学生における就職活動の活発さに関する要因の検討」 ポスター（一般）：東北心理学会第72回大会 2018年11月

「大学卒業者の就職先満足度とキャリア支援ー大学が提供するキャリア支援に対する有効性認識に着目してー」 ポスター（一般）：日本キャリア教育学会第40回大会 2018年12月

〔総説・解説記事〕

（共著）「平成29年度 東北大学キャリア支援センター年報」 2018年7月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 伝統的技能職者の技術継承における現代的課題：学校教育・行政・同業者団体に着目して 2015年4月～2019年3月 分担者

基盤研究(C) 大学教育のグローバル化と潜在的キャリア教育に関する研究 2015年4月～ 分担者

基盤研究(C) 地域・社会連携を通じた高等教育の多様なイノベーションとその成立要因に関する研究 2016年4月～ 分担者

基盤研究(C) 大学におけるキャリア教育等が卒業後の就業に与える影響に関するコホート研究 2016年4月～ 分担者

基盤研究(C) 高等教育における地域人材養成プログラムの現状と発展可能性に関する研究 2016年4月～ 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 高度教養教育開発推進経費）学部後期課程および博士前期課程におけるキャリア教育科目の開発 2016年7月～2019年3月

〔学内活動〕

全学委員会 キャリア支援連絡会議委員 2016年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 キャリア支援センター副センター長 2016年4月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長 2014年4月～

その他の主要活動 研究推進部 特別研究員アドバイザー 2018年11月～2018年12月

〔学内教職員支援〕

東北大学進学説明会・相談会（札幌）においてキャリア支援センターの取り組みについて紹介

教育学研究科 FD 講師

教育学部同窓会主催キャリア支援セミナー講師

文学研究科卒業・進学・就職を控えた皆さんへの生活ガイダンス講師

多元物質科学研究所主催キャリア支援交流会講師

〔プロジェクト活動〕

留学生就職促進プログラム「東北イノベーション人材育成プログラム（DATEntre）」

〔教育相談（キャリア支援センター）〕

のべ相談人数 298 名、のべ相談回数 298 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

放送大学宮城学習センター 客員准教授 2015年4月～2019年3月

宮崎大学 平成 30 年度第 1 回 FD/SD 研修会「学習環境の改善に向けたデータ活用」講師 2018年9月～2018年9月

〔兼務、兼業など〕

学外 東北福祉大学 兼任講師 2003年4月～

学内 宮城学院女子大学 非常勤講師 2004年4月～

高橋 修（准教授）

〔専門分野〕

経営学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 ライフ・キャリアデザインA 1セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインB 2セメスタ

全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 3セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3セメスタ

学部教育 キャリア・ポートフォリオ 通年

学部教育 キャリアデザイン講座（文学部）後期

大学院教育 Global Company Research（経済学研究科）後期

〔論文〕

（単著）「職場環境改善とその効果に関する考察—文献レビューを通して—」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 巻 27-40 2019 年 3 月

（共著）「就職における困難さの研究—外国人留学生の日本での就職活動に着目して—」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 巻 72-92 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「ストレスチェックを活用した職場環境の改善」 口頭（招待・特別）：港湾労災防止協会 平成 30 年度東北地区労働安全衛生セミナー 2018 年 7 月

「職場環境改善とその効果 — I T 企業における実証研究を通して—」 口頭（一般）：人材育成学会第 16 回年次大会 2018 年 12 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「リーダーシップ@ケース解説 No.1284「インターンシップの失敗」」 『LDノート』 28-29 2019 年 1 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 職場環境改善の効果と改善活動継続の規定因に関する研究 2016年4月～2019年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員 2015年4月～

全学委員会 学務審議会卒業生・雇用者調査ワーキンググループ委員 2017年10月～2019年3月

部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～

〔教育相談（キャリア支援センター）〕

のべ相談人数 558 名

〔学会活動および外部機関における活動〕

大阪商工会議所 メンタルヘルス・マネジメント検定試験 テキスト編集委員会委員 2005 年 7 月～

キャリア・コンサルティング協議会 キャリア・コンサルティング技能検定委員 2012 年 5 月～

人材育成学会 常任理事 2014 年 4 月～

日本産業ストレス学会 学会誌編集委員 2015 年 4 月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議運営）人材育成学会第 16 回年次大会 2018 年 12 月 9 日

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学経済学部 非常勤講師 2016 年 10 月～2019 年 3 月

学外 宮城学院女子大学学芸学部 非常勤講師 2017 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅰ種受験対策講座講師

メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅱ種受験対策講座講師

門間 由記子（特任准教授）

〔論文〕

（共著）「就職における困難さの研究 ―外国人留学生の日本での就職活動に着目して―」『東北大学高度教養教育学生支援機構紀要第 5 号』2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

口頭（一般）：仙台産業振興事業団 外国人材勉強会 2018 年 7 月

口頭（一般）：東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 2018 年 8 月

口頭（一般）：第 2 回学生生活審議会 F D 2018 年 10 月

口頭（一般）：人材育成学会年次大会第 16 回 2018 年 12 月

口頭（一般）：留学生教育学会 研究会 2019 年 3 月

〔教育相談（キャリア支援センター）〕

のべ相談人数 47 名、のべ相談回数 47 回

〔学外の社会活動〕

情報サービス産業協会

仙台産業振興事業団

池田 忠義（教授）

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

大学院教育 投影法特論Ⅰ MC 1 年 1 学期

大学院教育 投影法特論Ⅱ MC 1 年 2 学期

〔その他教育上に関する活動〕

新入生特別セミナーにおいて「安全・安心なキャンパスライフ」に関する講演

環境科学研究科新入生オリエンテーションにて講話及び学生相談所の利用案内

工学部マテリアル・開発系新入生オリエンテーションにて講話及び学生相談所の利用案内

〔論文〕

（共著）「学生相談における中堅カウンセラーの「つまずき」のプロセスに関する一考察」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5 号 179-188 2019 年 3 月

（共著）「東北大学特別支援室を利用する学生の特徴 ―来談時期・来談経路・高校までの支援有無等の分析―」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』5 号 341-346 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「学生相談機関における研修に関する実態調査」口頭（一般）：日本学生相談学会第 36 回大会 2018 年 5 月

「心理面接における「つまずき」のプロセスに関する一考察」口頭（一般）：日本ヒューマンケア心理学会 2018 年 6 月

「障害学生支援における支援初期段階の特徴の分析―東北大学の 4 年間の取り組み―」口頭（一般）：全国高等教育障害学生支援協議会第 4 回大会 2018 年 6 月

〔共同研究活動〕

東日本大震災後の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究 研究相手先: 神戸大学, 和歌山大学, 奈良女子大学 国内 2012 年 4 月～

〔その他研究活動〕

平成 30 年度新入生意識調査

平成 30 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

基盤研究(C) IT 技術を活用した大学における学生相談活動の新しい自己評価アセスメント法の開発 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会委員 2015 年 4 月～

全学委員会 学生相談・特別支援連絡会議委員 2015 年 4 月～

全学委員会 障害者差別解消推進委員会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 学務審議会委員 2017 年 4 月～

全学委員会 ボランティア活動支援運営委員会委員 2018 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2015 年 4 月～

その他の主要活動 学生相談・特別支援センター副センター長 2014 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

通信科学研究所 FD において「学生支援」に関する講演（講師）

学生支援審議会 FD(1) (FD／SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(2) (FD／SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(3) (FD／SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(4) (FD／SD の企画・運営)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 97 名、のべ相談回数 594 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 54 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本学生相談学会 理事（資格認定委員会） 2016 年 5 月～

第 56 回全国学生相談研修会 分科会講師 2018 年 12 月～2018 年 12 月

吉武 清實（特任教授）

〔専門分野〕

学生相談

コミュニティ心理学

〔その他教育上に関する活動〕

法・工・文・農・国際文化・生命科学・留学生センターその他の部局へ出向いて、新入生オリエンテーションでの利用案内と入学期の学生生活に関するガイダンス的講話

生命科学研究科学生支援担当教員による新入生向けワークショップへの協力と参加

学生寮ユニバーシティハウス三条アドバイザーミーティング説明会への関与（寮における問題について寮学生および学生支援課と学生相談所との円滑な連携をめざして継続参加へ）

〔共同研究活動〕

大学生の学生相談充実における「発展段階モデル」の臨床心理学的研究 研究相手先: 九州大学健康科学センターほか 国内 2009 年 4 月～

〔その他研究活動〕

（書評）大学におけるハラスメント防止体制に関する調査研究

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員 2016 年 7 月～

〔学内教職員支援〕

工学系研究科等新規採用等教職員研修 講演「大学人としてのハラスメント」（講師）

東北大学新任教員研修 講演「教育者としての倫理とハラスメント」（講師）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本学生相談学会 理事 2013 年 6 月～

日本学生相談学会 理事 2014 年 10 月～

全国学生相談研修会 分科会 C コース 講師 2015 年 11 月～

日本学生相談学会 理事 2016 年 5 月～

〔兼務、兼業など〕

学外 広島大学 非常勤講師 2014 年 5 月～

〔学外の社会活動〕

仙台学生相談事例研究会

スーパーヴィジョン①②

中島 正雄 (准教授)

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 相談心理学Ⅱ 後期集中

全学教育 学生生活概論 前期前半

大学院教育 心理療法特論 MC 1 年 1 学期

大学院教育 臨床心理学特論 MC 1 年 2 学期

他大学 学校臨床心理学・地域援助特論(TV) (2015 年度～2019 年度)

〔その他教育上に関する活動〕

工学研究科新入生オリエンテーションにて講話及び学生相談所の利用案内

工学部 2 年生ガイダンスにて講話及び学生相談所の利用案内

環境科学研究科新入生オリエンテーションにて講話及び学生相談所の利用案内

生命科学研究科親入生オリエンテーションにて講話及び学生相談所の利用案内

〔著書〕

第 10 章 124 項『生涯発達心理学』ナカニシヤ出版 2019 年 3 月

〔その他研究活動〕

平成 30 年度新入生意識調査

平成 30 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔会議の発表・講演〕

「学生相談機関における職場内スーパービジョンの実践」 口頭 (一般) : 日本学生相談学会第 36 回大会 2018 年 5 月

「学生相談機関における研修に関する実態調査」 口頭 (一般) : 日本学生相談学会第 36 回大会 2018 年 5 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 学生相談カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 出版・図書・資料委員会 2016 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験 FD において「配慮を要する学生への対応」に関する講演 (講師)

環境科学研究科 FD においてメンタルヘルスに関する講演 (講師)

医学部・医学系研究科においてハラスメント予防講習会 (講師)

学生支援審議会 FD(1) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(2) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(3) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(4) (FD/SD の企画・運営)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務 : 66 名、のべ相談回数 711 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務 : のべ対応回数 9 回

〔兼務、兼業など〕

学外 放送大学 客員准教授 2018 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

成蹊学園成蹊中学校における「友達作り・仲間作り」に関する講演 講師

小島 奈々恵 (講師)

〔専門分野〕

社会臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 異文化理解【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 前期

全学教育 国際教養【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 後期

大学院教育 コミュニティ心理学特論 MC 1 年 1 学期

大学院教育 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） MC 1 年 2 学期

〔その他教育上に関する活動〕

新入学留学生オリエンテーション 4 月入学生対象

文学研究科新入生オリエンテーション

工学研究科（化学・バイオ系）新入生オリエンテーション

生命科学研究科新入生オリエンテーション

工学研究科（マテリアル・開発系）新入生オリエンテーション

危機管理オリエンテーション（日本人留学生対象） 7 月

新入学留学生オリエンテーション 10 月入学生対象

文学部「卒業・進学・就職を控えた皆さんへの生活ガイダンス」

危機管理オリエンテーション（日本人留学生対象） 12 月

理学研究科留学生イベント「Anti-winter remedies for your body and soul（薬のこと、病院のこと、メンタルヘルスのこと）」

AA 研修会（留学生ヘルプデスク研修：基本的対応について）

〔論文〕

（共著）「海外勤務者の母国とホスト国に対する態度変容とその影響要因」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 号 165-177 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「学生相談機関における研修に関する実態調査」 口頭（一般）：日本学生相談学会第 36 回大会 2018 年 5 月

「Development of Suicide Prevention Psycho-educational Program for University Students」 ポスター（一般）：International Congress of Applied Psychology 2018 年 6 月

「Features of Interpersonal Relationship Related Problems of University Students in Japan」 ポスター（一般）：International Congress of Applied Psychology 2018 年 6 月

「Traumatic Stress among University Students in Japan」 ポスター（一般）：International Congress of Applied Psychology 2018 年 6 月

「Difficulties of Supporting International Students with Disabilities in Japan」 ポスター（一般）：International Congress of Applied Psychology 2018 年 6 月

「Influence of children's time management on motivation to study after the long vacation」 ポスター（一般）：International School Psychology Association 2018 年 7 月

「Relationships between children's humor with psychological health and well-being」 ポスター（一般）：International School Psychology Association 2018 年 7 月

「Effects of children's humor on school adaptation in Japan」 ポスター（一般）：International School Psychology Association 2018 年 7 月

〔その他研究活動〕

平成 30 年度新入生意識調査

平成 30 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 学生の苦境を生き抜く力を涵養する心理教育プログラムの開発 2016 年 4 月～2019 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 学生相談カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

〔学内教職員支援〕

学生支援審議会 FD(1) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(2) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(3) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(4) (FD/SD の企画・運営)

留学生相談通訳支援 FD (FD/SD の企画・運営)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 101 名、のべ相談回数 1120 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 44 回

〔学外の社会活動〕

北陸先端科学技術大学院大学平成 30 年度メンタルヘルス研修会（特別講演） 講師

中岡 千幸 (講師)

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論—学生が会う大学生活の危機と予防— 前期前半

他大学 会津大学短期大学部「コミュニケーション学」

〔その他教育上に関する活動〕

建築・社会環境工学科「学科ガイダンス」

機械知能系大学院新入生オリエンテーション

新入学留学生オリエンテーション 4月入学生対象

工学系等新規採用等教職員研修

土木・建築専攻共同オリエンテーション

文学部新入生オリエンテーション

機械・知能系学部新入生オリエンテーション

機械系女子学生新入生歓迎会

工学部 FD

工学研究科等新規採用等教職員合同研修内 FD

新入学留学生オリエンテーション 10月入学生対象

文学部「卒業・進学・就職を控えた皆さんへの生活ガイダンス」

基礎ゼミ展開ゼミ FD

〔その他研究活動〕

平成 30 年度新入生意識調査

平成 30 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 教職員向け休・復学者支援マニュアル作成のための研究 2016 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 電子ジャーナル編集委員会委員 2017 年 1 月～

その他の主要活動 工学部学生支援室連絡会議 2017 年 2 月～2019 年 3 月

〔学内教職員支援〕

学生支援審議会 FD(1) (FD／SDの企画・運営)

学生支援審議会 FD(2) (FD／SDの企画・運営)

学生支援審議会 FD(3) (FD／SDの企画・運営)

学生支援審議会 FD(4) (FD／SDの企画・運営)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 118 名、のべ相談回数 600 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 10 回

〔学外の社会活動〕

第 74 回みやぎ学生相談連絡協議会の開催

第 75 回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

佐藤 静香 (助手)

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

〔その他教育上に関する活動〕

工学研究科電子情報システム・応物系新入生オリエンテーション

工学部機械・知能系新入生オリエンテーション

工学研究科化学・バイオ系新入生オリエンテーション

教育学研究科新入生対象 ハラスメント防止講習会

工学研究科人間・環境系新入生オリエンテーション

工学部マテリアル・開発系メンタルヘルス講演

教育学部 2 年生対象 ハラスメント防止講習会

文学部・文学研究科 卒業・進学・就職を控えた皆さんへの生活ガイダンス

〔その他研究活動〕

平成 30 年度新入生意識調査

平成 30 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔学内活動〕

全学委員会 男女共同参画委員会委員 2011 年 4 月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2014 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

学生支援審議会 FD(1) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(2) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(3) (FD/SD の企画・運営)

学生支援審議会 FD(4) (FD/SD の企画・運営)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 136 名、のべ相談回数 783 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 31 回

〔学外の社会活動〕

第 74 回みやぎ学生相談連絡協議会の開催

第 75 回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

松川 春樹 (助教)

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

〔その他教育上に関する活動〕

文学部 2 年生対象オリエンテーション

医工学研究科新入生オリエンテーション

工学部 (マテリアル・開発系) 新入生オリエンテーション

工学研究科 (マテリアル・開発系) 新入生オリエンテーション

工学研究科 (人間環境系) 新入生オリエンテーション

医学部保健学科 学生対象ハラスメント講演

〔論文〕

(共著) 「学生相談における中堅カウンセラーの「つまずき」のプロセスに関する一考察」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 巻 179-188 2019 年 3 月

(共著) 「東北大学特別支援室を利用する学生の特徴—来談時期・来談経路・高校までの支援有無等の分析—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5 巻 341-345 2019 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「心理面接における「つまずき」のプロセスに関する一考察—中堅カウンセラーを対象としたパイロット・スタディー—」 ポスター (一般)：日本健康心理学会第 31 回大会／日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 20 回大会合同大会 2018 年 6 月

「障害学生支援における支援初期段階の特徴の分析—東北大学の 4 年間の取り組み—」 ポスター (一般)：全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEAD JAPAN) 第 4 回大会 2018 年 6 月

「臨床事例における「つまずき」について考える(9)—クライアントと他職種の関係性が面接に及ぼす影響—」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募)：日本心理臨床学会第 37 回大会 2018 年 8 月

〔その他研究活動〕

平成 30 年度新入生意識調査

平成 30 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔学内教職員支援〕

学生生活支援審議会 FD(1) (FD/SD の企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(2) (FD/SD の企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(3) (FD/SD の企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(4) (FD/SD の企画・運営)

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 123 名、のべ相談回数 938 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 53 回

長友 周悟（講師）

〔専門分野〕

障害学生支援

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 全学教育「学生生活概論」 前期前半

全学教育 障害者支援入門 前期

全学教育 教職科目「相談心理学Ⅱ」 後期

〔その他教育上に関する活動〕

工学部機械・知能系新入生オリエンテーション

〔論文〕

（共著）「東北大学特別支援室を利用する学生の特徴—来談時期・来談経路・高校までの支援有無等の分析—」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 第 5 号 341-346 2019 年 3 月

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験 FD において「配慮を要する学生への対応」に関する講演（講師）

平成 30 年度第 1 回学生生活支援審議会 FD「本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について」（FD／SD の企画・運営）

平成 30 年度第 2 回学生生活支援審議会 FD「学生支援の今日的諸課題」（FD／SD の企画・運営）

平成 30 年度第 3 回学生生活支援審議会 FD「大学生の自殺関連問題とその予防」（FD／SD の企画・運営）

平成 30 年度第 4 回学生生活支援審議会 FD「修学上の合理的配慮の提供について」（FD／SD の企画・運営）

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数 62 名、のべ相談回数 825 回

〔行政機関・企業・NPO 等参加〕

NPO 法人ソイブラム 理事 2018 年 4 月～2019 年 3 月

社会福祉法人あおぞら 評議員 2018 年 4 月～2019 年 3 月

社会福祉法人仙台みんなの輪 評議員 2018 年 4 月～2019 年 3 月

榎原 佐和子（特任講師）

〔専門分野〕

障害学生支援、コミュニティ心理学、臨床心理学、産業組織心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 障害者支援入門 1 セメスタ

大学院教育 産業心理学特論 後期

〔その他教育上に関する活動〕

工学部マテリアル・開発系メンタルヘルス講演

〔論文〕

Sawako Sakakibara, Mitsuhiro Sado, Akira Ninomiya, Mayuko Arai, Satoko Takahashi, Chika Ishihara, Yuki Miura, Hajime Tabuchi, Joichiro Shirahase and Masaru Mimura (2019) Predictive factors of the duration of sick leave due to mental disorders, *International Journal of Mental Health Systems*, 13:19

（共著）「東北大学特別支援室を利用する学生の特徴—来談時期・来談経路・高校までの支援の有無の分析—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要』 5 号 341-345 2019 年 3 月

〔著書〕

2-20 DV 被害者に対する個人・組織・コミュニティ次元での「エンパワメント」—予防・危機介入・後方的 EMP という円環的 EMP を絡めて— 『ワードマップ コミュニティ心理学』 2019 年 2 月

〔会議の発表・講演〕

「コミュニティ心理学におけるコンサルテーション：コンサルタントが葛藤を感じるケースで考える」日本コミュニティ心理学会第 20 回大会 自主シンポジウム 2018 年 6 月

「障害学生支援における支援初期段階の特徴の分析—東北大学の 4 年間の取り組み—」全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）第 4 回大会 ポスター発表 2018 年 6 月

「本学における聴覚障害学生支援の資源利用に関する報告」日本聴覚障害学生高等教育支援第 14 回シンポジウム教職員実践発表 2018 年 10 月

「自殺・自殺未遂者への対応場面における救急隊員に必要とされる技能の探索-Consensual qualitative research 法を用いた質的研究」日本社会
精神医学会第38回大会 口頭発表 2019年2月

〔学内教職員支援〕

自然科学総合実験FDにおいて「配慮を要する学生への対応」に関する講演（講師）

第1回学生支援審議会FD「本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について」（FD／SDの企画・運営）

第2回学生支援審議会FD「学生支援の今日的課題について」（FD／SDの企画・運営）

第3回学生支援審議会FD「大学生の自殺防止関連問題とその予防」（FD／SDの企画・運営）

第4回学生支援審議会FD「修学上の合理的配慮の提供について」（FD／SDの企画・運営）

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数59名、のべ相談回数465回

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本コミュニティ心理学会 理事、常任理事/倫理委員会委員長、編集委員会副編集委員長 2015年4月～

日本コミュニティ心理学会 理事、常任理事/倫理委員会委員長、編集委員会副編集委員長 2018年4月～2019年3月

高橋 真理（助手）

〔専門分野〕

障害学生支援

聴覚障害児・者教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 障害者支援入門 1セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

国際文化研究科新入生オリエンテーション

文学部新入生オリエンテーション

〔論文〕

（共著）「東北大学特別支援室を利用する学生の特徴—来談時期・来談経路・高校までの支援有無等の分析—」『東北大学 高度教養教育・学生支
援機構 紀要』2019年3月

〔会議の発表・講演〕

「障害学生支援における支援初期段階の特徴の分析—東北大学の4年間の取り組み—」ポスター（一般）：一般社団法人 全国高等教育障害学生
支援協議会第4回大会 2018年6月

「本学における聴覚障害学生支援の資源利用に関する報告」ポスター（一般）：日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 2018年10月

〔学内教職員支援〕

第1回学生支援審議会FD「本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について」（FD／SDの企画・運営）

第2回学生支援審議会FD「学生支援の今日的諸課題について」（FD／SDの企画・運営）

第3回学生支援審議会FD「大学生の自殺防止関連問題とその予防」（FD／SDの企画・運営）

第4回学生支援審議会FD「修学上の合理的配慮の提供について」（FD／SDの企画・運営）

〔教育相談〕

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数50名、のべ相談回数697回

木内 喜孝（教授）

〔専門分野〕

消化器内科学

ヒト遺伝学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 体と健康ⅠⅡ 2セメスタ

学部教育 消化器ブロック 1セメスタ

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（副査1名）、修士3名（副査3名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生（博士課程医・歯学履修課程） 口頭発表件数:6件 論文発表件数:5件 学会発表件数:6件

〔論文〕

（共著）「"Pharmacogenetics of thiopurines for inflammatory bowel disease in East Asia: prospects for clinical application of NUDT15
genotyping."」『J Gastroenterol.』 53巻2号 172-180 2018年

- (共著) 「"Coverage of ulcerative colitis in the newspaper."」 『"Bulletin of the institute for excellence in higher education Tohoku University."』
4 巻 315-322 2018 年
- (共著) 「"Clinical and genetic risk factors for decreased bone mineral density in Japanese patients with inflammatory bowel disease."」 『"J Gastroenterol Hepatol."』 2018 年 4 月
- (共著) 「"Long-term course of inflammatory bowel disease after the Great East Japan Earthquake."」 『"J Gastroenterol Hepatol."』 2018 年 5 月
- (共著) 「"MENDEL study group. NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study."」 『"J Gastroenterol."』 2018 年 6 月
- (共著) 「"Postoperative therapy with infliximab for Crohn's disease: a 2-year prospective randomized multicenter study in Japan.; Surgical Research Group, the Research Committee of Inflammatory Bowel Disease, the Ministry of Health, Welfare and Labor of Japan."」 『"Surg Today."』 48 巻 6 号 584-590 2018 年 6 月
- (共著) 「"NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study."」 『"Journal of gastroenterology"』 53 巻 9 号 1065-1078 2018 年 9 月
- (共著) 「"A genome-wide association study identifying RAP1A as a novel susceptibility gene for Crohn's disease in Japanese individuals."」 『"Journal of Crohn's & colitis"』 2018 年 11 月
- (共著) 「"Long-term prognosis of Japanese patients with biologic-naive Crohn's disease treated with anti-tumor necrosis factor- α antibodies."」 『"Intestinal research"』 17 巻 1 号 94-106 2019 年 1 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

- 基盤研究(C) 日本人の遺伝背景を考慮した免疫細胞 eQTL による炎症性腸疾患関連遺伝子の機能解析 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者
- 基盤研究(C) メディア上にみられるクローン病に関する医療情報の質の評価 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

- (その他補助金 AMED ゲノム医療実用化推進研究事業) チオプリン不耐例を判別する NUDT15 R139C 遺伝子多型検査キットの開発を軸とした炎症性腸疾患におけるゲノム医療実用化フレームワークの確立 2016 年 10 月～2019 年 3 月

〔学内活動〕

- 全学委員会 学務審議会委員 2012 年 4 月～
- 全学委員会 入試実施委員会 2012 年 4 月～
- 全学委員会 環境・安全委員会委員 2012 年 4 月～
- 全学委員会 東北大学出版会評議員 2012 年 4 月～
- 全学委員会 特別健康管理専門部会委員長 2012 年 7 月～
- 全学委員会 災害対策推進室推進室会議 2013 年 7 月～
- 全学委員会 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員 2014 年 4 月～
- 全学委員会 学生生活支援審議会 2015 年 4 月～
- 全学委員会 人を対象とする医学系研究実施委員会委員 2015 年 6 月～
- 部局内委員会 情報科学大学院倫理審査委員 2012 年 4 月～
- 部局内委員会 ハラスメント相談窓口 2012 年 5 月～
- 部局内委員会 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口 2012 年 5 月～
- 部局内委員会 研究倫理委員会委員長 2014 年 4 月～
- 部局内委員会 機構研究倫理教育責任者 2015 年 3 月～
- 部局内委員会 機構研究倫理推進責任者 2015 年 4 月～
- 部局内委員会 ハラスメント防止対策委員長 2015 年 10 月～
- その他の主要活動 保健管理センター外来業務 2011 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

- 日本消化器内視鏡学会東北支部 評議員 1998 年 7 月～
- 日本消化器病学会 評議員 2000 年 10 月～
- 日本内科学会東北支部 評議員 2005 年 2 月～
- 日本消化器がん検診学会 地方評議員 2012 年 8 月～
- 全国大学保健管理協会 評議員 2013 年 5 月～
- 東北学校保健学会 世話人 2013 年 8 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

- 〔日本国内〕 宮城県対がん協会 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員 委員長 2002 年 4 月～
- 〔日本国内〕 宮城県 宮城県生活習慣病検診管理指導協議会大腸がん部会 委員 2003 年 4 月～
- 〔日本国内〕 宮城県社会保険診療報酬支払基金 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員 2004 年 4 月～
- 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業一難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友 2009 年 4 月～

伊藤 千裕 (教授)

〔専門分野〕

精神神経科学

神経化学・神経薬理学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育〔講義〕障害者支援入門 1セメスタ

全学教育〔講義〕学生と健康 2セメスタ

学部教育〔講義〕医・精神・心理・行動ブロック 7セメスタ

〔論文〕

〔共著〕「近年における大学での大麻関連事例 最近 5 年間の新聞報道より」 『全国大学保健管理研究集会プログラム・抄録集』 56 回巻 92-92
2018 年 9 月

〔会議の発表・講演〕

「入学試験時における感染症罹患受験生の対応について」 口頭 (一般) : 第 56 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会 2018 年 7 月

「近年における大学での大麻関連事例ー最近 5 年間の新聞報道よりー」 ポスター (一般) : 第 56 回全国大学保健管理研究集会 2018 年 10 月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

〔その他寄附金〕メンタルヘルス研究助成金 2014 年 6 月～

〔学内活動〕

部局内委員会 病院ハラスメント相談窓口 2005 年 10 月～2019 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構保健管理センター副センター長 2016 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構学生支援開発部門長 2018 年 4 月～2019 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構自己評価委員会 (兼作業部会) 2018 年 4 月～2019 年 3 月

〔学内教職員支援〕

学生生活支援審議会教員研修 (FD) (講師)

教育関係共同利用拠点提供プログラム (健康科学セミナー) (講師)

〔教育相談 (保健管理センター)〕

のべ相談人数 532 名、のべ相談回数 532 回

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本神経精神薬理学会 評議員 2001 年 1 月～

日本臨床精神神経薬理学会 評議員 2006 年 1 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻内科病態学講座精神保健学分野 教授 2014 年 4 月～

学内 東北大学大学院情報科学研究科応用情報科学専攻健康情報学講座 教授 2014 年 4 月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

医療法人小島慈恵会 小島病院 非常勤医師 2014 年 4 月～

東北大学精神医学教室同窓会 会計監査 2016 年 4 月～2019 年 3 月

小川 晋 (准教授)

〔専門分野〕

代謝学

内分泌学

腎臓内科学

〔論文〕

〔共著〕「"Decreased Glycaemia with Renal Failure in Diabetes Betides in Relation to the Change in Renal Glutamate Metabolism."」 『Journal of Clinical & Experimental Nephrology』 3 巻 1 号 2018 年

〔共著〕「"Effects of sodium - glucose cotransporter 2 inhibitors on hypoglycaemia in brittle diabetic patients with decreased endogenous insulin secretion."」 『Endocrinol Diab Metab』 2018 年

〔共著〕「"Achieving LDL cholesterol target levels <1.81 mmol/L may provide extra cardiovascular protection in patients at high risk: Exploratory analysis of the Standard Versus Intensive Statin Therapy for Patients with Hypercholesterolaemia and Diabetic Retinopat"」 『Diabetes Obes Metab』 21 巻 4 号 2018 年

〔共著〕「"Intensive Treat-to-Target Statin Therapy in High-Risk Japanese Patients With Hypercholesterolemia and Diabetic Retinopathy: Report of a Randomized Study."」 『Diabetes Care』 41 巻 6 号 1275-1284 2018 年 6 月

〔著書〕

腎機能低下例における SGLT2 阻害薬の安全性をみる『SGLT2 阻害薬のすべて 第 2 版』先端医学社 2018 年 5 月

〔会議の発表・講演〕

「CKD 進展予防を考慮した糖尿病の降圧療法とは？」 口頭（招待・特別）：第 7 回臨床高血圧フォーラム 2018 年 5 月

「糖尿病と肥満における血中タウリン濃度の評価とその意義」 口頭（一般）：第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会 2018 年 5 月

「非糖尿病肥満と糖尿病におけるタウリン動態の変化とその意義」 ポスター（一般）：第 61 回日本腎臓学会学術総会 2018 年 6 月

「肥満男子学生における血中乳酸濃度と食塩感受性高血圧発症の関連」 ポスター（一般）：第 41 回日本高血圧学会総会 2018 年 9 月

「肥満・糖尿病における腎食塩再吸収亢進のメカニズム」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：第 41 回日本高血圧学会総会 2018 年 9 月

「2 型糖尿病における電解質水の影響」 口頭（一般）：第 56 回日本糖尿病学会東北地方会 2018 年 11 月

「糖尿病における proline、hydroxyproline」 口頭（一般）：第 30 回日本糖尿病性腎症研究会 2018 年 12 月

〔学内活動〕

全学委員会 倫理委員会委員 2015 年 4 月～

全学委員会 出版・図書・資料委員会 2016 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本肥満症治療学会 評議員 2008 年 4 月～

日本内科学会東北支部 評議員 2010 年 6 月～

日本高血圧学会 評議員 2013 年 10 月～

日本腎臓学会 評議員 2015 年 4 月～

日本内分泌学会 評議員 2016 年 4 月～

日本高血圧学会 国内交流委員会 2016 年 12 月～2018 年 9 月

高血圧学会 プログラム委員会 2017 年 1 月～

糖尿病性腎症研究会 幹事 2017 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

糖尿病・内分泌セミナー2018

第 108 回県北糖尿病談話会

糖尿病性腎症を考える会

県北地域医療糖尿病治療検討会

糖尿病治療 update

Glinide Frontier Seminar in 石巻～高齢者糖尿病の薬物療法について～

糖尿病療養支援ネットワーク研修会 in 宮城

日医生涯教育講座学術講演会 実地医家のための腎臓セミナー

第 17 回十勝腎・糖尿病カンファレンス

第 33 回泉糖尿病症例勉強会

South Nagoya DKD Total Care Seminar

第 6 回埼玉県南部 CKD セミナー

第 56 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 ランチョンセミナー

第 17 回代謝異常と CKD を考える会

腎臓における糖・アミノ酸代謝

佐藤 公雄（准教授）

〔専門分野〕

循環器内科学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

学部教育 薬理学Ⅰ 後期前半

〔学位論文指導・審査〕

博士 1 名（その他 1 名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018 年度 大学院学生（博士課程医・歯学履修課程） 口頭発表件数:21 件 論文発表件数:4 件 学会発表件数:21 件 国際会議発表件数:9 件

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会基礎研究部門 YIA: 日本肺高血圧・肺循環学会 2018 年 6 月 22 日

"American Heart Association(AHA) <Jay D. Coffman Early Career Investigator Award>（優秀賞）": American Heart Association(AHA) 2018 年 11 月 11 日

American Heart Association(AHA) 2018 3CPR Junior Investigator Travel Grant: American Heart Association(AHA) 2018 年 11 月 11 日

東北医学会奨学賞（A）：東北大学医学部 2019 年 1 月 17 日

第 83 回日本循環器学会学術集会 YIA Basic Research: 日本循環器学会 2019 年 3 月 31 日

〔その他教育上に関する活動〕

平成 30 年度 東北大学循環器内科生涯教育講座「肺高血圧症を見逃さないために」

〔論文〕

- (共著) "Selenoprotein P Promotes the Development of Pulmonary Arterial Hypertension: A Possible Novel Therapeutic Target." 『Circulation』 138 巻 6 号 600-623 2018 年 4 月
- (共著) "Recent Advances in the Development of Cardiovascular Biomarkers." 『Arteriosclerosis, thrombosis, and vascular biology』 38 巻 5 号 e61-e70 2018 年 5 月
- (共著) "SmgGDS Prevents Thoracic Aortic Aneurysm Formation and Rupture by Phenotypic Preservation of Aortic Smooth Muscle Cells." 『Circulation』 138 巻 21 号 2413-2433 2018 年 6 月
- (共著) "Different roles of myocardial ROCK1 and ROCK2 in cardiac dysfunction and postcapillary pulmonary hypertension in mice." 『Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America』 115 巻 30 号 E7129-E7138 2018 年 7 月
- (共著) "Sex differences in hemodynamic responses and long-term survival to optimal medical therapy in patients with pulmonary arterial hypertension." 『Heart and vessels』 33 巻 8 号 939-947 2018 年 8 月
- (共著) "Identification of novel therapeutic targets for pulmonary arterial hypertension." 『Int J Mol Sci.』 19 巻 12 号 4081- 2018 年 12 月
- (共著) "Sirtuin 5 promotes ischemia/reperfusion-induced blood-brain barrier damage after stroke." 『Int J Cardiol.』 284 巻 77-78 2019 年 1 月
- (共著) "Important roles of endothelial caveolin-1 in endothelium-dependent hyperpolarization and ischemic angiogenesis in mice." 『Am J Physiol Heart Circ Physiol.』 316 巻 H900-H910 2019 年 1 月
- (共著) "Response to letter regarding article "Selenoprotein P Promotes the Development of Pulmonary Arterial Hypertension: A Possible Novel Therapeutic Target."" 『Circulation』 139 巻 5 号 724-725 2019 年 1 月
- (共著) "Clinical diversity in patients with Anderson-Fabry Disease with the R301Q mutation." 『Intern Med.』 58 巻 603-607 2019 年 2 月
- (共著) "Beneficial effects of imatinib in a patient with suspected pulmonary veno-occlusive disease." 『Tohoku J Exp Med.』 247 巻 69-73 2019 年 2 月

〔会議の発表・講演〕

- 「第 71 回 日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会シンポジウム: NO と酸化ストレスのバランスが制御する心血管系の恒常性破綻機構」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 第 71 回 日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会 2018 年 5 月
- 「新規病因蛋白セレノプロテイン P による肺高血圧症促進機構」 ポスター (一般): 第 71 回 日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会 2018 年 5 月
- 「第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会イブニングセミナー: 新たな PAH 治療薬の標的を探る～基礎研究の知見を臨床へ活かす道筋～」 その他: 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会シンポジウム「急性肺血栓塞栓症は CTEPH へ進展するのか～CTEPH の病因に迫る～」: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症の新規病因蛋白 TAFI に着目したコンパニオン診断薬開発」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「エポプロステノール・トレプロステニール皮下注への移行症例経験」 口頭 (一般): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「生体肺移植を行った小児期発症の肺動脈性肺高血圧症の 1 例」 口頭 (一般): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「Discovery of Emetine as a Novel Therapeutic Agent for PAH」 口頭 (一般): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「運動負荷右心カテーテルによる BPA の効果判定」 口頭 (一般): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「肺高血圧症に対する β 遮断薬の予後改善効果の差異」 口頭 (一般): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「悪性腫瘍合併肺塞栓症の治療—FMC の有用性」 口頭 (一般): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 YIA セッション:スクリーニングによる新規肺高血圧症治療薬 Celastramycin の発見 (優秀賞受賞)」 口頭 (招待・特別): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会シンポジウム:スクリーニングによる新規肺高血圧症治療薬 Celastramycin の発見」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会シンポジウム:新規病因蛋白セレノプロテイン P による肺高血圧症促進機構」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2018 年 6 月
- 「2018 Severance International Cardio-Cerebrovascular Research Symposium (5th SCRC)招待講演: Shrinking basic cardiovascular research in Japan: A tip of the iceberg」 口頭 (招待・特別): "2018 Severance International Cardio-Cerebrovascular Research Symposium (5th SCRC) (2018 年 6 月 28 日, Souel) " 2018 年 6 月
- 「Prognostic Impacts of Soluble Form of Basigin in Patients with Chronic Heart Failure-From a Prospective Large Clinical Trial with 1,147 Patients-<Rapid Fire Session>」 口頭 (招待・特別): "European Society Congress (ESC) Congress 2018 (2018 年 8 月 25～8 月 29 日, Munich, Germany)" 2018 年 8 月

- 「Hepatitis C virus positivity adversely affects systemic ventricular function and long-term prognosis in patients with adult congenital heart disease.」 ポスター（一般）："European Society Congress (ESC) Congress 2018 (2018年8月25～8月29日, Munich, Germany)" 2018年8月
- 「運動負荷右心カテーテルによるBPAの効果判定」 口頭（一般）：第59回日本脈管学会総会 2018年10月
- 「第59回日本脈管学会総会シンポジウム：慢性血栓性肺高血圧症？診断・治療・研究の最前線？：慢性血栓性肺高血圧症の新規病因蛋白TAFIに着目した早期診断と治療薬開発」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第59回日本脈管学会総会 2018年10月
- 「悪性腫瘍合併肺塞栓症の治療—FMCの有用性に関する検討」 口頭（一般）：第59回日本脈管学会総会 2018年10月
- 「SmgGDS prevents thoracic aortic aneurysm formation and rupture by phenotypic preservation of aortic smooth muscle cells<Jay D. Coffman Early Career Competition> (YIA優秀賞受賞)」 口頭（招待・特別）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「Prognostic impacts of soluble basigin in patients with chronic heart failure -the novel aspect of the multifunctional inflammatory protein」 口頭（一般）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「Identification of celastrol as a novel therapeutic agent for pulmonary arterial hypertension -high-throughput screening of 5,562 compounds」 口頭（一般）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「Identification of emetine as a novel therapeutic agent for pulmonary hypertension in rats -high-throughput screening of 5,562 compounds (2018 3CPR Junior Investigator Travel Grant 受賞)」 口頭（一般）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「Beneficial effects of riociguat on hemodynamic responses to exercise in CTEPH patients after balloon pulmonary angioplasty」 ポスター（一般）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「Prognostic impacts of serum levels of selenoprotein P in patients with pulmonary arterial hypertension」 ポスター（一般）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「Prognostic value of model for end-stage liver disease excluding INR (MELD-XI) score in patients with adult congenital heart disease」 ポスター（一般）："American Heart Association (AHA) Scientific Sessions (2018年11月10～12日, Chicago, Illinois, USA)" 2018年11月
- 「第48回日本心臓血管作動物質学会シンポジウム：大動脈瘤の新たな標的を探る～基礎研究の知見を臨床へ活かす道筋～胸部大動脈瘤の病因タンパク SmgGDSの発見と内科的治療法開発の可能性」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第48回日本心臓血管作動物質学会 2019年2月
- 「セレノプロテインPを用いた肺動脈性肺高血圧症の診断と予後評価法の開発」 口頭（一般）：第48回日本心臓血管作動物質学会 2019年2月
- 「第25回日本小児肺循環研究会学術集会・特別講演：肺高血圧症の新たな病因蛋白スクリーニングとアカデミア創薬」 口頭（招待・特別）：第25回日本小児肺循環研究会学術集会 2019年2月
- 「Acute Pulmonary Vasoreactivity Test with Inhaled NO Predicts the Efficacy of Pulmonary Vasodilators and Balloon Pulmonary Angioplasty in CTEPH Patients」 ポスター（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「Quality of Life in Adult Patients with A Fontan Circulation -A Nationwide Study Supported by AMED-」 ポスター（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「Important Roles of Endothelial Caveolin-1 in Endothelium-dependent Hyperpolarization and Ischemic Angiogenesis in Mice」 ポスター（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「MELD-XI (Model for End-Stage Liver Disease Excluding INR) Score Predicts Cardiovascular Outcomes in Patients with Adult Congenital Heart Disease」 口頭（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「Additive Beneficial Effects of Riociguat on Hemodynamic Responses to Exercise in CTEPH Patients after Hemodynamic Improvement by Balloon Pulmonary Angioplasty」 口頭（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「Identification of Emetine as a Novel Therapeutic Agent for Pulmonary Hypertension in Rats -A Successful Drug Repositioning-」 口頭（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「Diagnostic and Prognostic Significance of Serum Levels of Selenoprotein P in Patients with Pulmonary Arterial Hypertension」 口頭（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「<Late Breaking Cohort Studies> Factors Influencing Health-related Quality of Life in Patients with Adult Congenital Heart Disease -A Nationwide Study Supported by AMED-」 口頭（招待・特別）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「第83回日本循環器学会学術集会 Young Investigator's Award Finalists Lectures : Identification of Celastrol as a Novel Therapeutic Agent for Pulmonary Arterial Hypertension -High-throughput Screening of 5,562 Compounds- (最優秀賞受賞)」 口頭（招待・特別）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「第83回日本循環器学会学術集会シンポジウム：Usefulness of Regional Wall Thickening Pattern for Differential Diagnosis of Cardiac Diseases with LV Hypertrophy -A Novel Deep-learning-based CMR System-」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月
- 「第83回日本循環器学会学術集会シンポジウム：Identifications of Novel Molecular Mechanisms and Therapeutic Targets of Pulmonary Arterial Hypertension」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月

「第 83 回日本循環器学会学術集会プレナリーセッション：Rho-kinase and Cyclophilin A as Novel Therapeutic Targets for Cardiac Dysfunction and Post-Capillary Pulmonary Hypertension」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第 83 回日本循環器学会学術集会 2019 年 3 月

「第 83 回日本循環器学会学術集会プレナリーセッション：Frontier of Basic Cardiovascular Research: Identification of Novel Therapeutic Targets for Pulmonary Arterial Hypertension・Multidisciplinary Approaches for the Fatal Disorder」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第 83 回日本循環器学会学術集会 2019 年 3 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「特集企画 性ホルモンと血管脂質代謝：総論 動脈硬化症における性差」 『メディカルビュー社『The Lipids』』 29 巻 3 号 248-256 2018 年 7 月

（共著）「左心不全に伴う肺高血圧症発症における ROCK1 と ROCK2 の役割分担の解明」 『血管』 41 巻 4 号 2018 年 12 月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 日本医療研究開発機構（AMED） 難治性疾患実用化研究事業）致死性疾患肺高血圧症の全く新しい病因蛋白に着目した治療薬開発 2016 年 4 月～2019 年 3 月

（厚生労働科学研究費補助金）肺高血圧症の新規病因蛋白セレノプロテイン P に着目した早期診断法開発 2017 年 4 月～2020 年 3 月

〔学術関係受賞〕

"Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB)" 授与機関：アメリカ心臓協会（AHA）2018 年 11 月

Top Reviewers for Circulation Research (Platinum Reviewers) (AHA) 授与機関：アメリカ心臓協会（AHA）2018 年 11 月

〔特許〕

「サイクロフィリン A による心血管疾患の検査方法」 特許登録番号：特許第 6316200 号 特許登録日：2018 年 4 月 6 日

〔学内活動〕

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 循環グループ再来 2008 年 9 月～

その他の主要活動 保健管理センター 健康相談班長 2012 年 4 月～

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 新患外来 2018 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本 NO 学会 評議員 2010 年 6 月～

アメリカ心臓協会（AHA） "国際学術誌（Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology, ATVB）編集委員会 委員" 2013 年 5 月～

日本酸化ストレス学会 評議員 2013 年 5 月～

日本心臓血管作動物質学会 評議員 2014 年 7 月～

日本循環器学会 日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員 2015 年 4 月～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2015 年 4 月～

日本循環器学会 Circulation Journal（日本循環器学会）編集委員 2015 年 4 月～

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会（JSPS）審査委員 2015 年 4 月～

アメリカ心臓協会（AHA） 国際学術誌（Circulation Research）編集委員会 委員 2015 年 7 月～

日本肺高血圧・肺循環学会 評議員 2016 年 4 月～

日本循環器学会 Fellow of Japanese Circulation Society (FJCS 日本循環器学会特別会員) 2017 年 4 月～

日本心臓病学会 Fellow of Japanese College of Cardiology (FJCC 日本心臓病学会特別会員) 2017 年 4 月～

ヨーロッパ心臓学会 Fellow of the European Society of Cardiology (FESC ヨーロッパ心臓学会特別会員) 2017 年 4 月～

日本循環器学会 日本循環器学会 予防委員会 委員 2017 年 4 月～

日本循環器学会 Circulation Report（日本循環器学会）編集委員 2018 年 4 月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院・循環器内科 准教授 2012 年 4 月～

学内 東北大学大学院・医学系研究科・病態生理情報学分野 准教授 2012 年 4 月～

学内 東北大学大学院・情報科学研究科 准教授 2012 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

日本循環器学会 禁煙推進委員会委員

日本循環器学会 予防委員会 委員

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会（JSPS）審査委員 2014 年 12 月～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2016 年 4 月～

二宮 匡史（助教）

〔論文〕

（共著）「"Acute-onset Autoimmune Hepatitis in a Young Woman with Type 1 Diabetes Mellitus."」 『"Internal medicine (Tokyo, Japan)"』 57 巻 11 号 1591-1596 2018 年 6 月

- (共著) 「"Inhibitory effect of silibinin on hepatitis B virus entry."」 『Biochemistry and biophysics reports』 14 巻 20-25 2018 年 7 月
- (共著) 「"Cellular Membrane Trafficking Machineries Used by the Hepatitis Viruses."」 『Hepatology (Baltimore, Md.)』 68 巻 2 号 751-762 2018 年 8 月
- (共著) 「"The profiling of plasma free amino acids and the relationship between serum albumin and plasma-branched chain amino acids in chronic liver disease: a single-center retrospective study."」 『Journal of gastroenterology』 53 巻 8 号 978-988 2018 年 8 月

高舘 達之 (助教)

【論文】

- (共著) 「"Diagnostic and Prognostic Impact of Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas With High-Grade Dysplasia and Associated Invasive Carcinoma."」 『Pancreas』 48 巻 99-106 2019 年
- (共著) 「"Laparoscopic partial liver resection improves the short-term outcomes compared to open surgery for liver tumors in the posterosuperior segments."」 『Surg Today』 49 巻 214-223 2019 年
- (共著) 「"A novel liver metastasis-correlated protein of pancreatic neuroendocrine neoplasm (PanNEN) discovered by proteomic analysis."」 『Oncotarget』 9 巻 24291-24303 2018 年

【総説・解説記事】

- (共著) 「"【R0 切除をめざした胆管癌の術前・術中・術後における診断・治療の工夫】 胆道癌に対する術後補助療法の意義と適応"」 『胆と膵』 39 巻 7 号 647-651 2018 年 7 月
- (共著) 「"【膵癌に挑む】 切除可能膵癌に対する術前治療"」 『胆と膵』 41 巻 6 号 647-651 2018 年 5 月
- (共著) 「"【膵全摘術を考える】 膵癌に対する膵全摘術の適応と成績"」 『胆と膵』 40 巻 1 号 11-16 2019 年 1 月
- (共著) 「"化学放射線療法と肝動脈血流変化により切除し得た局所進行切除不能膵頭部癌の 1 例"」 『癌と化学療法』 45 巻 13 号 2309-2311 2018 年 12 月
- (共著) 「"【胆道癌の薬物療法:Up-to-Date】 切除可能胆道癌に対する術前補助療法"」 『胆と膵』 39 巻 10 号 881-885 2018 年 10 月
- (共著) 「"【エビデンスからみた治療リスクの評価】 膵癌治療におけるリスクと対応 膵癌治療におけるリスク評価と治療法選択"」 『外科』 80 巻 10 号 1031-1034 2018 年 9 月
- (共著) 「"【ここまで来た ナビゲーション手術】 肝門部領域胆管癌に対する術前シミュレーションと術中応用"」 『消化器外科』 41 巻 9 号 1305-1315 2018 年 8 月

【会議の発表・講演】

- 「腹腔鏡下肝切除術の定型化に向けたチームでの取り組み」 口頭 (一般): 第 31 回日本内視鏡外科学会総会 2018 年 12 月
- 「腹膜播種の診断と治療の工夫 膵癌に対する審査腹腔鏡の有効性」 口頭 (一般): 第 73 回日本消化器外科学会総会 2018 年 7 月
- 「膵粘液性嚢胞腫瘍(MCN)の治療戦略の検討..」 口頭 (一般): 第 49 回日本膵臓学会大会 2018 年 6 月
- 「Indication of staging laparoscopy for pancreatic cancer.」 口頭 (一般): 第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会 2018 年 6 月
- 「膵癌に対する審査腹腔鏡の適応」 口頭 (一般): 第 13 回膵癌術前治療研究会 2018 年 10 月
- 「技術認定医取得に向けた教育と取り組み..」 口頭 (一般): 第 10 回膵臓内視鏡外科研究会 2018 年 11 月
- 「胆嚢腫瘍に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応」 口頭 (一般): 第 8 回腹腔鏡下胆道手術研究会 2019 年 2 月

北 浩樹 (助教)

【専門分野】

社会系歯学

【その他教育上に関する活動】

- (教科書・教材の開発) デジタルサイネージを用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用
- 健康科学講演会「学生と薬物乱用」

【論文】

- (共著) 「メディア上の潰瘍性大腸炎一新聞報道の検証一」 『東北大学高度教育・学生支援機構紀要』 4 巻 315-322 2018 年

【会議の発表・講演】

- 「入学試験時における感染症罹患受験生の対応について」 口頭 (一般): 第 56 回全国保健管理研究会東北地方研究会 2018 年 7 月
- 「近年における大学での大麻関連事例 ―最近 5 年間の新聞報道より―」 ポスター (一般): 第 56 回全国大学保健管理研究会 2018 年 10 月

【共同研究活動】

大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究 研究相手先: 国内 2016 年 1 月～

【科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)】

基盤研究(C) メディア上にみられるクローン病に関する医療情報の質の評価 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

【学内活動】

部局内委員会 施設整備委員会 2014 年 4 月～

その他の主要活動 保健管理センターにおける医療業務 1997 年 4 月～

〔学内教職員支援〕

2019年01月 講師 高度教養教育・学生支援機構PDプログラム 健康教育W-4【PDP】健康科学セミナー「薬物乱用事件と大学」（講師）

〔プロジェクト活動〕

学生健診を基盤とした共有型ライフロングPHRの構築と利活用促進のための標準化モデル創出に関する研究班

〔学会活動および外部機関における活動〕

全国大学保健管理協会 「大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究班」 2016年1月～

〔学外の社会活動〕

仙台市教育委員会「仙台自分づくり教育」（キャリア教育）

中西 渉（助教）

〔会議の発表・講演〕

「当科における原発性肝臓に対する肝切除の Enhanced Recovery After Surgery(ERAS)の効果についての検討..」 口頭（一般）：第118回日本外科学会定期学術総会 2018年4月

「Perioperative management and long-term prognosis after intraoperative massive bleeding in liver transplantation.」 口頭（一般）：第30回日本肝胆膵外科学会学術集会 2018年6月

「An analysis of energy expenditure by indirect calorimetry in the patients underwent hepatectomy.」 口頭（一般）：第73回日本消化器外科学会総会 2018年7月

「腎グラフトに生じた尿管癌に対して移植腎摘出した一例.」 口頭（一般）：第54回日本移植学会総会 2018年10月

沼倉 忠久（助教）

〔専門分野〕

呼吸器内科学

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2018年度 大学院学生（博士課程医・歯学履修課程） 口頭発表件数:1件 論文発表件数:1件 学会発表件数:1件 国際会議発表件数:1件

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

第92回閉塞性肺疾患研究会 優秀演題賞: 閉塞性肺疾患研究会 2018年7月4日

〔論文〕

（共著）「"Physical inactivity is associated with decreased growth differentiation factor 11 in chronic obstructive pulmonary disease."」 『International journal of chronic obstructive pulmonary disease』 13巻 1333-1342 2018年

（共著）「"The first case of multiple pulmonary granulomas with amyloid deposition in a dental technician; a rare manifestation as an occupational lung disease."」 『BMC pulmonary medicine』 18巻 1号 77-2018年5月

（共著）「"Correction to: Oxidative stress enhances the expression of IL-33 in human airway epithelial cells."」 『Respiratory research』 19巻 1号 116-2018年6月

〔会議の発表・講演〕

「Production of Reactive Persulfide Species and Their Effects in the Lungs of Patients with COPD」 口頭（一般）：米国胸部疾患学会 2018年5月

〔総説・解説記事〕

（共著）「ヒト気道上皮細胞のIL-33発現に対する酸化ストレスの影響の検討」 『アレルギー』 67巻 4-5号 564-564 2018年5月

（共著）「"ニトロ化ストレス,活性硫黄種に着目した COPD 合併喘息(ACO)の病態解明に関する検討"」 『アレルギー』 67巻 4-5号 576-576 2018年5月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 若手研究 新規抗酸化分子：活性イオウ分子種に着目した慢性閉塞性肺疾患の抗酸化機構の解明 2018年4月～2021年3月 代表者

〔学内教職員支援〕

病棟看護師対象の講義（講師）

山本 沙織（助教）

〔論文〕

（共著）「"Clinical diversity in patients with Anderson-Fabry Disease with the R301Q mutation."」 『"Intern Med."』 58巻 603-607 2019年2月

〔会議の発表・講演〕

「"Meaningfulness of regional wall thickening pattern for a diagnosis of cardiac diseases with left ventricular hypertrophy"」 口頭（一般）：第83回日本循環器学会学術集会 2019年3月

江口 怜 (助教)

〔専門分野〕

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ「共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント」 前期

全学教育 基幹科目「社会の構造」(東日本大震災からみる現代日本社会) 前期

全学教育 課題解決型 (PBL) 演習 A「福島における人権保障と共生の課題—原発事故後を生きる人々に寄り添う」 後期

全学教育 基幹科目「社会の構造」(東日本大震災からみる現代日本社会) 後期

〔その他教育上に関する活動〕

〔教育方針の実践例〕東北大学内の高度教養教育開発推進事業に「多様な他者との共生に向けた現代的教養の育成に資する人権教育プログラムの開発」が採択され、「サービス・ラーニングを通じた人権教育」の開発を行う。2016年10月から正課外の人権啓発プログラム(連続講座等)を実施し、2017年4月からは初年次教育として貧困者、障害者、外国人、義務教育未修了者等を対象とするボランティア活動に参加して人権課題を学ぶ体験型の授業(基礎ゼミ)および福島第一原発事故の避難者支援に取り組む授業(展開ゼミ)、東日本大震災に関わるオムニバス講義の授業(基幹科目「社会の構造」)を実施中である。なお、2016年度は所属する東北大学課外・ボランティア活動支援センター教員が開講する東日本大震災被災地をフィールドとするサービス・ラーニング科目の授業(全学教育)に参加し、一部指導を担当した。仙台市内の災害公営住宅にて被災者(特に高齢者・子ども)を対象とするイベントの開催について、学生が団地自治会や連携NPO等とアポイントを取りながら企画を実施するまでの一連の活動について支援し、適宜必要な知識を提供した。

〔学友会・同好会等の指導〕正課外のボランティア活動支援において、ボランティア支援学生スタッフの育成及び、ボランティア登録団体の支援等を行った。これは実質的に正課外教育の性質をもつものであり、例えば被災者等への対人援助の方法論やハラスメント防止・人権擁護等に関する研修会を担当した。また、ボランティア活動の対象となる地域の課題や各種の人権課題に関して正課外で学ぶ学習会の組織化や、フィールドでの引率指導等を行った。いずれも対象は全学の学生(院生含む)である。

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

若手研究(スタートアップ) 戦後日本の社会変動とマイノリティ教育の研究—1970年代以降の夜間中学に着目して 2016年9月～代表者

若手研究(B) 1970～80年代の夜間中学におけるマイノリティ教育実践の歴史的研究 2018年4月～2022年3月 代表者

〔兼務、兼業など〕

学外 文部科学省 夜間中学の設置促進・充実委員会 委員 2018年4月～2019年3月

IV 資 料 編

1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第4回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」(平成31年1-3月)

- ・平成30年度学部卒業生・大学院修了生の4,712名(学部卒業生2,447名・大学院修了生2,265名)を対象に調査を実施(紙媒体による回答)
- ・有効回答数3,124名, 有効回答率66.3%

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○高度な英語能力養成を目指す全学教育科目「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講

- ・開講クラス数: 前期3クラス, 後期3クラス, 計6クラス
- ・受講者数: 前期後期計105名

○英会話支援プログラムの開発・推進

- ・学習支援センターでの「英会話カフェ」「1on1英会話」の実施

○国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講実績(H26~H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
開講クラス数	6	6	6	6	6
受講者数(人)	69	68	70	119	105

表2-2 「英会話カフェ」「1on1英会話」利用者数(H26~H30)(単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30
延べ利用者数	698	651	518	486	489

表2-3 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績(H27~H30)

		H27	H28	H29	H30
開講クラス数		各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2
受講者数(学期内)(人)		計380	計306	計312	計267
受講者数(集中)(人)		計15	計126	計127	計113

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○ディシプリンにとらわれることのない意識の涵養

- ・全学教育科目・カレントトピックス科目「遊学」の実施(受講者7名, 授業評価アンケート「総合評価」4.7)

○多角的な視野を育成するための科学教育(文・理教員および外国人教員協働講義)の推進

- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学」(受講者51名, 授業評価アンケート「総合評価」4.4)
- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「【展開ゼミ】あなたの選択: 事例で考える学びと研究における倫理」の実施(受講者9名, 授業評価アンケート「総合評価」5.0): 研究倫理関連科目

- 「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展
 - ・全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」「英語による自然科学総合実験（国際学士コース）の充実
 - ・受講者数：計 1,625 名
 - ・自然科学総合実験実施委員会：年 4 回程度開催
 - ・理科実験スタッフミーティング：毎週開催
 - ・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス：セメスター開始前に開催
 - ・自然科学総合実験受講学生ガイダンス及びレポート作成演習：第 1・8 回の授業時に開催
 - ・レポート達成度指標とそのチェックシートの導入による全レポート評価の実施
 - ・ISTU を利用して全ての受講者にコメント付きのチェックシートを電子返却した
- 専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育
 - ・全学教育科目・基礎ゼミ「社会の中の科学技術」の実施（受講者 7 名，授業評価アンケート「総合評価」5.0）：科学技術社会論関連科目
 - ・全学教育科目・基礎ゼミ「フィクションで正義を考える」の実施（受講者 20 名，授業評価アンケート「総合評価」5.0）
- 多様な「知」を大学教育の場面に導入
 - ・連続セミナー・これからどうする「実践編」として，インフォグラフィックスや短歌の知を導入。合計 3 回開講し，のべ 76 名の参加者を受け入れた。
- 移転可能スキル（Transferable Skills）の修得（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
 - ・全学教育科目・基礎科目・人間と文化「【展開ゼミ】汎用的技能ワークショップ：認知的能力」の実施（受講者 10 名，授業評価アンケート「総合評価」5.0）
- 高度教養教育の共通科目化（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
 - ・全学教育科目・「みせる学び：大学で何を学んだの？どう役に立つの？」の実施（受講者 5 名，授業評価アンケート「総合評価」5.0）（学部 3～4 年生対象の高年次教養教育科目）

表 3－1 自然科学総合実験受講者数（H27～H29）（単位：人）

	H27	H28	H29	H30
理科系クラス	1,643	1,567	1,544	1,596
文科系クラス	49	49	54	20
国際学士コース	23	26	30	29
計	1,715	1,642	1,623	1,645

（４）多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

- 国際共修ゼミ（日本語クラス／英語クラス）の充実
 - ・日本語クラス：34 クラス，延べ受講者数：778 名（内訳：日本人学生 393 名，留学生 385 名）

表 4－1 国際共修ゼミ開講クラス数（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
日本語クラス	25	24	28	32	34

表4-2 国際共修ゼミ（日本語）受講者数（H26～H30）（単位：人）

	H26	H27	H28	H29	H30
日本人学生	486	286	362	433	393
外国人留学生	319	359	413	421	385
計	805	645	775	854	778

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラムにおける学生ボランティア

表4-3 東北大学サマープログラムボランティア学生数（H26～H30）（単位：人）

	H26	H27	H28	H29	H30
TUJP	44	53	55	51（採用数）	33
TSSP	21	17	※効率的運営 のため共通化	TSSP 実施せず	5
計	65	70			38

（5）留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

- 中国清華大学、国立応用科学院リヨン校、フランス国立中央理工科大学、スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

- ・受入学生数：10名、派遣学生数：2名

- 国際学士コース（理学部先端物質科学コース、工学部国際機械工学コース、農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施

- ・志願者数：130名、合格者数：31名、入学者数：24名

○交換留学生の受入れ促進

- ・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム）、IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム）、COLABS（研究型短期留学生受入プログラム）、DEEP（直接配置型受入プログラム）の実施
- DEEP-Bridge（人文・社会科学直接配置型短期留学生受入プログラム）の実施

○短期研修プログラムの整備

- ・東北大学サマープログラム、夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

○外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施

- ・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期27名、後期7名
- ・日韓共同理工系学部留学生プログラムの研修生数：6名

○外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施

- ・受講者数：前期375名、後期471名

表5-1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（H26～H30）（単位：人）

	H26	H27	H28	H29	H30
受入学生数	8	6	6	3	10
派遣学生数	2	3	0	2	2

表 5-2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数 (H26~H30) (単位: 人)

	H26	H27	H28	H29	H30
JYPE	72	80	78	56	50
IPLA	46	58	74	62	29
COLABS	33	43	54	35	60
DEEP	49	51	36	17	10
DEEP-Bridge	—	—	40	53	27

表 5-3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数 (H26~H30) (単位: 人)

	H26	H27	H28	H29	H30
TUJP	18	55	56	58	53
TSSP	24	31	23	実施せず	22
日本語・日本文化研修プログラム	23	17	11	11	9

*H29 年度はワシントン大学学生 16 名を対象とした理工学特別サマープログラムを実施。

表 5-4 外国人留学生日本語研修コース (国費留学生対象短期集中プログラム) 研修生数 (H26~H30) (単位: 人)

	H26	H27	H28	H29	H30
日本語研修コース (前期)	21	16	30	19	27
日本語研修コース (後期)	8	8	4	8	7
日韓共同理工系学部留学生プログラム	7	7	7	7	6

表 5-5 外国人留学生等特別課程 (日本語) の受講者数 (H26~H30) (単位: 人)

	H26	H27	H28	H29	H30
外国人留学生等特別課程 (前期)	281	324	390	366	375
外国人留学生等特別課程 (後期)	423	532	481	513	471

②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム (SAP), ファカルティレッドプログラム (FL) の開発・実施

・SAP: プログラム数 15, 派遣者数 273 名

・FL: プログラム数: 7, 派遣者数 110 名

○多様な派遣プログラムの開発・実施

・研究型海外研鑽プログラム: 派遣者数 23 名, 入学前海外派遣プログラム: 派遣者数 33 名

○東北大学グローバルリーダー (TGL) 育成プログラムの推進

・登録者数: 3,007 名, 指定科目: 340 科目, TGL 修了者: 44 名, グローバルリーダー認定者: 27 名

表 5-6 SAP, FL 実施状況 (H26~H30)

		H26	H27	H28	H29	H30
SAP	プログラム数	18	18	18	17	15
	派遣者数 (単位: 人)	285	297	330	288	273
FL	プログラム数			3	5	7
	派遣者数 (単位: 人)			44	74	110

表 5-7 TGL プログラム実施状況 (H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
登録者数 (単位：人)	1,322	2,091	2,562	2,873	3,007
指定科目数	224	329	391	323	340
TGL プログラム修了者数 (単位：人)	3	13	19	43	44
グローバルリーダー認定者数 (単位：人)	6	16	14	17	27

(6) 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

①学習支援 (学習支援センター)

○SLA 並びに教員による学習支援活動

- ・理系支援担当 SLA (前期 18 名・後期 22 名) による個別対応型学習支援：延べ 729 名
- ・英会話支援担当 SLA (前期 6 名・後期 6 名) による個別対応・企画発信型学習支援：延べ 489 名
- ・ライティング支援担当 SLA (前期 3 名・後期 3 名) による個別対応型学習支援：延べ 52 名
- ・企画担当 SLA (前期 5 名・後期 8 名) による学習企画・イベント実施：計 60 回、参加者延べ 198 名
- ・センター教員および SLA による「レポート指南書入門ゼミ」実施：計 30 回、参加者延べ 262 名
- ・センター教員および SLA による統計ゼミ実施：計 10 回、参加者延べ 61 名
- ・自主ゼミ支援：登録ゼミ数 7, 名簿登録学生数 141 名, 教室貸出回数 45 回

表 6-1 理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績 (H26～H30) (単位：人)

	H26	H27	H28	H29	H30
延べ人数	2,803	2,331	1,767	800	729
実数	583	517	356	240	224
窓口開設コマ数	127	126	112	68	52

表 6-2 英会話支援担当 SLA による個別対応・企画発信型学習支援実績 (H26～H30) (単位：人)

	H26	H27	H28	H29	H30
延べ人数	698	651	518	472	489
実数	196	150	130	111	73

②学生相談・援助活動 (学生相談・特別支援センター)

○相談・援助・予防活動及び全学的支援体制の構築

- ・学生相談所における個別支援 (出張カウンセリング含む)：来談者数 822 名, 対応回数 5,521 回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 28 件, 対応回数 131 回
- ・特別支援室 (H26.4 設置) での障害のある学生, 学生と関わる教職員等への専門的支援
：来談者 133 名, 対応回数 1,974 回
- ・特別支援室学生サポーター：登録人数 29 名
- ・学生相談・特別支援等に関する FD：15 回 (学生生活支援審議会 FD：4 回, 部局 FD：11 回)
- ・星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 15 名, 相談回数 85 回

表 6－3 学生相談における来談者数（H26～H30）（単位：人）

		H26	H27	H28	H29	H30
学生相談・特別支援センター		748	677	775	808	955
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	743	665	729	744	822
	特別支援室	39	43	81	132	133
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		10	20	24	13	28
計		758	697	799	821	983

表 6－4 学生相談における相談回数（H26～H30）（単位：回）

		H26	H27	H28	H29	H30
学生相談・特別支援センター		3,929	4,461	6,144	7,368	7,495
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	3,913	2,992	4,370	5,415	5,521
	特別支援室	446	1,618	1,997	2,266	1,974
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		97	107	95	36	131
計		4,026	4,568	6,239	7,404	7,626

表 6－5 FD 等の実施回数（H26～H30）（単位：回）

	H26	H27	H28	H29	H30
FD・SD（学生支援審議会 FD、部局 FD を含む）	18	14	17	16	15
部局と連携した学生対象の講演	5	6	8	8	7
部局新生オリエンテーション等	19	18	17	19	23
計	42	38	42	43	41

○新入生を含む全学生を対象とした、大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施と個別支援

表 6－6 全学生対象調査（震災の心身への影響）の概要（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
回答者数（人）	10,713	10,488	10,979	11,108	10,745
回収率	59.5%	58.3%	61.0%	61.7%	59.7%
PTSD ハイリスク群（人）	415	346	393	315	250
PTSD ハイリスク群の割合	4.0%	3.4%	3.9%	3.2%	2.7%
個別働き掛けに基づく来談者（人）	3	1	39	16	15

※H27 までは、メールでの情報提供（注意喚起と相談窓口案内）のみ。H28 以降は、スタッフ増員に伴い、個別支援を充実させ、相談の呼びかけを実施。

表 6－7 全学生対象調査（学部新生の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
回答者数（人）	2,346	2,325	2,239	2,292	2,319
適応ハイリスク群（人）	140	151	169	168	152
個別面接実施者数（人）	32	27	31	29	40

表 6－8 全学生対象調査（学部 2 年生以上の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
回答者数（人）	8,181	8,005	8,488	8,816	8,426
適応ハイリスク群（人）	351	382	338	376	383
個別面接実施者数（人）	—	—	43	34	37

※H27 までは、新入生の不適応ハイリスク群に対してのみ個別働き掛けを実施。H28 以降はスタッフ増員に伴い、学部 2 年生以上の不適応ハイリスク群へも個別の働きかけを実施。

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

○各種健康診断事業、診療及び日常の健康相談

- ・学生定期健康診断：受診者数 13,488 名（受診率 74.4 %）
- ・学生特殊健康診断：受診者数 6,777 名
- ・秋胸部レントゲン検診：受診者数 425 名
- ・診療及び日常の健康相談：受診者数 4,176 名

表 6－9 学生定期健康診断受診者数および受診率（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
受診者数（人）	13,447	13,443	13,640	13,769	13,488
受診率	75.3%	75.2%	75.4%	75.5%	74.4%

表 6－10 各種健康診断、診療及び日常の健康相談受診者数（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
学生特殊健康診断（人）	7,110	7,145	6,946	6,823	6,777
結核健診（学生ツベルクリン反応検査） →秋季胸部 X 線検診（H28 より変更）（人）	636	544	244	351	425
診療及び日常の健康相談 （学生及び職員）（人）	4,323	4,170	4,236	4,721	4,176
診断書・証明書等の発行（枚）	2,200	2,353	1,992	2,147	1,914

○健康に関する講演会等の開催

- ・健康科学講演会（学生対象）：年 1 回
- ・健康科学セミナー（教職員対象）：年 5 回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

○全学教育科目でキャリア教育科目開講

- ・開講科目数：7 科目，受講者数：146 名

○進路形成のための各種支援プログラム実施

- ・事業件数：23 件，開催回数：64 回
- ・参加者数：学部学生延べ 2,781 名，大学院学生延べ 4,620 名，その他既卒者等延べ 32 名，計 7,433 名

○進路や就職に関する個別相談

- ・対応件数（川内）：学部学生 1,129 件，大学院学生 1,524 件，その他既卒者等 44 件，計 2,697 件
- ・対応件数（青葉山）：大学院学生 278 件，その他既卒者等 26 件，計 304 件

表 6-1-1 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数 (H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
開講科目数	4	6	6	7	7
受講者数 (人)	91	103	91	133	146

表 6-1-2 進路形成のための各種支援プログラム事業件数, 開催回数および延べ参加者数 (H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
事業件数	33	36	31	28	23
開催回数	67	106	60	57	64
延べ参加者数 (人)	10,326	12,865	11,813	9,531	7,433

表 6-1-3 進路や就職に関する個別相談対応件数 (H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
対応件数	1,832	3,179	3,672	3,600	3,001

⑤課外活動支援 (課外・ボランティア活動支援センター)

○東日本大震災およびボランティア関連の授業の提供

- ・実施授業数・受講学生および評価：6 科目・7 コマ (14 単位), 受講学生 73 名, 全授業の評価平均 4.52

○学生ボランティア活動の支援

- ・ボランティアツアー等の実施：47 回開催, 本学学生参加者数 548 名
- ・学生ボランティア団体の被災地での活動：86 回実施, 本学学生参加者数 634 名
- ・留学生対象の被災地ツアーの実施：3 回開催, 本学学生参加者数 60 名, 内留学生 30 名

表 6-1-4 ボランティアツアーや被災地での学生ボランティア活動回数及び延べ参加学生数 (H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
開催回数	42	49	66	108	142
延べ参加学生数 (人)	550	713	664	1,062	1,240

○ボランティア活動紹介イベントの開催

- ・ボランティア・フェアの実施：3 シーズン・12 日間開催, 本学学生参加者数 342 名

表 6-1-5 ボランティア・フェア (旧スタートアップ・フェア) の開催日数及び参加学生数 (H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
開催日数	13	11	16	13	12
延べ参加学生数 (人)	297	297	290	282	342

○震災関係以外のボランティア体験プログラムの実施

- ・「子供の貧困解決に向けた取組に学ぶボランティア体験プログラム」本学学生参加者数 15 名

○熊本地震被災地および緊急災害支援ボランティア活動の支援

- ・熊本地震被災地での支援活動の実施：2 回開催, 本学学生参加者数 15 名
- ・大阪北部地震に伴う現地派遣：2 回, 本学学生参加者数 4 名
- ・西日本豪雨災害に伴う広島派遣：6 回, 本学学生参加者数 24 名
- ・北海道胆振東部地震に伴う現地派遣：1 回, 本学学生参加者数 2 名

○学生スタッフの育成・支援

- ・ボランティア支援学生スタッフの登録者数：70名
- ・学生スタッフ説明会の開催：3回開催
- ・学生スタッフ対象の研修合宿等の開催：研修合宿3回、震災伝承にかかわるツアー3回、人権学習会8回

○学生ボランティア登録団体の支援

- ・登録団体数：11団体
- ・ボランティア団体連絡会議の開催：9回開催
- ・ボランティア団体交流会の開催：1回開催
- ・ボランティア団体の助成金取得数：7件

○ボランティア団体に所属する学生への研修会の実施

- ・課外・ボランティア活動研修会の開催：5回開催、本学学生参加者数97名

○学生ボランティアの学内外での成果報告機会の提供

- ・東北学院大学シンポジウム「災害の時代と大学、そしてボランティア」

○課外活動団体の支援

- ・課外活動団体リーダー層対象の合同研修会の開催：3回開催、本学学生参加者数26名
- ・瀧澤理事との意見交換会：3回開催、本学学生参加者数14名
- ・学友会登録団体数：189団体（約10,000名登録）

○国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携

- ・国外大学生の受け入れ：1校
- ・国内大学生の受け入れ：11校
- ・国内高校生の受け入れ：6高校、高校生73名、交流に参加した本学学生数19名

（7）東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オープンキャンパス：7月31日、8月1日の2日間実施、参加者数68,228名
- ・高校生対象の進学説明会：参加者数（札幌）398名、（静岡）272名、（東京）1,045名、（大阪）269名、（福岡）43名
- ・高校教員対象の入試説明会の開催：21会場、486名参加
- ・高校及び民間業者主催の入試説明会・相談会への参加：15会場

表7-1 オープンキャンパス参加者数（H26～H30）（単位：人）

	H26	H27	H28	H29	H30
参加者数	55,147	60,411	64,448	65,958	68,228

表7-2 高校生対象の進学説明会参加者数（H26～H30）（単位：人）

	H26	H27	H28	H29	H30
札幌会場	317	369	291	428	398
静岡会場			285	273	272
東京会場	697	778	732	823	1,045
大阪会場	133	173	232	209	269

福岡会場（工学部主催）					43
-------------	--	--	--	--	----

表 7-3 高校教員対象の入試説明会の開催実績（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
会場数	18	20	20	21	21
参加者数（人）	480	526	498	552	486

（８）教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：56回，参加者数：2,469名，受講満足度（全体）：3.59/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数：79，動画閲覧数：20,850件（動画アクセス数：88,528件）

○海外大学と連携したプログラム開発

- ・STEM（科学・技術・工学・数学）分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた教育研究（DBER: Discipline-Based Education Research）の発展及びその実践的・実証的知見に基づく組織的な教育改革を主導してきたカール・ワイマン氏（スタンフォード大学教授。2001年ノーベル物理学賞受賞者）、並びに、DBERのエビデンスに基づく教授法を大学全体・全学科で導入しようという非常に野心的な教育戦略を推進しているインペリアル・カレッジ・ロンドンのマーティン・キングスベリー氏（高等教育研究センター長、教授）を招聘し、国際シンポジウム及びQ&Aセッションを開催した。
- ・履修証明プログラムにおける海外調査：履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム」の海外調査として、カナダのクィーンズ大学へ受講生7名を派遣し、参加者全員が有意義であった（満足度：4.00/4.00）との回答を得た。
- ・スタンフォード大学カール・ワイマン教授（2001年ノーベル物理学賞受賞者）、イギリス・インペリアルカレッジロンドンのマーティン・キングスベリー教授を招聘し、理数教科目のアクティブラーニングの導入に関する国際シンポジウムを開催した。

○大学マネジメント力開発プログラム

- ・提供セミナー数：5回，参加機関：77機関，参加者数：248名（内、東北大学99名，他大学149名）

表 8-1 専門性開発セミナー開催実績（H26～H30）

	H26	H27	H28	H29	H30
提供セミナー数	49	52	51	59	56
内、高等教育のリテラシー形成関連	16	10	11	9	7
専門教育での指導力形成関連	3	10	6	15	5
学生支援力形成関連	2	1	2	2	6
マネジメント力形成関連	7	11	10	14	14
その他	18	20	22	19	24
参加者数（人）	1,888	2,237	2,284	2,742	2,469

表8-2 セミナー動画のオンライン配信動画数及び閲覧数(H26～H30)

	H26	H27	H28	H29	H30
提供動画数	26	36	49	76	79
内、高等教育のリテラシー形成関連	14	18	21	22	22
専門教育での指導力形成関連	4	4	7	14	14
学生支援力形成関連	1	4	4	11	11
マネジメント力形成関連	5	10	17	23	26
その他	2	0	0	6	6
動画閲覧数 (アクセス数)	11,854	14,533 (25,702)	13,973 (41,570)	21,823 (90,833)	20,850 (88,528)

2. 外部資金獲得状況

(単位: 千円)

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄 附 金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 30 年度	91	103,977	4	1,577	1	0	4	1,876

※科学研究費補助金, 受託研究, 共同研究は, 直接経費と間接経費の合計額である。また, 他大学からの分担金を含めている。

3. 共同研究員受入状況

氏 名	研 究 課 題	研 究 期 間	本務先の所属・職	受入教員
鳥居 朋子	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成30年4月1日～平成31年3月31日	立命館大学教育開発推進機構・教授	大森教授
丸山 和昭	大学教員のキャリアと専門性開発に関する研究	平成30年4月1日～平成31年3月31日	名古屋大学高等教育研究センター・准教授	大森教授
中島 夏子	「大学教員準備プログラム(PFFP)」および「新任教員プログラム(NFP)」の開発	平成30年4月1日～平成31年3月31日	東北工業大学教職課程センター・講師	大森教授
川井 一枝	「大学教員準備プログラム(PFFP)」および「新任教員プログラム(NFP)」の開発	平成30年4月1日～平成31年3月31日	宮城大学基盤教育群・准教授	大森教授
鈴木 学	「大学教員準備プログラム(PFFP)」および「新任教員プログラム(NFP)」の開発	平成30年4月1日～平成31年3月31日	福島大学総合教育研究センター・特任准教授	大森教授
佐俣 紀仁	「大学教員準備プログラム(PFFP)」および「新任教員プログラム(NFP)」の開発	平成30年4月1日～平成31年3月31日	東北医科薬科大学薬学部教養教育センター・講師	大森教授
関沢 和泉	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成30年4月1日～平成31年3月31日	東日本国際大学東洋思想研究所・准教授	大森教授
橘 雅彦	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成30年4月1日～平成31年3月31日	芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター・特任教授	大森教授

Sophie Arkoudis (ソフィー アー コウデイス)	Cross-Cultural Understanding and the Internationalization of Curriculum and Teaching in Higher Education	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	Associate Professor in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	大森教授
Chi Baik (チ バック)	The Professional Development of Faculty for Academic Excellence	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	Lecturer in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	大森教授
Linda von Hoene (リンダ ヴォン ヘーネ)	Developing of PFFP, and review and assess the program developed by the Center for Professional Development	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	Director, GSI Teaching and Resource Center, University of California, Berkeley	大森教授

4. 研究業績による受賞

氏 名	概 要
松河 秀哉 講師	日本教育工学会論文賞 授与機関:日本教育工学会 2018年9月
菅谷 奈津恵 准教授	佐々木嘉則賞 授与機関:第二言語習得研究会 2018年12月
趙 秀敏 講師	ICBIR 2018 Outstanding Paper Award 授与機関:IEEE[Institute of Electrical and Electronics Engineers] 2018年5月
岡 壽崇 助教	Young Scientist Poster Prize 授与機関:EPRBioDose2018 International Conference 2018年6月
佐藤 公雄 准教授	Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB) 授与機関:アメリカ心臓協会 (AHA) 2018年11月
佐藤 公雄 准教授	Top Reviewers for Circulation Research (Platinum Reviewers) (AHA) 授与機関:アメリカ心臓協会 (AHA) 2018年11月

5. 規程類

(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規 第 26 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、東北大学（以下「本学」という。）の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に、次の職及び職員を置く。

機構長
副機構長
部門長
院長
教授
准教授
講師
助教
助手
総長特命教授
技術職員
その他の職員

2 前項に定めるもののうち、別に定めるものは、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は、機構の業務を掌理する。

2 機構長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし、機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は、第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は、本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は、次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(部門、教養教育院等)

第8条 本機構に、高等教育開発部門、教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室

高等教育開発室
国際化教育開発室
キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室
自然科学教育開発室
言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室
臨床医学開発室
(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、次に掲げる業務センターを置く。

教育評価分析センター
大学教育支援センター
入試センター
言語・文化教育センター
グローバルラーニングセンター
学際融合教育推進センター
学習支援センター
キャリア支援センター
学生相談・特別支援センター
保健管理センター
課外・ボランティア活動支援センター

2 保健管理センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前二項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程（平成16年規第311号）及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程（平成17年規第93号）は、廃止する。

附 則(平成29年3月28日規第29号改正)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

一 センター長

二 副センター長

三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。

3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授（任期又は期間を定めて雇用される者を除く。）をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

4 センター長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成29年1月19日改正）

この内規は、平成29年1月19日から施行する。

附 則（平成29年3月23日改正）

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析、追跡調査等）、入試業務（センター試験、一般入試等）、入試広報（各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等）、高大接続事業（オープンキャンパス支援、講演会／シンポジウム／フォーラム、アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。

	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を発議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところ

ろによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定有期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(4)東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 教育研究評議会評議員

二 各部門長

三 教養教育院長

四 業務センターの各センター長

五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第12条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議（以下「高度教養教育諮問会議」という。）の組織及び運営について定める。

(組織)

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

(委員の範囲)

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生（以下「学生」という。）並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

(議長及び副議長)

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

(開催)

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

(委嘱)

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員（以下「受入れ教員」という。）から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

(遵守遂行)

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 専門研究員には、給与を支給しない。

3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。

5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当てする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月19日改正）

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 機構共同研究員には、給与を支給しない。

3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

- 4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月19日改正）

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2018

発 行 2019年8月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University